宮城県文化財調査報告書第169集

下草古城跡ほか

平成8年3月

宮城県教育委員会

序　　文

宮城県では現在約5,600ケ所の遺跡が登録されています。これらの遺跡は、遠く旧石器時代に遡るものから、新しくは近世にいたる各時代のものがあり、いずれも私達の祖先の歴史を明らかにしてゆく上で欠くことができない貴重な情報を包含しております。このようなかけがえのない文化遺産を後世に伝えることは、私達にとって重要な責務であります。

近年においては、従来の開発優先に対する反省から、自然環境や文化財を大切にしようとする機運が高まりつつあることは、すでに多くの人々の知るところであります。こうした流れを反映するように、遺跡やそれを取り巻く環境を保存し、地域づくりの一環として積極的に整備活用してゆこうとする動きが各地に広がってきていることは、文化財保護思想の一層の普及・啓蒙につながるものであり、まさに歓迎すべきことといえましょう。

しかし、一方では絶えることのない開発行為により、遺跡の多くは依然として破壊され、消滅する危機にさらされているのも現実です。こうしたなかにあって、宮城県教育委員会では、常に遺跡の所在等について関係者への周知を図るとともに、開発工事とのかかわりが生じた際には、十分な協議・調整を重ね、可能な限りの保存に努めているところであります。

本書は、開発関係機関等との保存協議に基づき、平成７年度に国庫補助を得て実施した遺跡その他の発掘調査の成果を収録したものです。これらの成果が広く活用され、地域の歴史の解明に資するところとなれば望外の喜びであります。

最後に、遺跡の保存にご理解を示され、調査に際しては多大なるこ協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際に調査にあたられた皆様に対し、厚く御礼申し上げる次第であります。

平成8年3月

宮城県教育委員会教育長

鈴　鴨　清　美

目　　次

平成７年度発掘調査の概要 …… 1
下草古城跡 …… 3
町田遺跡 …… 91
栗原寺跡 …… 123
亀岡遺跡 …… 143
彦右衛門橋窯跡 …… 151
大針遺跡 …… 167

例　　言

1．本書は、宮城県が平成７年度に埋蔵文化財緊急調査費の国庫補助を得て、宮城県教育庁文化財保護課が担当して実施した発掘調査等の調査告書である。
2．各遺跡の発掘調査から調査報告書作成に至る一連の作業は、調査原因となった開発行為に関わる機関の依頼を受けて文化財保護課が行なったものである。
3．各遺跡の保存協議や発掘調査に当たっては、各開発担当部局や地元教育委員会から多大な協力をいただいた。
4．本書に使用した土色については、「新版標準土色帳（1973）」を参照した。
5．本書に各遺跡の位置図として掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の 1/25.000 の地形図を複製して使用した。
6．本書は調査員全員の協議を経て下記の者が執筆・編集した。

発掘調査の概要	真山　悟
下草古城跡	天野　順陽
町田遺跡	山田　晃弘
栗原寺跡	柬理　浩明
亀岡遺跡	柬理　浩明
彦右衛門橋窯跡	高橋　栄一
大針遺跡	笠原　俊哉

7．発掘調査で出土した遺物および調査記録類などは、宮城県教育委員会が保管している。

平成７年度発掘調査の概要

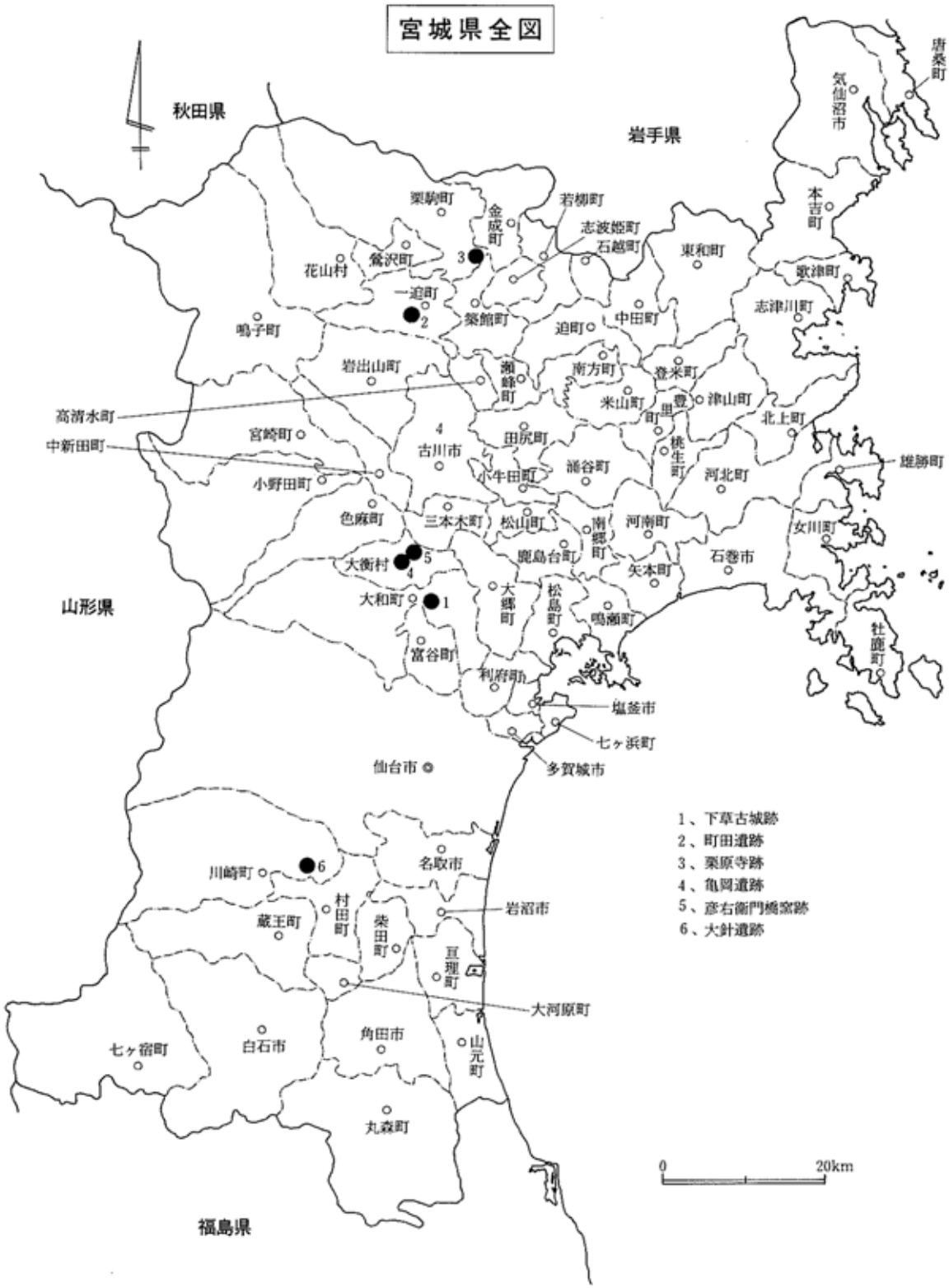
宮城県教育委員会が平成７年度に埋蔵文化財緊急調査費の国庫補助金(総事業費 8,000 千円、補助率 50%)を得て実施した発掘調査は２ケ所、分布調査は３地域である（表１）。

下草古城跡は黒川郡大和町鶴巣にある城跡で、伊達政宗の三男宗清が慶長 16（1611）年から元和２（1616）年にかけて居城したところとして知られている。沖積地に立地する平城で、現状は本丸および二ノ丸と伝えられる中枢部が一段高く残り、それらを区画する堀跡も明瞭に確認できる。本遺跡は昭和 63 年に県営ほ場整備事業とかかわりをもったが、協議の結果、重要部分である本丸および二ノ丸が計画から除外され、現状保存されることになった。このことを受け、宮城県教育委員会はその周囲の平坦地を対象に平成3年度から発掘調査を開始した。そしてこれまで17世紀初頭頃の町並みを中心に、古代や古墳時代の遺構も併せて検出している。今回の調査は第５次目にあたり、ほ場整備の道路・水路および面工事によって削平を受ける部分を対象に実施した。

このほか、国庫補助事業以外のものであるが、栗原寺跡ほか４遺跡の確認調査分も併せて収録している。このうち栗駒町西沢の谷合にある栗原寺跡は、農村公園整備に関連する調査で、古代の池跡が検出されている。一迫町大川口の丘陵にある町田遺跡は、農道建設に伴う調査で、縄文時代の遺物包含層が検出され、良好な前期の土器資料が出土した。大衡村駒場の丘陵にある彦右エ門橋窯跡は、集落道建設に伴う調査で、土壙が検出され、なかから須恵器の一括資料がえられた。川崎町支倉の丘陵にある大針遺跡は、一般開発に伴う調査で、縄文時代と考えられる陥し穴が検出さている。大衡村の台地上にある亀岡遺跡は、一般開発に伴うもので、古代の住居跡が検出された。

表１　平成７年度国庫補助事業一覧

No.	遺跡名	所在地	調査種類	事業種類	開発担当者
1	下草古城跡	黒川郡大和町鶴巣下草	事前調査	県営ほ場整備	仙台土地改良事務所
2	小森遺跡	宮城郡松島町高城	確認調査	住宅建築	個人
3	上代遺跡他	古川市他５町	分布調査	県営ほ場整備他	宮城県農政部
4	大門遺跡他	古川市他１市８町	分布調査	県営ほ場整備他	宮城県農政部
5	大嶺八幡遺跡	遠田郡田尻町大嶺	分布調査	農道整備	田尻町


宮城県全図
秋田県
岩手県
山形県
福島県
唐桑町
気仙沼市
本吉町
栗駒町
金成町
若柳町
志波姫町
石越町
東和町
歌津町
志津川町
花山村
鶯沢町
一迫町
築館町
追町
中田町
鳴子町
岩出山町
瀬峰町
南方町
登米町
米山町
豊里町
津山町
北上町
高清水町
中新田町
宮崎町
古川市
田尻町
桃生町
雄勝町
小野田町
小牛田町
涌谷町
河北町
色麻町
三本木町
松山町
南郷町
河南町
女川町
大衡村
鹿島台町
矢本町
石巻市
大和町
大郷町
松島町
鳴瀬町
富谷町
利府町
牡鹿町
塩釜市
七ヶ浜町
多賀城市
仙台市
川崎町
名取市
村田町
蔵王町
柴田町
岩沼市
亘理町
大河原町
七ヶ宿町
白石市
角田市
山元町
丸森町
0
20km
1、下草古城跡
2、町田遺跡
3、栗原寺跡
4、亀岡遺跡
5、彦右衛門橋窯跡
6、大針遺跡

下 草 古 城 跡

調 査 要 項

遺　跡　名：下草古城跡（しもくさこじょうあと）
　　宮城県遺跡地名表記載番号 23068
遺 跡 記 号：ＯＧ
遺跡所在地：宮城県黒川郡大和町鶴巣下草
調 査 原 因：県営圃場整備事業
面　　積：調査対象面積　6.770 ㎡。発掘調査面積　5.380 ㎡

	調査対象面積	発掘調査面積	備　　考
24区	2.720m²	2.720m²	
25区	250m²	250m²	確認調査
26区	1.520m²	390m²	確認調査
27区	750m²	490m²	確認調査
28区	620m²	620m²	
29区	910m²	910m²	
計	6.770m²	5.380m²	

調 査 期 間：平成 7 年（1995 年）4 月 13 日～10 月 25 日
調 査 主 体：宮城県教育委員会
調 査 担 当：宮城県教育庁文化財保護課
　　佐藤則之、山田晃弘、天野順陽、藤村博之、佐藤貴志
　　大和町教育委員会
　　藤井裕二、近藤　悟（5 月 24 日～7 月 31 日）
調 査 協 力：宮城県仙台土地改良事務所、大和東部土地改良区
調査参加者：小野寺岑男、斎藤永記、斎藤徹子、斎藤長男、斎藤柳子、佐藤邦子、佐藤裕子、
　　高橋うめよ、高橋しげよ、高橋　修、高橋惣市、高橋つよ子、高橋良三、横田ヒデ子、
　　横田よし子、若生孝子（五十音順）
整理参加者：小林桂子、千葉栄子

本 文 目 次

第一章　遺跡の位置と環境 …… 9
Ⅰ　遺跡の位置 …… 9
Ⅱ　遺跡の現状と推定される城郭構造 …… 10
Ⅲ　文献上の下草古城跡 …… 10
第二章　調査に至る過程と方法 …… 12
Ⅰ　調査に至る過程 …… 12
Ⅱ　調査の方法 …… 12
第三章　基本層序と発見された遺構・遺物 …… 14
Ⅰ　基本層序 …… 14
Ⅱ　発見された遺構・遺物 …… 15
1. 中近世 …… 15
①発見された遺構 …… 15
②発見された遺物 …… 40
2. その他の時期の遺構と遺物 …… 49
①古墳時代 …… 49
②平安時代 …… 55
第四章　考　察 …… 56
Ⅰ. 古墳時代 …… 56
Ⅱ. 平安時代 …… 63
Ⅲ. 中近世 …… 63
第五章　まとめ …… 69
参考・引用文献、写真図版 …… 70

図　目　次

第 1 図　遺跡の位置と周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・ 9
第 2 図　遺跡の全景と地籍図に記された水田・・・ 11
第 3 図　調査区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第 4 図　遺構全体図（付図）
第 5 図　基本層序模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第 6 図　24 区遺構平面図 ・・・・・・・・・・・・・ 17・18
第 7 図　24 区遺構断面図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第 8 図　24 区遺構断面図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第 9 図　24 区遺構断面図(3) ・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第 10 図　24 区遺構断面図(4) ・・・・・・・・・・・・・・ 22
第 11 図　25 区遺構平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第 12 図　25 区遺構断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第 13 図　26・27 区遺構平面図 ・・・・・・・・・・・・・ 25
第 14 図　26 区断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第 15 図　28 区遺構平面図（整地層上面）・・ 27
第 16 図　28 区遺構平面図（整地層下面）・・ 28
第 17 図　28 区遺構断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第 18 図　29 区遺構平面図（整地層上面）・・ 31
第 19 図　29 区遺構平面図（整地層下面）・・ 32
第 20 図　ＳＸ1120 道路跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第 21 図　29 区遺構断面図(1) ・・・・・・・・・・・・・・ 35
第 22 図　29 区遺構断面図(2) ・・・・・・・・・・・・・・ 36
第 23 図　陶磁器類(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第 24 図　陶磁器類(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第 25 図　土製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第 26 図　土製品・古銭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第 27 図　金属製品・木製品・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第 28 図　石製品(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
第 29 図　石製品(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第 30 図　石製品(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第 31 図　石製品(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第 32 図　ＳＸ1000 平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第 33 図　SX1000 第3･4･6･9 地点出土土器・・・・・ 51
第 34 図　ＳＸ1000 第 10 地点出土土器(1) ・・ 53
第 35 図　ＳＸ1000 第 10 地点出土土器(2) ・・ 54
第 36 図　24 区平安時代水田跡平面図 ・・・・・・ 55
第 37 図　古墳時代前期土器分類図・・・・・・・・・ 60
第 38 図　ＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点
出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第 39 図　遺跡南側の区画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

表　目　次

第 1 表　各区で確認された遺構数・・・・・・・・・・ 37
第 2 表　掘立柱建物跡属性表・・・・・・・・・・・・・・ 37
第 3 表　柱穴列属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第 4 表　井戸跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第 5 表　土壙属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第 6 表　溝跡属性表(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第 7 表　溝跡属性表(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 8 表　炭化物集中遺構属性表・・・・・・・・・・・・ 40
第 9 表　焼け面跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 10 表　集石遺構属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 11 表　道路跡属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 12 表　竪穴状遺構属性表・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 13 表　整地層属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 14 表　畦畔属性表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第 15 表　東北南部の古墳時代前期土器編年
対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第 16 表　ＳＸ1000 出土土器共伴関係 ・・・・・・ 61

写真図版目次

写真図版１　遺跡全景航空写真 ……73
写真図版２　24 区全景 ……75
写真図版３　24 区ＳＥ900 ほか、ＳＸ919、ＳＥ914 ……77
写真図版４　24 区ＳＤ660 ほか、W180・Ｓ60 付近近景、ＳＸ987 道路跡 ……78
写真図版５　24 区W120～130 近景、ＳＥ967・ＳＸ968 整地層、調査区東端近景 ……79
写真図版６　25 区全景、26・27 区調査前近景、27 区N-1 トレンチ ……80
写真図版７　28 区全景、ＳＥ1028、ＳＸ1033 竪穴状遺構 ……81
写真図版８　29 区全景、ＳＤ450 付近近景 ……82
写真図版９　24 区ＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点第 10 地点土器出土状況、平安時代水田跡 ……83
写真図版 10　陶磁器類、摺鉢 ……84
写真図版 11　土製品・木製品 ……85
写真図版 12　石製品(1) ……86
写真図版 13　石製品(2) ……87
写真図版 14　石製品、古銭、鉄製品、銅製品 ……88
写真図版 15　ＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点第 3･4･6･9･10 地点出土土器 ……89
写真図版 16　ＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点第 10 地点出土土器 ……90

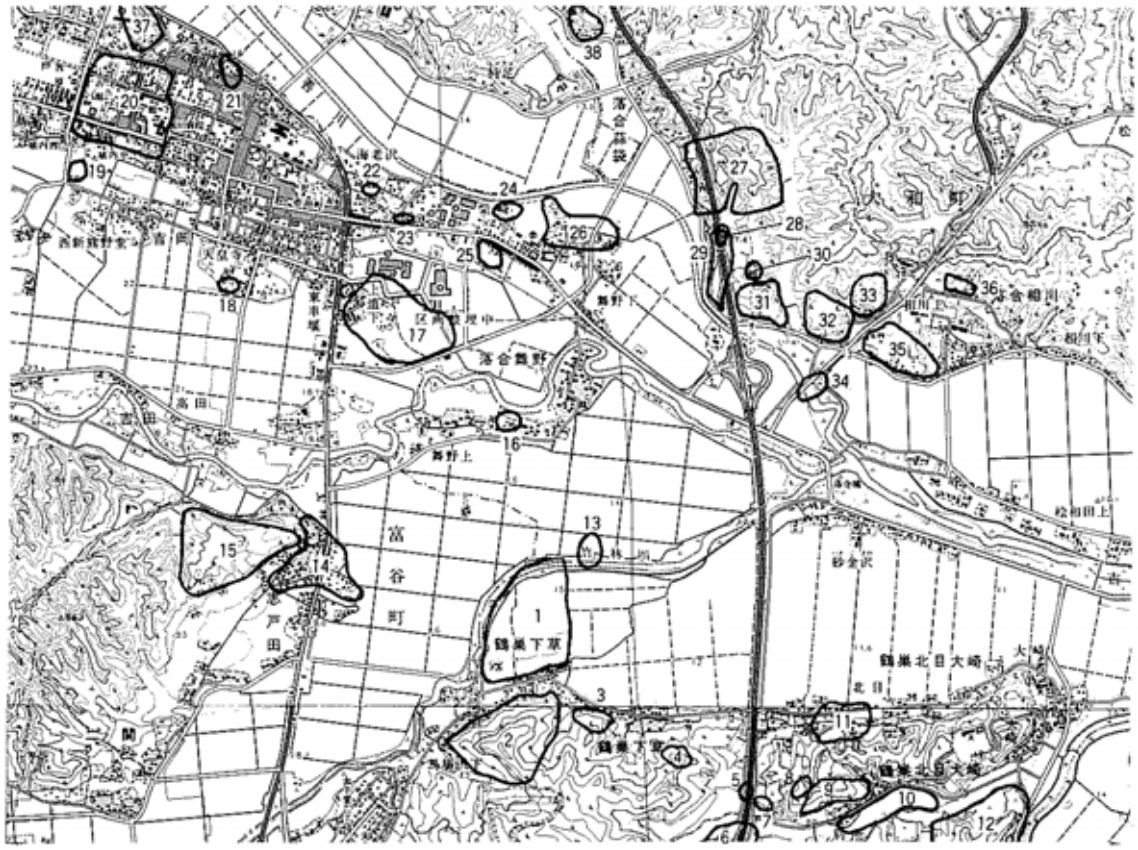
下　草　古　城　跡

第一章　遺跡の位置と環境

Ⅰ　遺跡の位置

下草古城跡は、黒川郡大和町鶴巣下草に所在する。大和町の中心部、吉岡から南東に3㎞のところに位置する。

奥羽山脈・船形連峰に端を発した吉田川とその支流である善川、竹林川は、徐々に高度を下げ周辺を開析しながら東流する。大和町の中心部、吉岡から舞野、下草付近では、吉田川に、北西から善川、南西から竹林川が合流しており、広く沖積地が広がっている。遺跡は竹林川が合流する地点から1.5㎞程上流にあり、標高13～15mの自然堤防とその周辺に位置する（第１図）。



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	下草古城跡	集落跡・城跡	古墳・古代・中近世	14	三ヶ森遺跡	包含地	奈良・平安	27	御所館跡	包含地	中世
2	鶴巣館跡	城跡	中世	15	鶴取遺跡	城跡	中世	28	新田古墳 1・2号	古墳	古墳跡
3	迫遺跡	包含地	古代	16	上舞野B遺跡	包含地	古代	29	八谷館跡	城跡	中世
4	観音堂，小塚跡	小塚	中世・近世	17	一里塚遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	30	新田古墳 3号	古墳後	古墳後
5	日光山遺跡	墓・祭祀遺跡	奈良・平安・中世・近世	18	天京寺遺跡	包含地	平安	31	八谷古城跡	城跡	中世
6	勝負沢遺跡	包含地	縄文中・平安	19	東遺跡	包含地	古代	32	大泥遺跡	包含地	古代
7	日光山西小塚	小塚		20	吉岡城跡	城跡	近世	33	上ノ山遺跡	包含地	平安
8	日光山小塚群	小塚	中世	21	安楽院遺跡	包含地	縄文中・後	34	相川堤防遺跡	包含地	縄文・古代
9	別所横穴古墳群	古墳	古墳	22	海老沢遺跡	包含地	縄文中	35	熊野遺跡	包含地	古代
10	別所遺跡	包含地	古代	23	糸線遺跡	包含地	縄文・古代	36	塚越遺跡	包含地	古代
11	寺東遺跡	包含地	古代	24	西浦田遺跡	包含地	平安	37	中興寺遺跡	包含地	縄文晩
12	天神館跡	包含地・城跡	縄文・中世	25	柴崎遺跡	包含地	奈良	38	宿下遺跡	包含地	古代
13	上舞野A遺跡	包含地	縄文・古代	26	吉川遺跡	包含地	古代				

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

II　遺跡の現状と推定される城郭構造

遺跡の範囲は東西 500m以上、南北約 600mで、北西隅のかけた長方形を呈する(第 2 図)。遺跡の北と西は竹林川に画され、竹林川に沿った部分は河川改修によって原形を失っている。南は鶴巣館が立地する丘陵に接している。一方、東側は沖積地が広がっている。圃場整備が行なわれているため現在の地形から遺跡の東端は明瞭ではないが、平成 4 年度の調査で東端は 8・10 区付近であることが確認された。遺跡の現状は水田や畑であり、標高の低い部分は水田、それよりも一段高い平坦な部分は畑として利用されている。

これらを詳細に見てみると、遺跡の南側は水田が広範囲に広がっているのに対して、北側は一段高い畑の部分が広がり、それらを二重に取り囲むように細長い水田部分が認められる。これは城跡の地割りを反映するものであり、高い部分は本丸や二の丸、低い部分は堀という北端中央の畑部分を中心とした城郭配置の様子が明瞭に残存している。渡辺・大藤両氏が『大和町史』において、明治 19 年の地籍図（以下地籍図と略記）をもとに推定復元した城の構造では、外堀と考えられる水田までが城の郭内であり、現状も当時とほとんど変わっていない。郭外とされた東側、南側には、地籍図によると堀（水田）によって細かく区割りされた部分が広がり、侍屋敷跡と推定されている。しかし、現状では高い部分は島状に散在するのみであり、後世に削平されて水田として利用されている。この南側の水田部分では、細長い水田の形から堀と推定可能なところもあるが、内堀ほど明確なものはない。

以上のように、本遺跡は平野部に築かれた城としては、県内唯一ともいえる保存状態が良好な遺跡である。

III　文献上の下草古城跡

下草古城については、享保 13 年(1728 年)の『仙台領古城書立之覚』などに記載され、『大和町史』(遠藤・伊藤：1975)にまとめられている。

まず、城主、年代については、伊達政家の三男で、伊達家の重臣であった飯坂家の後を継いだ宗清が宮城郡松森村から慶長十五年（1610 年）に下草に移り、元和三年（1616 年）に吉岡に移るまで数年間住んだとされている(遠藤・伊藤：1975)。また、飯坂家の牌所で、現在吉岡にある「天皇寺」の『書上』によると、この寺は飯坂家に従って福島県伊達郡飯坂村から宮城郡松森村に移り、さらに、宗清に一年遅れて、慶長十六年（1611 年）に下草に移り、そして元和二年（1616 年）に吉岡に移ったことが記され、前記述を裏付けている。

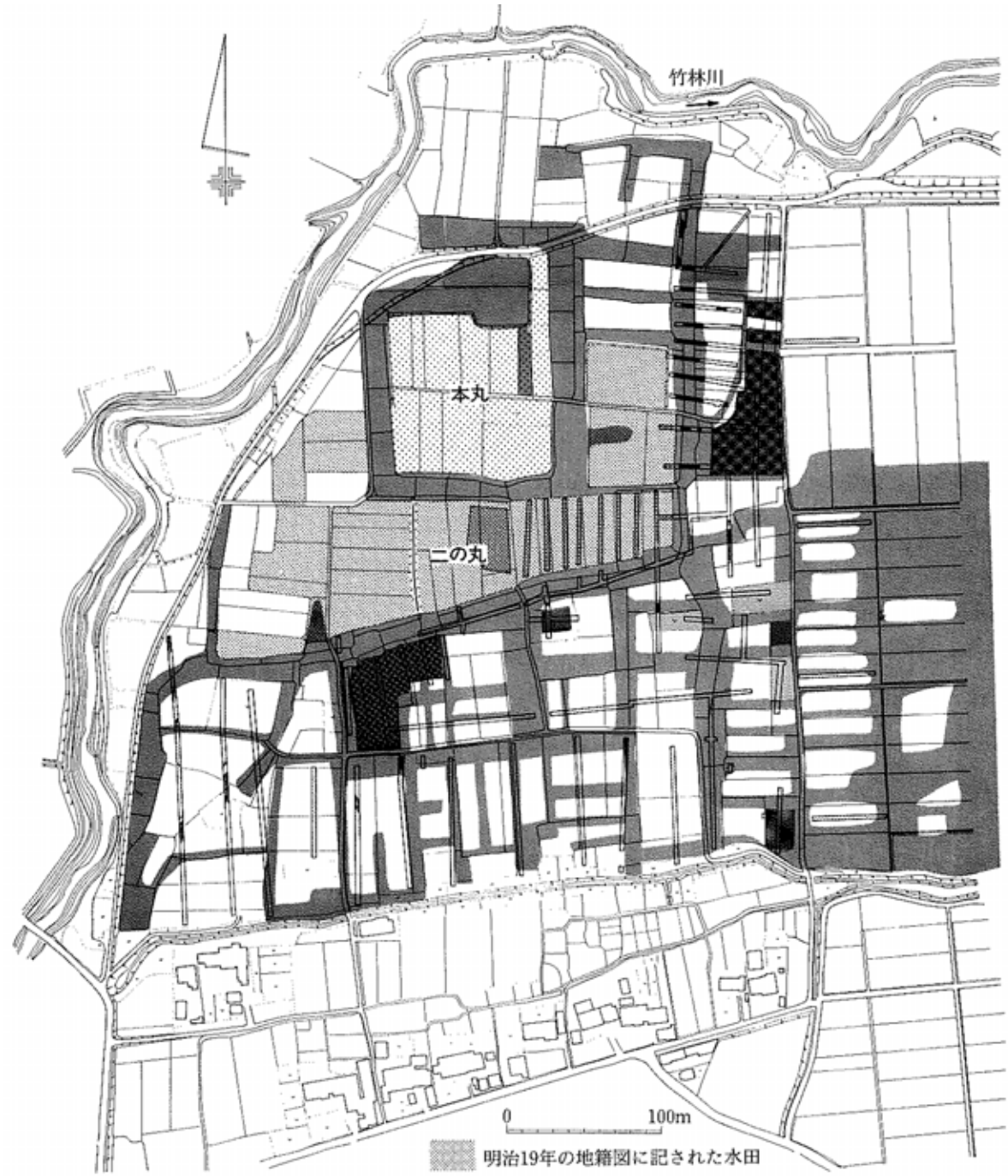
規模は、『仙台領古城書立之覚』によると、

「平　古城　東西四十六間、南北六十八間。但四方ニ土手形上口八間之堀アリ西北ハ川　東南ハ幅四間長二百八十間ノ掘アリ」

とある。これは本丸部分が東西約 80m、南北約 120m、本丸の四方には幅約 14mの内堀が巡り、西・北側は竹林川が流れ、東・西側には幅約 7m、長さ約 500mの外堀があると解せ、現地形から推定できる城の構造・規模とほぼ一致する。

なお、文献に記された「下草古城」の城主、年代、規模・構造については上述の通りであるが、これまでの調査結果から宗清が「下草古城」に居城する以前にも町並みが存在していた可能性が高いこ

とが指摘されている（須田：1992･1993）。また、『伊達治家記録』(平：1973)にも、宗清が「下草古城」に居城する以前の天正 18・19 年（1590･1591 年）の大崎葛西一揆平定の時に「下草城」「下草館」の名前が数回現われ、伊達政宗や蒲生氏郷らが立ち寄っていることが記されている(佐野：1980)。この「下草城」「下草館」と「下草古城」が同一のものであるならば「下草古城」の年代が約二十年遡ることになり、調査結果と矛盾しない。しかし、『伊達治家記録』などに表われる「下草城」「下草館」は 16 世紀末という年代からも中世の山城である「鶴巣館」を指している可能性もあり、「下草城」「下草館」と「下草古城」が同一のものであるかは不明である。



第 2 図　遺跡の全景と地籍図に記された水田

第二章　調査に至る過程と方法

Ⅰ　調査に至る過程

今回の調査区は遺跡の南西部に当たる。調査はこの地域の圃場整備に先立つ事前調査であり、今年度が第5次調査になる。

調査区は調査着手順に1区･2区･3区～29区というように数字を付してある(第3図)。平成3年度に確認調査を行ない、平成4年度は1～12区、平成5年度は5区西・7区・13～18区、平成6年度は19～20 区の調査をもって道路・水路部分の調査は終了し、ついで面工事によって削平される 21～23区の調査を行なった。平成7年度は現在水田面に散在し、最近まで畑として利用されていた高まり部分（24・25・28・29区）と遺跡南部を東西に走る北目用水（通称：北目堀）の南側、北側に延びる土手状の高まり部分（26・27区）が調査対象となる。

これまでの調査で 17 世紀初頭ごろのものと考えられる掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、道路跡など多数の遺構が確認され、城下町の一部が明らかになっている。

城下町は20区を境に様相が変わる。20区の西側は竹林川から城内に水を取り入れる大溝が多く、7区付近を除き生活域は確認されていない。一方、20 区の東側は掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、道路跡など多くの遺構が確認されている。遺構は4時期以上の変遷を示し、比較的長期に渡って生活していたことが伺える。遺物も17世紀初頭頃のものが多いが、16世紀、17世紀以降のものも出土している。このため、これらの遺構は宗清が居城した1611～1616年までの数年間に残されたものではなく、この時期を挟み時間幅をもつことは確定的になっている。しかし、遺物から具体的に遺構の時期は限定できない。また、これらの生活域は、溝と掘立柱建物跡の方向が揃うことから、大溝や小溝で区画されていたと考えられているが、調査区が限られていることから区画の単位および範囲はつかめていないなど、今後の課題となる点も多い。

その他、少数ながら平安時代の遺構・遺物や古墳時代塩釜式期の土器集中地点が確認されている。

Ⅱ　調査の方法

今年度は24～29区の調査を行なった。24･28･29区は外堀南側の調査区である。24区は北を18区、東を19区、西を20区と接する。28区は北を17区、東を4区と接する。29区は北を17区、西を19区と接する。25区は24区の南である。26･27区は北目用水沿いの調査区である。26区は東を19区、西を20区に接する。27区は東を5区、西を19区に接する。

調査対象面積は約6.770㎡であるが、26･27区はトレンチ調査としたため最終的に調査面積は5.380㎡となった。なお、25～27区は規定レベル以下まで削平が及んでいたため、確認調査のみ行なった。

また、平成5年度調査で、18区W180～190付近で古墳時代前期塩釜式期の土器集中地点が確認され、南接する24区にも土器集中地点が存在する可能性が示された(天野1994)。このため24区の中近世の調査が終了した後、土器集中地点の存在を確認する調査を行なった。土器集中地点の調査はW180～190付近にトレンチを設定して行なったが、この付近には平安時代の水田跡が存在しているため（天野1995）、水田跡の調査終了後に掘り下げを行なった。

調査にあたり、17 区東端部の No.8 杭を座標原点とし、3m×3mのグリッドを設定した。原点の国家座標は次の通りである。

座標原点（No.8 杭）国家座標X＝－175273.928　Y＝＋6217.872

精査した遺構は、設定したグリッドをもとに簡易遣り方測量、平板測量による平面図を作成し、必要に応じて断面図を作成した。写真記録については 35㎜ 白黒・カラーリバーサル写真、6×7 白黒・カラー写真・カラーリバーサル写真によって行なった。

調査は 4 月 13 日に開始し、24 区の調査が終了した 7 月 7 日に航空撮影、翌 7 月 8 日に現地説明会を行ない約 100 名の参加を得た。そして 10 月 25 日に調査を終了した。

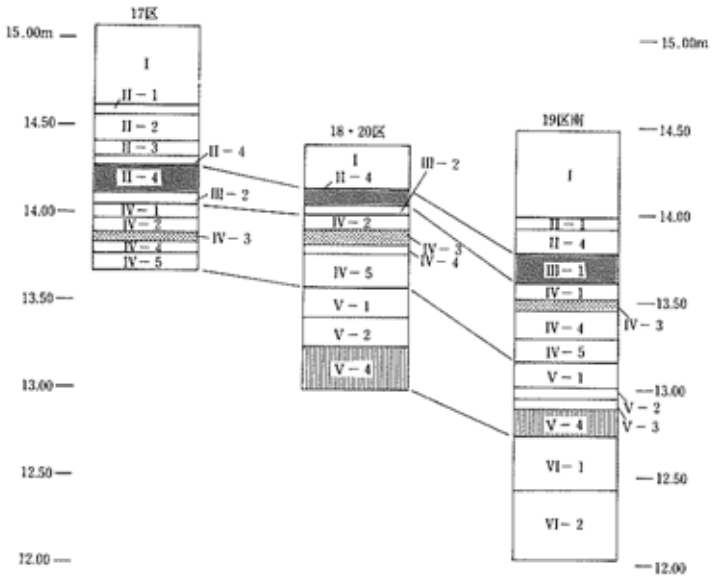
第 3 図　調査区

第三章　基本層序と発見された遺構・遺物

Ⅰ　基本層序

本遺跡は竹林川右岸に広がる沖積地に位置しているため、各区、各地点で堆積状況が異なる。しかし、堆積状況が良好な地点で層序を観察すると、多少の違いはあるものの、基準となる層を中心に各区でほぼ同じ層序を示すことがわかった。

層はⅠ層～Ⅵ層に大別でき、さらに細分される(第５図)。出土遺物などから年代が分かっているものは、Ⅰ 層：現代、Ⅱ層：近世、Ⅳ層：古代、Ⅴ層：古墳時代である。Ⅲ層、Ⅵ層は不明であるが、おおまかにⅢ層は灰白色火山灰降下以降～中近世、Ⅵ層は古墳時代塩釜式期以前に位置づけられる。遺跡全体に広がり、視覚的に識別が可能な層は、Ⅲ－1 層の黒褐色粘土質シルト層、Ⅵ－3 層の灰白色火山灰層である。この 2 つの層を基準に柱状図をみてみると、17･18･20 区では両層がほぼ同じ標高であるのに対して、19 区南部ではこれらより 30～40㎝ほど低いところで確認されており、遺跡の西部、北部の方が東・南部より標高が高いことがわかる。このことから本遺跡は竹林川右岸の自然堤防上に位置し、本丸・二の丸は地形的に最も高い場所を選んで構築されているといえる。



層No.	時代	土	色	土性	備考
Ⅰ	現代				現代の水田床土、耕作土、盛土、表土。
Ⅱ－1	近世	10YR4/4	褐色	シルト	同色の砂質シルトを少量含む。
－2		2.5Y4/3	オリーブ褐色	〃	整地層。炭化物を少量含む。
－3		10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y5/3 オリーブ褐色砂質シルトを多量に含む。
－4		2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	
Ⅲ－1	古代	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	
－2		2.5Y5/3	黄褐色	シルト	漸移層。
Ⅳ－1		2.5Y5/2	暗灰黄色	〃	灰白粒をごく少量含む。
－2		2.5Y5/1	黄灰色	〃	灰白色火山灰層との漸移層。
－3		灰白色火山灰			10C 前半。
－4		2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	17区 SX455 遺物包含層。(9 C前半)
－5		2.5Y4/1	黄灰色	〃	
Ⅴ－1		2.5Y4/3	オリーブ褐色	〃	炭化物を少量含む。
－2	古墳	2.5Y5/3	黄褐色	〃	同色の砂質シルトを含む。
－3		5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	炭化物をごく少量含む。
－4		〃	〃	粘土質シルト	18・24区塩釜式土器出土層。炭化物をごく少量含む。しまりあり。4 C。
Ⅳ－1		〃	〃	砂質シルト	同色の粘土質シルトをごく少量含む。
－2		2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	しまり有り。

第５図　基本層序模式図

Ⅱ　発見された遺構・遺物

今回の調査で多数の遺構が確認されたが、ほとんどが中近世のものである。その他、平安時代の遺構古墳時代の遺物が確認された。

1．中近世

①発見された遺構

掘立柱建物跡、柱穴列跡、井戸跡、溝跡、道路跡、土壙、竪穴状遺構、整地層、炭化物集中遺構、焼け面跡、集石遺構が確認された(第1表)。比較的調査区の面積が広い24区以外は、調査区の幅が狭く遺構の全容がわかるものは少ない。また、井戸跡は出水や崩落の危険性があったため底面まで調査していない。

以下、区ごとに主要な遺構を説明する。なお、各遺構ごとに属性表(第2表～第13表)を作成したため、区の特徴、特筆すべきことのみを記述する。

ａ．24区（第6図～第10図）

18区の南側で、東は19区に西は20区に接する高まり部分(W102～W213)である。調査の結果、この高まりは現水田面（標高約14.50m）から70～80㎝前後高い最近の盛土であった。遺構確認面は基本層位Ⅱ－4層で、現水田面とほぼ同じか、数㎝～数十㎝高い。西側は基本層位Ⅲ－1層またはⅢ－2層の灰白色火山灰層まで削平されており、全体的に遺構の残存状況が悪い。

遺構はほぼ調査区全域に分布し、掘立柱建物跡41棟、柱穴列跡6列、井戸跡21基、溝跡45条、道路跡1条、土壙2基、整地層1か所、炭化物集中遺構1基、集石遺構1基が確認された。これらの遺構はＳＤ146外堀から15mほど離れて展開している。掘立柱建物跡は桁行3間、梁行1間程度の単純なものが多く、これに張り出しや廂が付くものが少数ある。Ｓ75、W190付近では建物跡だけで最低4時期の遺構の変遷が認められた。井戸跡はすべて素掘りであり、断面形態はほとんどが上部が開くロート状を呈する。廃絶後、人為的に埋め戻されているものが多い。

掘立柱建物跡

【ＳＢ1093建物跡】調査区北西に位置する。桁行5間、梁行1間の東西棟で、東側に1間の廂が付く。ＳＤ935より新しく、ＳＢ1092・1094・1103との関係は不明である。建物総長は桁行11.5m、梁行4.0mであり、24区では最も規模が大きい。柱間寸法は身舎の桁行で1.8～2.0m、梁行で3.6～3.8mで、廂は1.2m張り出している。柱穴の掘り方は長径30～60㎝、短径30～50㎝の円形で、深さは25～45㎝で削平されている西側ほど小さくなる。柱痕跡は径15㎝の円形である。

溝跡

【ＳＤ900溝跡】調査区西端の南北溝である。Ｓ97付近でＳＤ676と連絡する。ＳＤ660・901・902より新しく、ＳＢ1091より古い。幅は0.6～1.2m、深さは30～40㎝である。断面形はU字形を呈する。堆積土は砂質シルトを中心とする自然堆積土である。ＳＤ900はＳＤ676より底面のレベルが10～15㎝低くなっていることから、ＳＤ676→ＳＤ900つまり南から北へ水が流れ、そして18区のＳＤ146外堀と連絡していたと考えられる。

【ＳＤ957 溝跡】調査区東端W110 付近に位置する南北溝である。ＳＤ958、ＳＥ961 より新しく、ＳＤ956、ＳＡ985 より古い。北側 17 区では削平され、遺構確認面が本溝跡の底面レベルより低かったため確認されていないが、本来は北側に延びていたものと考えられる。Ｓ22 付近で東へ方向を変えたところで終結する。幅は 1.0～1.5m、深さは 30～70㎝ と一定していない。また、掘り直しのためか部分的に段が付いている。堆積土は地山ブロックを少量含み暗褐色粘土質シルトを中心とする自然堆積土である。

【ＳＤ958 溝跡】調査区東端W110 付近に位置する。ＳＤ956・957、ＳＢ981・ＳＡ985 より古い。前述したＳＤ958 と同様の理由で 17 区では確認されていないが、本来はＳＤ957 とほぼ同じラインで北側に延びていたものと考えられる。W22 付近で東へ方向を変え延びるが、W107 以東は削平されているため、ＳＤ452ｂとの関係は不明である。W107 付近でほ幅 60㎝、深さ 5㎝ であるが、W18 付近では幅 65㎝ 以上、深さ 25㎝ を計る。堆積土は暗褐色砂質シルトの自然堆積土である。

整地層

【ＳＸ968 整地層】調査区東側W120～123、Ｓ24～27 付近に位置する。ＳＥ967・970 より新しい。ＳＸ968 整地層はＳＥ967 井戸跡埋土上部の窪みとその周辺を整地したもので、東西 3m×南北 3mの正方形に近い範囲に認められ、さらに南側の調査区外に広がる。整地層は主に地山ブロックからなり、層厚は 15～40㎝ で北側ほど厚い。

集石遺構

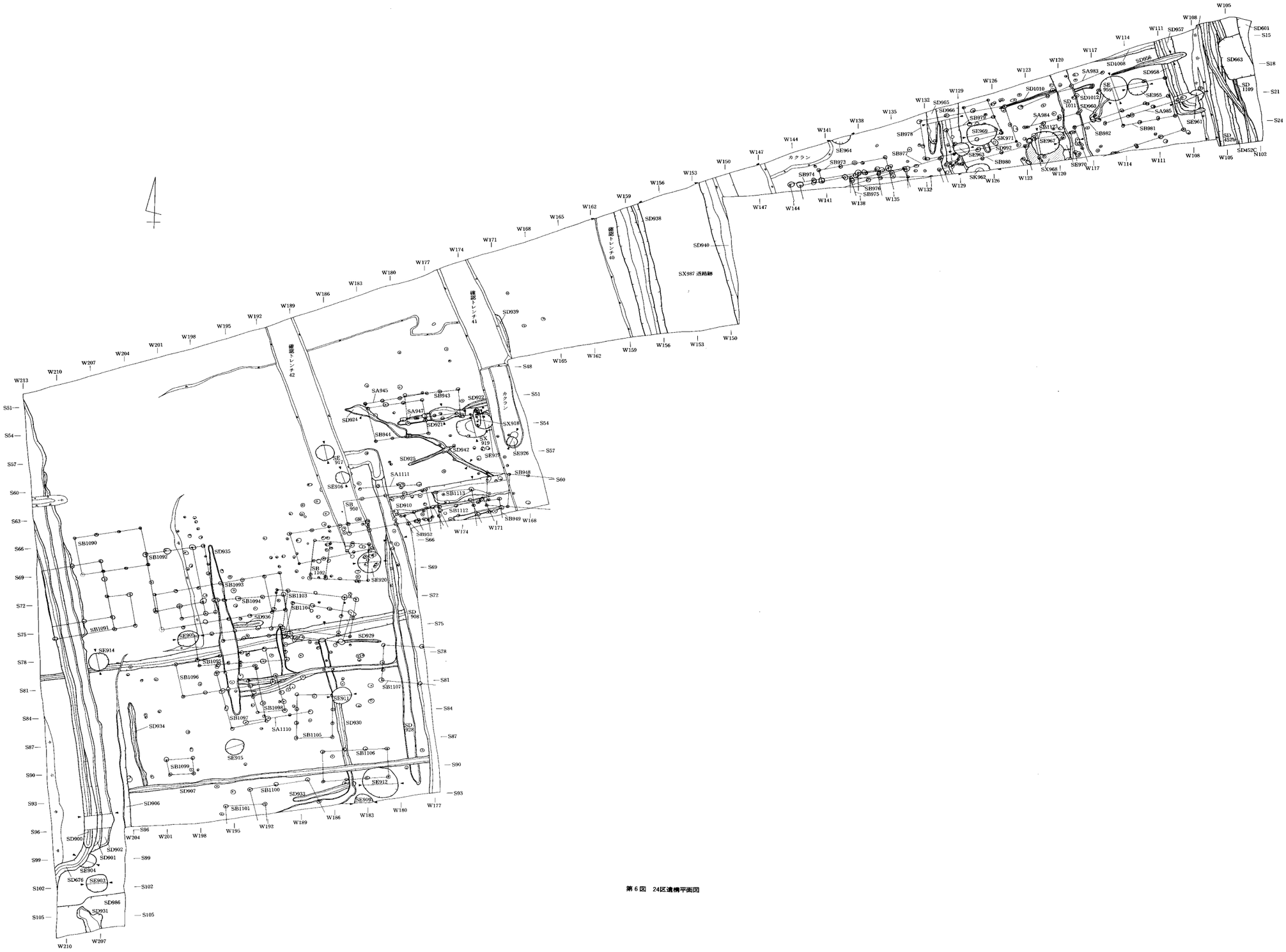
【ＳＸ918 集石遺構】調査区中央W173、Ｓ53 に位置する。ＳＸ919 炭化物集中遺構、ＳＤ921 溝跡、ＳＥ927 よりも新しい。平面形は長径 2.0m、短径 0.6mの長楕円形、深さ 7㎝ 前後の浅い窪みに、径 6～15㎝ の円礫が集中していた。窪みには炭化物混じりの暗褐色シルトが堆積していた，

道路跡

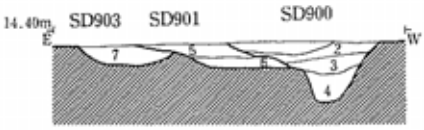
【ＳＸ987 道路跡】調査区中央W152～162 付近に南北方向に平行に延びる溝が認められた。調査区の関係で全容は不明だが、両溝間に遺構が認められないことや周辺の建物の柱筋と方向が一致することなどから、東西両側に素掘りの側溝をもつ南北方向の道路跡と考えられる。東側溝はＳＤ940、西側溝はＳＤ938 である。長さは 7mを確認したに過ぎないが、調査区外の南方に延びていくものと思われる。なお、北側の 18 区では後世の削平により確認されなかったが、ＳＤ146 外堀まで延びていたものと思われる。路幅は両側溝の心心で 8.5mを計る。ＳＤ940 東側溝は攪乱のため全容は不明であるが、断面観察から上幅は約 1.6mと推定され、深さは 60㎝ である。堆積土は自然堆積土である。ＳＤ938 西側溝は上幅は約 2.4m、深さは 80㎝ である。堆積土は下部が自然堆積土、上部は人為的に埋め戻されている。

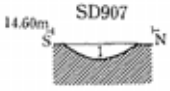
土壙

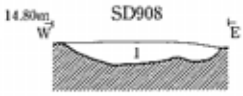
【ＳＫ962 土壙】調査区東側南端W126 付近に位置する。全容は不明だが、平面形は長径 2.0m、短径 1.6m程度の楕円形を呈するものと思われる。深さは 1.0mである。堆積土は炭化物・焼土を含むシルトを中心とした自然堆積土である。

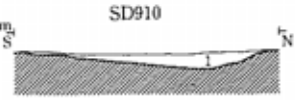


第６図　24区遺構平面図







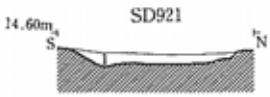


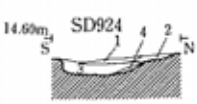
層No	土色		土性	備考
SD900 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	焼土を少量含む。
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
4	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	地山ブロックを含む・灰白色火山灰を少量含む。
SD901 5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	
6	5Y4/3	灰オリーブ色	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
SD902 7	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	地山ブロックを含む。

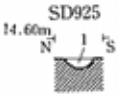
層No	土色		土性	備考
SD907 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	

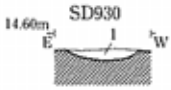
層No	土色		土性	備考
SD908 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	小礫を含む。

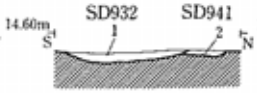
層No	土色		土性	備考
SD910 1	10YR3/4	暗褐色	シルト	焼土，炭化物を微量含む。

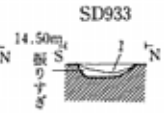












層No	土色		土性	備考
SE921 1	7.5Y3/2	黒褐色	シルト	

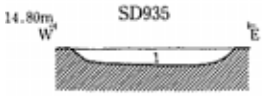
層No	土色		土性	備考
SD930 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	

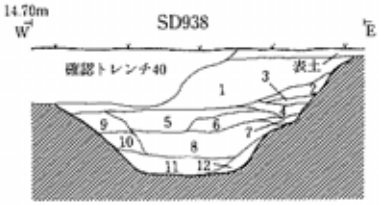
層No	土色		土性	備考
SE924 1	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	
2	7.5YR4/4	褐色	シルト	
3	7.5YR4/6	褐色	シルト	
4	7.5YR3/4	暗褐色	砂	

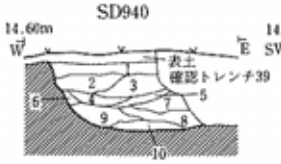
層No	土色		土性	備考
SD932 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量含む。
SD941 2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を少量含む。

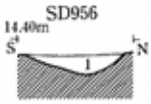
層No	土色		土性	備考
SD933 1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土を少量含む。

層No	土色		土性	備考
SE925 1	7.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む。







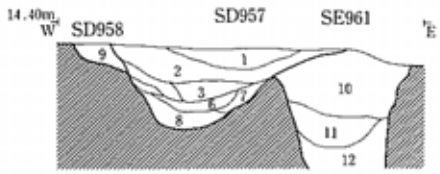


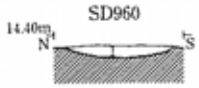
層No	土色		土性	備考
SD938 1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR2/1 黒褐色粘土質シルトブロック、10YR5/3 褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
5	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	10YR2/1 黒褐色粘土質シルトブロック、10YR5/3 褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
6	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	砂質シルトを含む。
7	5Y2/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
8	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	5Y3/2 オリーブ黒色粘土質シルトブロックを含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む。
9	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。
10	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを微量含む。
11	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	10YR2/1 黒色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
12	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。

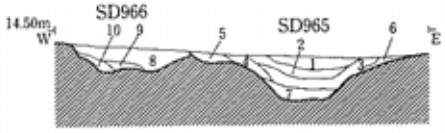
層No	土色		土性	備考
SD935 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	

層No	土色		土性	備考
SD940 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	
3	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	4層より粘性あり。
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	
7	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
9	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
10	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロック・2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。

層No	土色		土性	備考
SD956 1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。







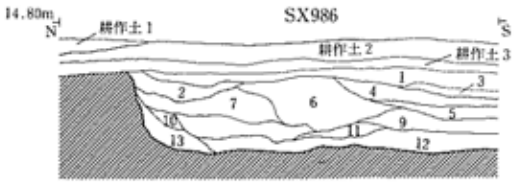
層No	土色		土性	備考
SD957 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量含む。
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	焼土を微量含む。
3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
5	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
6	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
8	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	粘性非常にあり。
SD958 9	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	10YR4/3 オリーブ褐色砂質シルトを少量含む。
SE961 10	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。灰白色火山灰ブロックを多量に含む。
11	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。
12	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	

層No	土色		土性	備考
SD960 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	

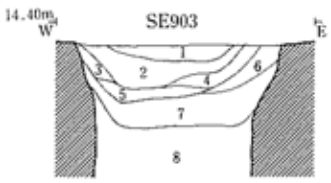
層No	土色		土性	備考
SD965 1	10YR3/4	暗褐色	シルト	焼土を微量含む。
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	灰白色火山灰粒を微量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
5	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	10YR2/2 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
SD966 8	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	焼土を微量含む。
9	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	砂質シルトを少量含む。

0 2m

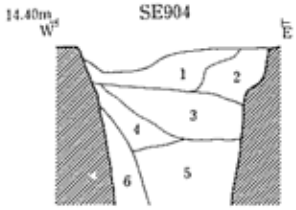
第7図　24区遺構断面図（1）



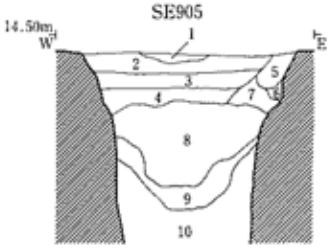
層No	土	色	土 性	備 考
SX986 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シ ル ト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
2	10YR4/2	灰黄褐色	シ ル ト	やや粘性あり。
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シ ル ト	
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを含む。
6	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを多量含む。
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを多量含む。
8	10YR3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを多量含む。
9	10YR3/3	暗 褐 色	粘土質シルト	
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	
11	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。
12	2.5Y3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを多量含む。
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	



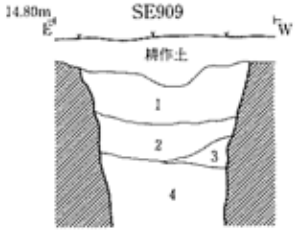
層No	土	色	土 性	備 考
SE903 1	2.5Y3/2	黒 褐 色	シ ル ト	砂を少量含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シ ル ト	炭化物を多量に含む。
3	5Y3/2	オリーブ黒色	シ ル ト	炭化物を少量含む。
4	5Y3/2	オリーブ黒色	シ ル ト	
5	5Y3/2	オリーブ黒色	シ ル ト	
6	2.5Y3/2	暗オリーブ色	シ ル ト	
7	2.5Y4/1	黄 灰 色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロック・黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
8	2.5GY4/1	暗オリーブ色	砂質シルト	グライ化。



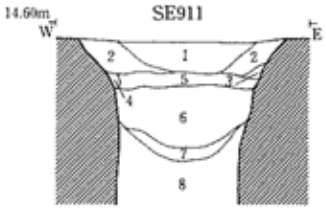
層No	土	色	土 性	備 考
SE904 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シ ル ト	炭化物を含む。
2	10YR4/3	に ぶ い 黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
3	2.5Y3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	
5	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
6	10YR2/1	黒 色	粘土質シルト	スクモを多量に含む。



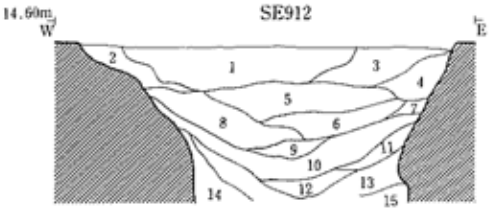
層No	土	色	土 性	備 考
SE905 1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	地山ブロックを多量に含む。
2	10YR4/2	灰黄色褐色	粘土質シルト	
3	10YR3/3	暗 褐 色	粘土質シルト	
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	
6	2.5Y3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	
7	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	
8	2.5Y4/1	黄 灰 色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
9	2.5Y3/1	黒 褐 色	粘土質シルト	スクモを多量に含む。
10	2.5Y4/1	黄 灰 色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。



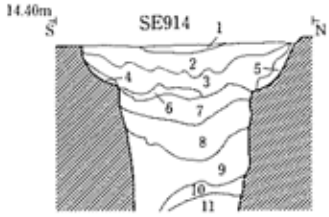
層No	土	色	土 性	備 考
SE909 1	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロック・地山ブロック（5Y4/3 暗オリーブ色・粘土質シルト）を多量に含む。
2	2.5Y3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロック・地山ブロック（5Y4/3 暗オリーブ色・粘土質シルト）を多量に含む。
3	7.5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	5Y4/2 灰オリーブ色・粘土質シルトを含む。炭化物を少量含む。グライ化。
4	5Y2/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。しまりなし。グライ化。



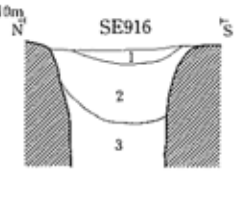
層No	土	色	土 性	備 考
SE911 1	2.5Y3/2	黒 褐 色	シ ル ト	炭化物・地山ブロックを少量含む。
2	5Y3/2	オリーブ黒色	シ ル ト	地山ブロックを含む。
3	2.5Y3/2	黒 褐 色	シ ル ト	地山ブロックを少量含む。
4	5Y3/2	オリーブ黒色	シ ル ト	炭化物を少量含む。地山ブロックを含む。
5	5Y2/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物・礫を少量含む。
6	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。地山ブロックを微量含む。グライ化。
7	2.5Y3/1	黒 褐 色	粘土質シルト	スクモを多量に含む。グライ化。
8	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む。グライ化。



層No	土	色	土 性	備 考
SE912 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シ ル ト	2.5Y3/3 暗褐色粘土質シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。しまりあり。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シ ル ト	2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シ ル ト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量に含む。
4	10YR4/2	灰黄色褐色	シ ル ト	灰白色火山灰粒・2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。しまりあり。
5	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	グライ化。
6	7.5Y4/1	灰 色	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量に含む。グライ化。
7	2.5Y4/1	黄 灰 色	粘土質シルト	同色の砂質シルトを少量含む。
8	2.5Y4/1	黄 灰 色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。しまりなし。
9	2.5Y3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	しまりなし。
10	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	スモク・木片を含む。
11	2.5Y3/2	黒 褐 色	粘土質シルト	しまりなし。
12	2.5Y3/1	黒 褐 色	粘土質シルト	スモク・木片を含む。しまりなし。
13	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。しまりなし。
14	7.5Y2/1	黒 褐 色	粘土質シルト	しまりなし。
15	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	しまりなし。



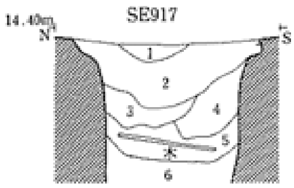
層No	土	色	土 性	備 考
SE914 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シ ル ト	層状に炭化物を少量含む。
2	10YR4/2	灰黄色褐色	シ ル ト	10YR4/3 に ぶ い 黄褐色粘土質シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シ ル ト	2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シ ル ト	2.5Y2/1 黒色粘土質シルトブロックを少量含む。
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シ ル ト	2.5Y2/1 黒色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロック（焼土）を少量含む。
6	2.5Y4/1	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
7	5Y4/1	灰 色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
8	5Y4/1	灰 色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。擂鉢出土。
9	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	砂を含む。
10	7.5Y4/1	灰 色	シ ル ト	炭化物層を含む。
11	7.5Y4/1	灰 色	シ ル ト	炭化物層を含む。



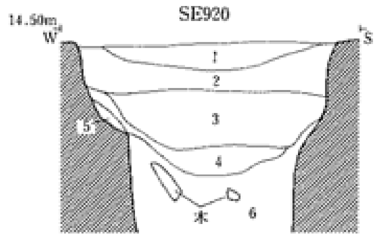
層No	土	色	土 性	備 考
SE916 1	7.5Y4/1	灰 色	砂質シルト	炭化物・地山ブロック（7.5Y4/1 灰色粘土質シルト）を少量含む。
2	10YR3/1	オリーブ黒色	シ ル ト	木片・灰白色火山灰粒・炭化物を少量含む。粘性あり。しまりなし。
3	5Y2/1	黒 色	シ ル ト	地山ブロック（黒色粘土質シルト）を少量含む。しまりなし。

0　　2m

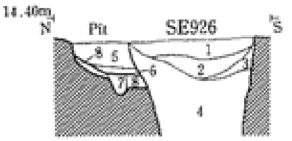
第 8 図　24区遺構断面図（2）



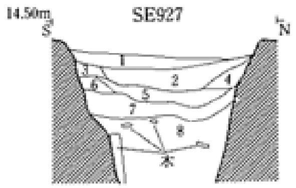
層No.	土	色	土性	備考
SE917 1	5Y4/1	灰色	シルト	粘性あり。
2	7.5Y4/1	灰色	シルト	5Y5/3 粘土質シルト地山ブロックを含む。
3	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	スクモを含む。
4	5Y4/1	灰色	シルト	しまりなし。
5	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	やや粘性あり。木片を含む。
6	5Y4/1	灰色	シルト	5Y3/1 粘土質シルトブロックを含む。



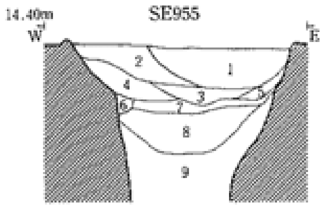
層No.	土	色	土性	備考
SE920 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
3	5Y4/2	暗オリーブ色	砂質シルト	灰白色火山灰ブロック・炭化物を少量含む。
4	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	スクモを少量含む。
5	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	スクモを少量含む。
6	5Y4/1	灰色	シルト	スクモ・木片を多量に含む。

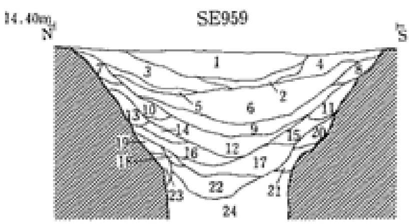


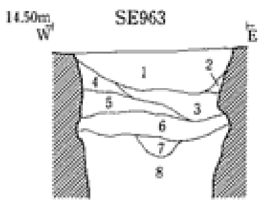
層No.	土	色	土性	備考
SE926 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	焼土を微量含む。
2	10YR4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	
3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。5層上の壁に礫が入る。
抜穴 5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	灰白色火山灰ブロック・2.5Y2/1 黒色粘土質シルトブロックを含む。
6	2.5Y4/1	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y2/1 黒色粘土質シルトブロックを含む。
柱痕 7	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	灰白色火山灰粒・2.5Y2/1黒色粘土質シルトブロックを含む。
埋土 8	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	灰白色火山灰粒を含む。
9	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	



層No.	土	色	土性	備考
SK927 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物・同色の砂質シルトを含む。
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物・2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。
3	2.5Y2/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y4/2 砂質シルトブロックを少量含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/3 暗褐色粘土質シルトブロック・炭化物を含む。
6	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	10YR3/3 暗褐色粘土質シルトブロック・炭化物を含む。
7	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルトブロック・炭化物・木片を含む。ややグライ化。
8	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	5Y4/1灰色粘土質シルトブロック・木片を含む。しまりなし。





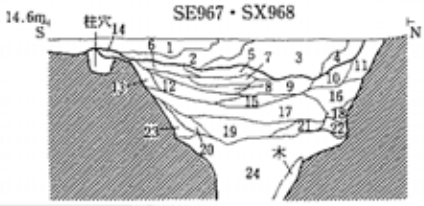


層No.	土	色	土性	備考
SE963 1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	
3	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。焼土ブロックを含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土を微量含む。
5	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・2.5Y5/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
6	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
7	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	
8	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	

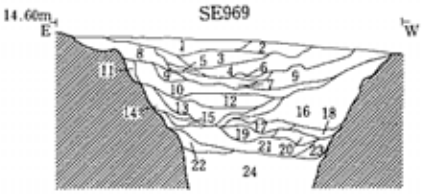
層No.	土	色	土性	備考
SE955 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	しまりなし。
3	10YR3/3	暗褐色	シルト	
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	
8	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。5Y4/2 灰オリーブ色シルトブロックを含む。
9	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロック・5Y4/2 灰オリーブ色シルトブロックを多量に含む。木片含む。

層No.	土	色	土性	備考
SE959 1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	
4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
5	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。10YR5/3 にぶい黄色褐色粘土質シルトブロックを微量含む。
6	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
9	5Y3/1	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量に含む。2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。
10	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	
11	10YR4/2	灰黄色褐色	粘土質シルト	
12	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
14	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
15	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	
16	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	
17	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	粘性あり。
18	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	
19	7.5GY4/1	暗緑灰色	砂質シルト	
20	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
21	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	
22	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	粘性非常にあり。
23	5Y2/1	黒色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
24	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	粘性非常にあり。

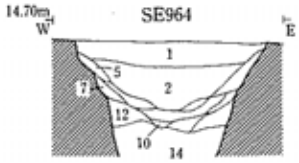
第9図　24区遺構断面図（3）



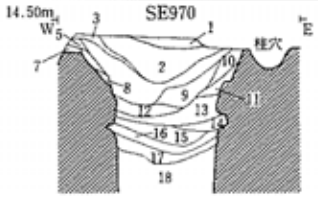
層No.	土色		土性	備考
SX968 1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	整地層。灰白色火山灰ブロックを多量に含む。焼土を少量含む。
2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。焼土を少量含む。
3	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を含む。・2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
SE967 5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。焼土を微量含む。
6	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロック・炭化物を少量含む。
8	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
9	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。焼土を微量含む。
10	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	焼土を微量含む。
11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土を微量含む。
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物・2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
13	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
14	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	
15	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む・2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
16	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
17	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
18	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
19	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロック・砂質シルトを少量含む。
20	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
21	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
22	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
23	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
24	7.5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロック・炭化物を微量含む。



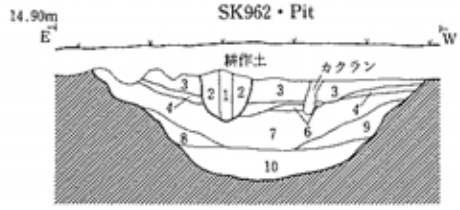
層No.	土色		土性	備考
SE969 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を多量に含む。2.5Y6/2灰黄色粘土質シルトブロックを含む。焼土を少量含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を多量に含む。2.5Y6/2灰黄色粘土質シルトブロックを含む
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
4	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を少量含む。
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を含む。
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を含む。
7	10YR3/3	にぶい黄褐色	シルト	2.5Y4/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
8	10YR4/4	褐色	シルト	炭化物を含む。
9	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量含む。
10	10YR3/3	暗褐色	シルト	
11	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y4/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y4/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
14	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
15	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y4/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
16	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y4/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
17	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	
18	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
19	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
20	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を含む。
21	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
22	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
23	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを多量に含む。
24	5Y2/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。



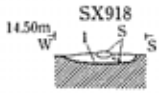
層No.	土色		土性	備考
SE964 1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	
3	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
4	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	
5	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を少量含む。
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を含む。
9	10YR5/2	暗灰黄色	シルト	
10	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	
11	10YR5/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を少量含む。
12	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	
13	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	
14	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	2.5Y2/1黒色粘土質シルトブロックを少量含む。



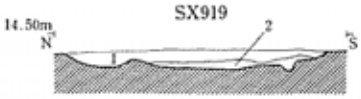
層No.	土色		土性	備考
SE970 1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物・焼土を少量含む。
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物・焼土を多量含む。
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物・焼土を含む。
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物・焼土を少量含む。
6	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を含む。
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量含む。
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
9	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/2灰黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
14	10YR4/1	灰褐色	粘土質シルト	
15	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。5Y4/1灰色シルトブロックを含む。
16	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	
17	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	
18	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	



層No.	土色		土性	備考
柱痕 1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
埋土 2	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを少量含む。
SK962 3	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。焼土を微量含む。
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	炭化物を含む。
5	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む。
6	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物を多量に含む。
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
9	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
10	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。



層No.	土色		土性	備考
SX918 1	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を少量含む。



層No.	土色		土性	備考
SX919 1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土・10YR4/4褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
2	10YR2/1	黒色	シルト	炭化物を多量に含む。焼土・10YR4/4褐色粘土質シルトブロックを少量含む。

0　2m

第10図　24区遺構断面図（4）

b．25区（第11図～第12図）

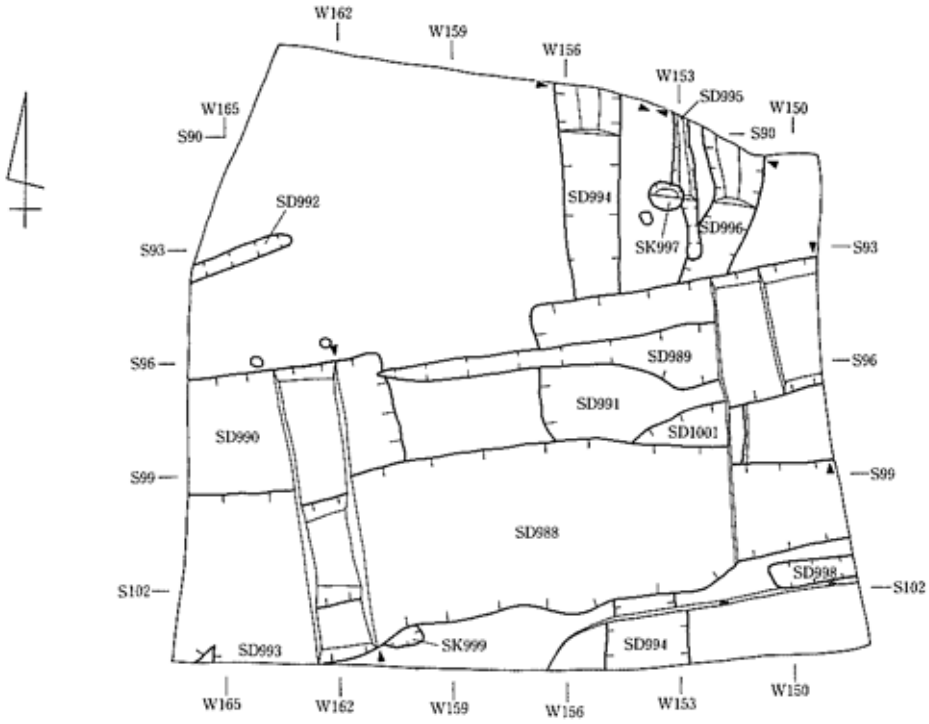
24区の南方にある高まりであるが、近年に現水田面から1.0m前後盛土をし、最近まで畑地として利用されていたことがわかった。遺構確認面は基本層位Ⅳ－3層の灰白色火山灰層上面で、圃場整備で削平されるレベル以下だったため、確認調査のみ行なった。溝跡11条、土壙3基(うち1基は断面でのみ確認)が確認された。

溝跡

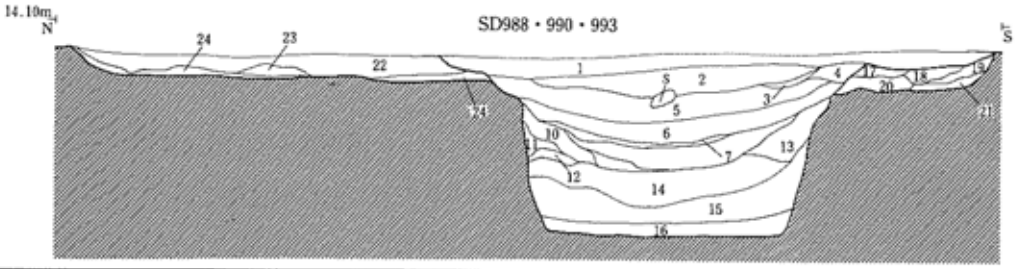
【ＳＤ988溝跡】調査区南端Ｓ100付近で確認された東西溝である。ＳＤ990･991･993･994･ＳＫ999より新しい。溝の幅は4.5m、深さは断面観察から1.6mで、断面形は上部がわずかに開き、底面が平らなビーカー型を呈する。堆積土は下部は人為的に埋め戻され、上部はオリーブ黒色のシルト、粘土質シルトの自然堆積土である。なお、本溝跡は24区南西端のＳＤ986と方向、規模、断面形、堆積状況が類似することから一連の溝である可能性がある。

【ＳＤ991溝跡】調査区東側Ｓ96付近で確認された東西溝である。ＳＤ994･996より新しく、ＳＤ988･989より古い。溝の幅は3.5～4.0m、深さは断面観察から80㎝で、断面形は上部がわずかに開き、底面が平らなビーカー型を呈する。溝跡は地山の土を中心に人為的に埋め戻されている。

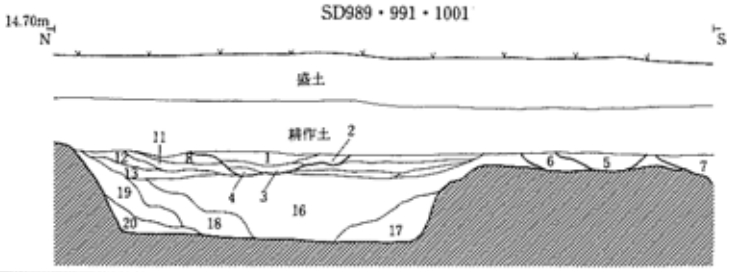
【ＳＤ994 溝跡】調査区ほぼ中央W155 付近で確認された南北溝で、さらに北側、南側に延びる。ＳＤ988･989･991、ＳＫ1117より古い。溝の幅は1.7m、深さは断面観察から1.3mで、断面形は上部が開くロート型を呈する。堆積土は下部は人為的に埋め戻され、上部は炭化物を含む暗褐色シルトの自然堆積土である。



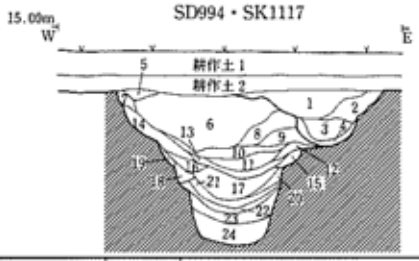
第11図　25区遺構平面図

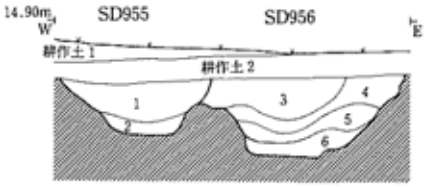


層No	土色		土性	備考	層No	土色		土性	備考
SE988 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト		13	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量含む。	14	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト		15	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
4	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量含む。	16	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
5	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	SD99317	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量含む。
6	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	2.5Y4/2暗褐色砂を含む。	18	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量含む。
7	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	19	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。灰白色火山灰ブロックを含む。
8	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。	20	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを多量に含む。
9	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	21	5Y5/1	灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を多量に含む。炭化物を少量含む。
10	5Y4/2	灰オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を多量含む。	SD99022	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を少量含む。
11	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	23	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	24	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを多量に含む。



層No	土色		土性	備考	層No	土色		土性	備考
SD989 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。	11	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを含む。	12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。灰白色火山灰ブロックを少量に含む。	13	2.5Y4/2	オリーブ褐色	粘土質シルト	同色の砂質シルトを部分的に含む。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。	14	2.5/4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
SD10015	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを含む。	15	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを含む。
6	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。	16	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
7	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを含む。	17	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
SD991 8	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを含む。	18	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを含む。
9	2.5Y3/3	黒褐色	粘土質シルト		19	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを多量に含む。
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。	20	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。





層No	土色		土性	備考
SK11171	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	
3	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
SD994 5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	灰白色火山灰ブロック・焼土を微量含む。
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを含む。
7	10YR3/3	暗褐色	シルト	
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	
9	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を微量含む。
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
11	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	10YR3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物・焼土を含む。
13	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
14	5Y4/1	灰色	シルト	炭化物・同色の砂質シルトを含む。
15	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
16	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
17	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	
18	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
19	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	同色の砂質シルトを少量含む。
20	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
21	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
22	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	
23	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	
24	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	少礫を数個含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む。

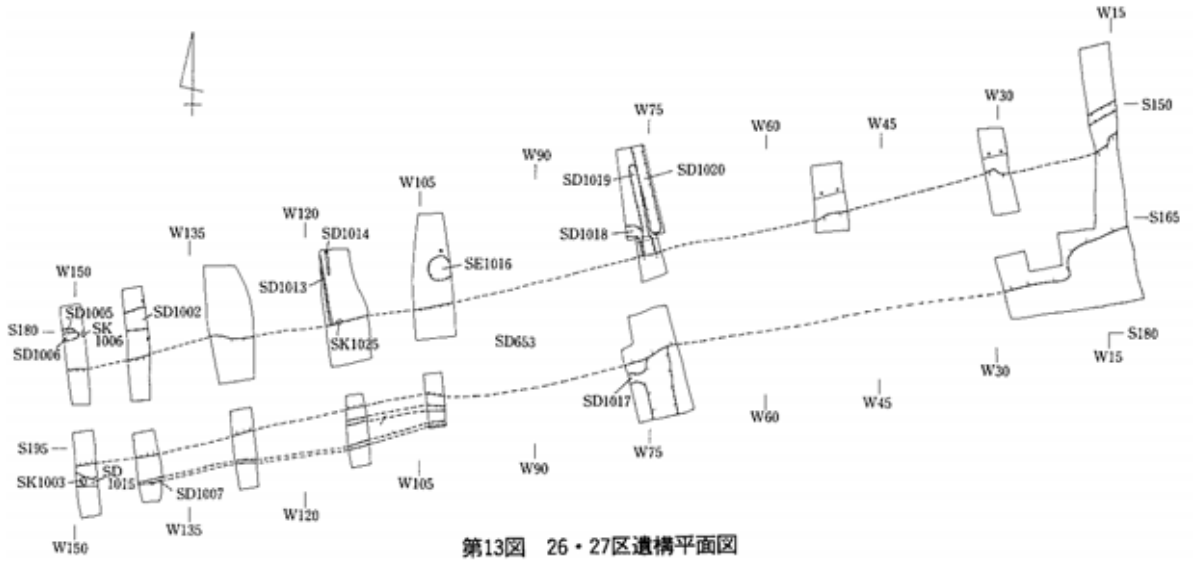
層No	土色		土性	備考
SD995 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物・2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む。
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む。
SD996 3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
6	5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。

第12図　25区遺構断面図

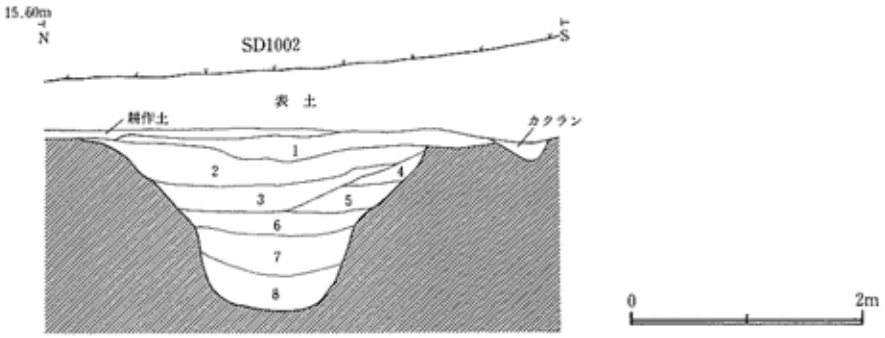
c．26・27区（第13図～第14図）

北目用水の北側、南側の土手状の高まりで、19区と20区の間が26区、5区と19区の間が27区である。調査の結果、この土手状の高まりは昨年度調査した19・20・23区と同様に、現代の盛土であった。遺構確認面は基本層位Ⅳ－3 層の灰白色火山灰層上面で、圃場整備によって削平されるレベル以下であったため、主に北目用水と重複しているＳＤ653 大溝のプランを確認することを目的としたトレンチ調査を行なった。その結果、26区、27区で溝跡12条、井戸跡1基、土壙3基、道路跡1条を確認した。

ＳＤ653 大溝は幅12～14mと23区より2～4mほど幅を広げて東に延び、調査区東端のW10 付近で北東に方向を変えて5区西で確認されたＳＤ118 大溝と連絡することが明らかとなった。また、詳細は29区で述べるが、27区のN-1、S-1 トレンチでＳＸ1120 道路跡A段階の東側溝になるＳＤ1017・1019と、B段階の西側溝になるＳＤ1020が確認されている。A段階のＳＤ1017・1019はＳＤ653 大溝より古い。B段階のＳＤ1020との新旧関係は不明である。



第13図　26・27区遺構平面図



層No	土	色	土 性	備 考
SD10021	2.5Y4/3	オリーブ黒色	砂質シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を含む。
2	2.5Y4/4	オリーブ黒色	砂質シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を多量に含む。
3	10YR4/3	オリーブ黒色	砂質シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。灰白色火山灰粒を含む。
4	2.5Y4/4	オリーブ黒色	砂質シルト	
5	2.5Y4/4	オリーブ黒色	砂	
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
7	2.5Y5/1	黄 灰 色	砂質シルト	8層との境界に厚さ3 cm の炭化物層を含む。
8	5Y4/1	灰　　色	砂	

第14図　26区 SD1002断面図

d．28区（第15図～第17図）

4区の西側、17区の南側に残る高まり部分であるが、この高まりは近年の盛土で、調査直前まで畑地として利用されていたことがわかった。遺構確認面は基本層位Ⅱ－3層にあたるＳＸ1086整地層上面である。ＳＸ1086整地層は、一部削平されているが、調査区ほぼ中央に東西15m、南北13mの範囲に認められた。層厚は約10㎝で南ほど薄くなる。また、調査区西側・北側は基本属位Ⅲ－1層まで削平されていた。そのため、整地層残存部分が30㎝ほど高くなっている。掘立柱建物跡2棟、柱穴列跡1列、溝跡5条、井戸跡3基、土壙4基、焼け面跡3基、竪穴状遺構1基が確認されたが、ほとんどは整地層上面で確認されたもので、W9、S6付近では8時期の建物の変遷が確認された。一方、整地層下面の基本層位Ⅱ－4層では柱穴が少数確認されたにすぎない。また、整地層が残存していない部分で確認された遺構と整地層との関係は不明である。以下、主な遺構の説明に入るが、建物跡の新旧関係は第14表に示したため省略する。

掘立柱建物跡

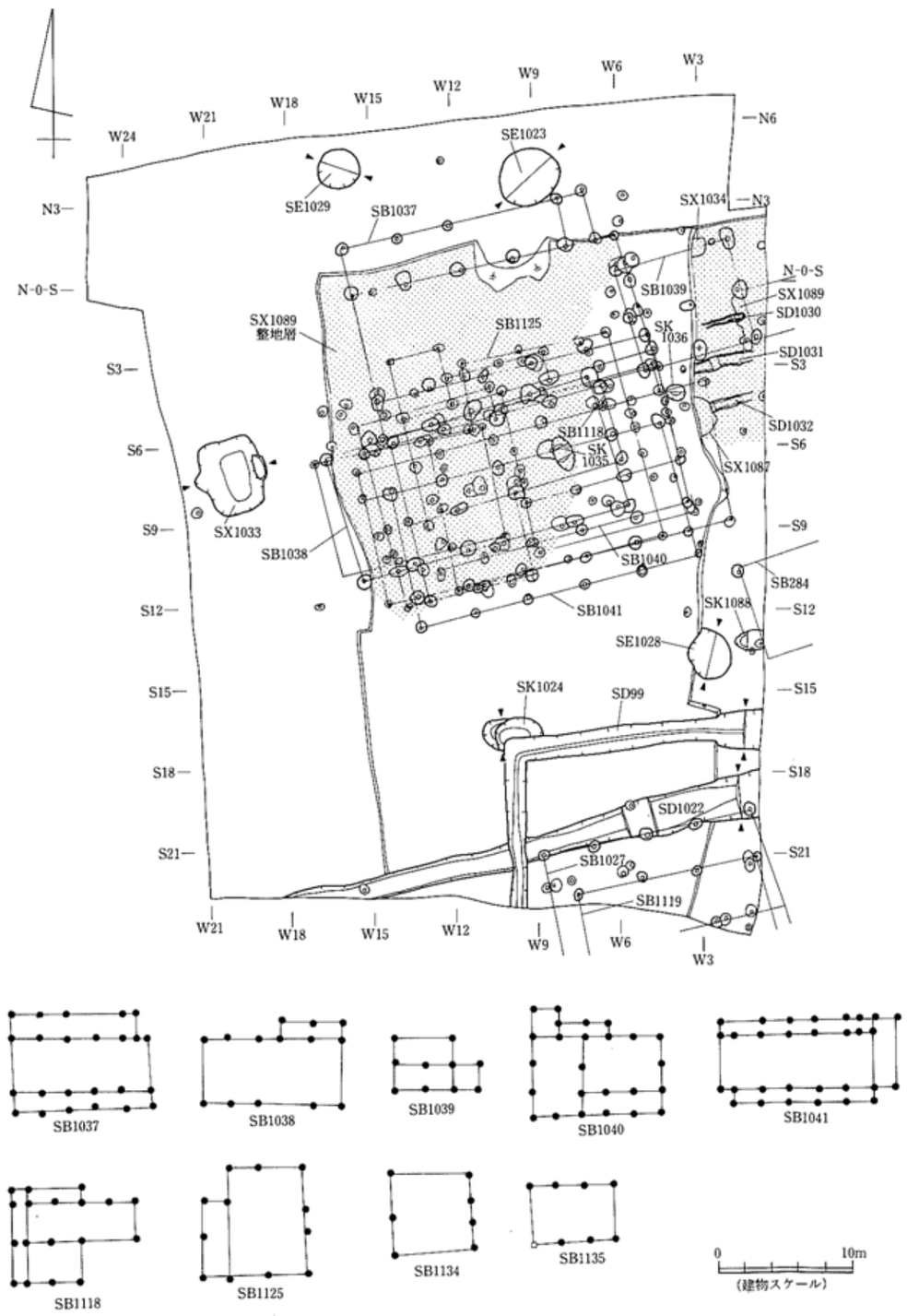
【ＳＢ1037建物跡】調査区北側、整地層上面で確認された。桁行4間、梁行1間の東西棟で、東・南・北側に廂が付く。建物総長は桁行10m、梁行7m、柱間寸法は桁行2.0m、梁行4.0m、張り出しは1.9mである。柱穴掘り方は長径40～70㎝、短径30～50㎝の楕円形とばらつきがある。深さは身舎の柱穴が80㎝、張り出しの柱穴が（身舎の確認面から）60㎝前後と深い。柱痕跡は径16～18㎝の円形である。いずれの柱穴にも灰白色火山灰ブロックが入っていた。

【ＳＢ1038建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行5間、梁行1間の東西棟で北側に張り出しが付く。南桁の東から3番目の柱穴が欠けている。建物総長は桁行10.0m、梁行5.0m、柱間寸法は桁行1.6～2.3m、梁行5.0mである。柱穴掘り方は長径40～80㎝、短径40～60㎝の楕円形とばらつきがある。深さは60～70㎝と深い。柱痕跡は径12～14㎝の円形である。いずれの柱穴にも灰白色火山灰ブロックが入っていた。

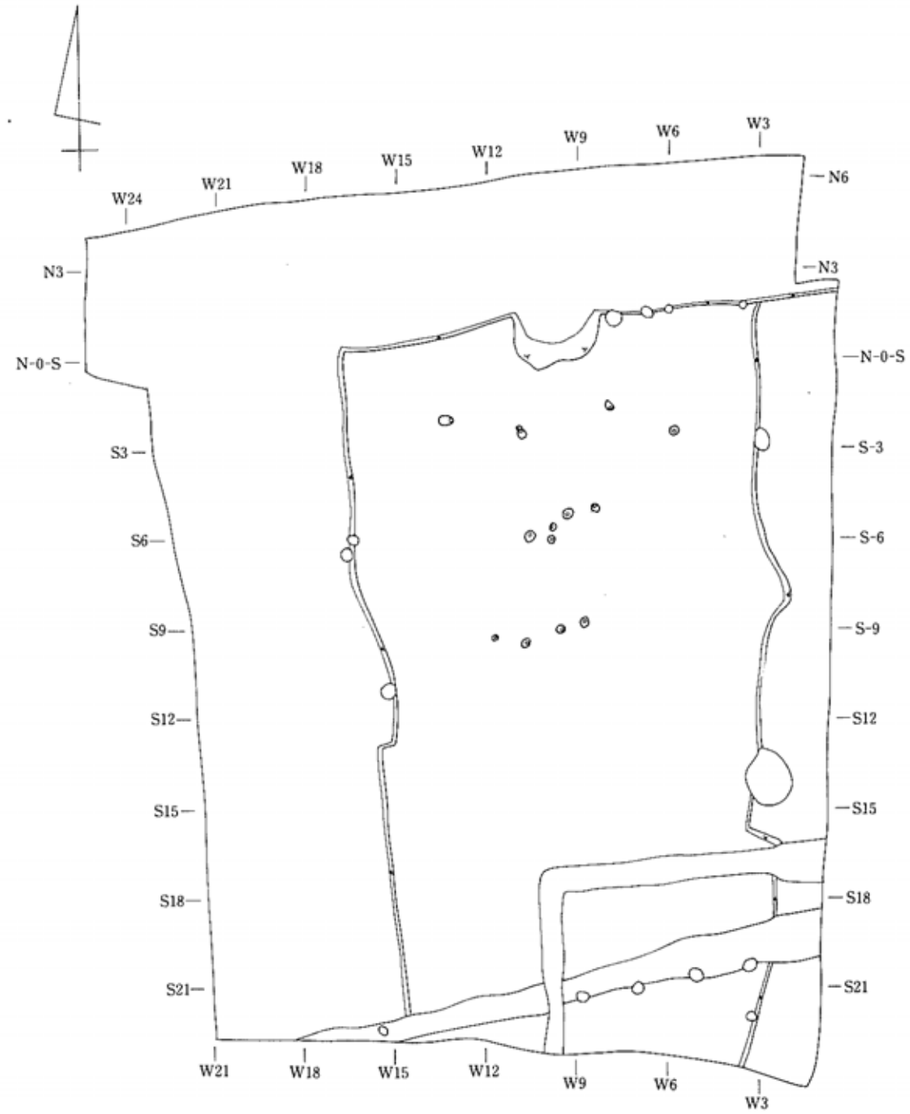
【ＳＢ1040建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行5間、梁行2間の東西棟で、北側に1間と半間の張り出しが付く。身舎の西から3列目と南から2列目に間仕切りが認められる。建物総長は桁行9.0m、梁行8.0m、柱間寸法は桁行1.8m、梁行1.8～2.1m、張り出しは2.0m、1.0mである。柱穴掘り方は長径30～70㎝、短径20～40㎝の楕円形とばらつきがある。深さは15～25㎝である。柱痕跡は径12～14㎝の円形である。

【ＳＢ1041建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行5間、梁行2間の東西棟で、四面に廂が付く。建物総長は桁行11.3m、梁行5.0m、柱間寸法は桁行2.0m、梁行5.0m、廂は南、西とも1.0mである。柱穴掘り方は身舎が長径30～50㎝、短径25～30㎝の円形、廂が径20～30㎝の円形とまとまっている。深さは40～50㎝である。柱痕跡は径14～16㎝の円形である。

【ＳＢ1118建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行4間、梁行1間の東西棟で、南と北に張り出し、西に廂が付く。建物総長は桁行9.3m、梁行6.6m、柱間寸法は桁行2.0m、梁行2.9m、廂は1.0mである。柱穴掘り方は身舎が長径30～70㎝、短径20～50㎝の円形、廂が長径20～40㎝、短径20～30㎝の円形である。深さは25～30㎝である。柱痕跡は径14㎝前後の円形である。



第15図　28区遺構平面図・建物模式図（整地層上面）

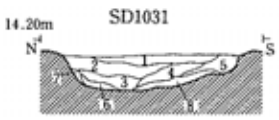


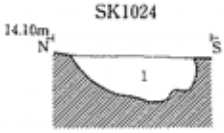
第16図　28区遺構平面図（整地層下面）

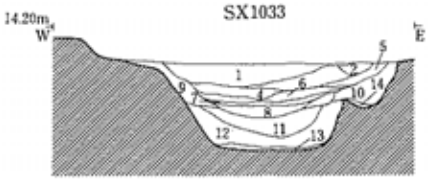
	S B1037	S B1038	S B1039	S B1040	S B1041	S B1118	S B1125	S B1134	S B1135
S B1037		新	古	古		古	△	△	△
S B1038	古			△	△	△	△	△	△
S B1039	新			△				新	
S B1040	新	△	△		△	△	古	古	新
S B1041		△		△		古	△	△	△
S B1118	新	△		△	新		△	新	新
S B1125	△	△		新	△	△		新	新
S B1134	△	△	古	新	△	古	古		
S B1135	△	△		古	△	古	古		

新：～より新しい　古：～より古い　△：重複あるが新旧不明

28区整地層上面で確認された建物跡の新旧関係



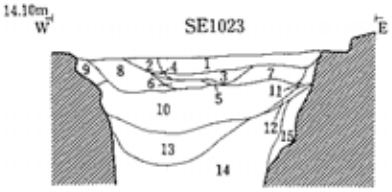


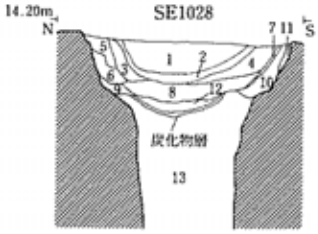


層No.	土色		土性	備考
SD1031 1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	焼土を微量含む。
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を微量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を微量含む。
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	同色の砂質シルトを部分的に少量含む。
5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y4/3 粘土質シルトブロックを含む。
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
8	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	同色の砂質シルトを部分的に少量含む。

層No.	土色		土性	備考
SK1024 1	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルト・灰白色火山灰ブロックを少量含む。

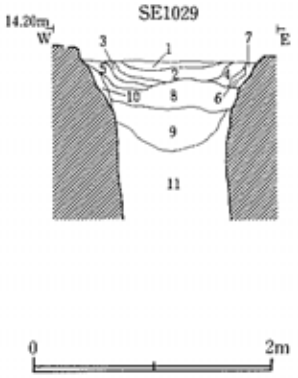
層No.	土色		土性	備考
SX1033 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	少礫を多量に含む。
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトを部分的に含む。
3	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	焼土・鉄滓を多量に含む。炭化物を含む。
4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土を少量含む。
5	5Y3/1	オリーブ黒色	灰	ワラを焼いた灰。
6	5Y2/4	極暗赤褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土・鉄滓を多量に含む。
7	5Y2/1	黒褐色	粘土質シルト	焼土を含む。しまりあり。
8	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	糞を含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む（粘土層と灰の互層）。
9	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	
10	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量含む。
11	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。粘性非常にあり。グライ化。
12	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。スクモを含む。ややグライ化。
13	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
14	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。





層No.	土色		土性	備考
SE1023 1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	少礫を少量含む。
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を微量含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物・少礫を少量含む。
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。灰白色火山灰粒を微量含む。
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物を含む。2.5Y5/3 にぶい黄色粘土質シルトを少量含む。
9	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
10	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	
11	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	
12	7.5Y5/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
13	5Y2/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。砂質シルトを下層に多く含む。
14	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
15	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルトブロックを含む。

層No.	土色		土性	備考
SE1028 1	10YR2/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土を少量含む。
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを少量含む。同色の砂質シルトを部分的に少量含む。
3	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
6	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	
8	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
9	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
11	10YR3/3	暗褐色	シルト	
12	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	13層との境界に炭化物を帯状に含む。
13	5Y2/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物・5Y4/2 灰オリーブ色粘土質シルトブロックを少量含む。スクモを部分的に少量含む。



層No.	土色		土性	備考
SE1029 1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	10YR4/4 褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	焼土を微量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを少量含む。2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルトブロックを含む。
5	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。
6	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	
7	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
9	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
10	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
11	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	炭化物・2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルトブロックを少量含む

第17図　28区遺構断面図

【ＳＢ1125 建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行３間、梁行２間の南北棟で、西に張り出しが付く。建物総長は桁行7.0m、梁行5.4m、柱間寸法は桁行1.5～2.7m、梁行2.0～3.6m、廂は2.0mである。柱穴掘り方は身舎が長径30～40㎝、短径20～30㎝の円形、張り出しが長径30㎝、短径20㎝の円形、楕円形を呈する。深さは20～30㎝である。柱痕跡は径10㎝前後の円形である。

【ＳＢ1134 建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行は東桁行３間・西桁行２間、梁行１間の南北棟で、西に張り出しが付く。建物総長は桁行 7.0m、梁行 5.4m、柱間寸法は桁行 1.5～2.7m、梁行 2.0～3.6m、廂は 2.0mである。柱穴掘り方は身舎が長径 30～50㎝、短径 25～30㎝の円形、廂が径 20～30㎝の円形とまとまっている。深さは 20㎝前後である。柱痕跡は径 10㎝前後の円形である。

【ＳＢ1135 建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行３間、梁行１間の東西棟で、南桁の西端の柱穴は削平のためか認められない。建物総長は桁行 6.3m、梁行 4.0m、柱間寸法は桁行 2.0～2.3m、梁行 4.0mである。柱穴掘り方は長径 30～40㎝、短径 20～30㎝の円形、深さは 20㎝前後である。柱痕跡は径 10㎝前後の円形である。

竪穴状遺構

【ＳＸ1033 竪穴状遺構】調査区西端、基本層位Ⅲ－１層で確認されたが、この付近は後世の削平が及んでいるため、本来は整地層上面から掘り込まれた可能性が高い。平面形は隅丸長方形を呈し、東側には階段状のステップが付く。西側の一部は攪乱により壊されている。規模は長径 2.8m、短径 2.2mで、ステップ部分は 15㎝ほど張り出す。深さは確認面から底面までが 75㎝前後、ステップ面までが 40㎝前後である。断面形は上部が広がり、底面が平らな皿型を呈する。堆積状況は、1 が小礫を含む自然堆積のシルト層、2～13 が焼土、炭化物、鉄滓、鞴の羽口などを多量に含む廃棄層、14 が踏み固められて汚れた地山ブロック層に大別される。ただし、2～13 は途中に藁を焼いた痕跡（5）や粘土と炭の互層(8)を挟んでいることから、2～13 は一度に廃棄されたものではなく、時間差があるといえる。

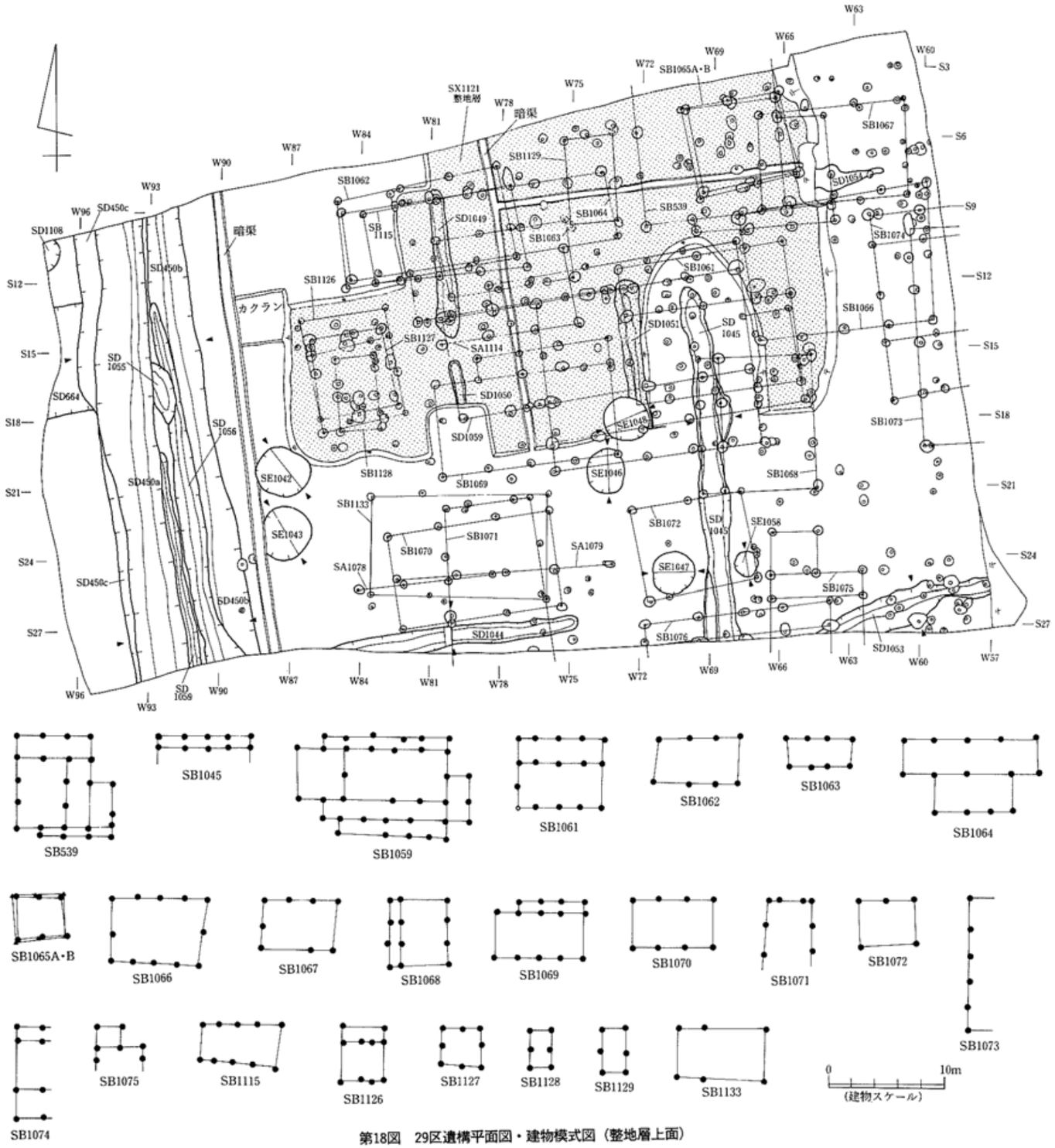
本遺構の性格は、廃棄層である 2～13 に焼土、炭化物、鉄滓、鞴の羽口などが含まれ、鍛冶に関連する遺構の可能性があるが、特に鍛冶に関係する施設や、焼け面などの鍛冶を行なった痕跡が確認できなかったことから鍛冶遺構とは断定できない。しかし、ステップを設けるなどある目的を持って構築されていることから竪穴状遺構としておく。

ｅ．29 区（第 18 図～第 21 図）

17 区の南側、19 区の東側に残る高まり部分である。調査の結果、現水田面から 1mほどの高まりは近年の盛土で、畑地として利用されていたことがわかった。遺構確認面は 17 区から延びる基本層位Ⅱ－2 層にあたるＳＸ1121 整地層上面である。

ＳＸ1121 整地層は、平成５年度に 17 区で確認された整地層と合わせると、W65～88、Ｎ～Ｓ20 のほぼ正方形に約 500 ㎡の範囲に残存していることが明らかとなった。ＳＸ1121 整地層は、本来、広範囲に残存していたものと予想されるが、調査区の東、南、西側は耕作などで基本層位Ⅲ－1 層まで削平されている。このため調査区中央の整地層残存部分が 30～40㎝ほど高く残る形になっている。

遺構は調査区全域に分布し、掘立柱建物跡 25 棟、柱穴列跡３列、井戸跡６基、溝跡 18 条、整地層１か所、道路跡１条が確認された。中央の高まり部分で確認された遺構は、ほとんどが整地層上面から掘り込ま



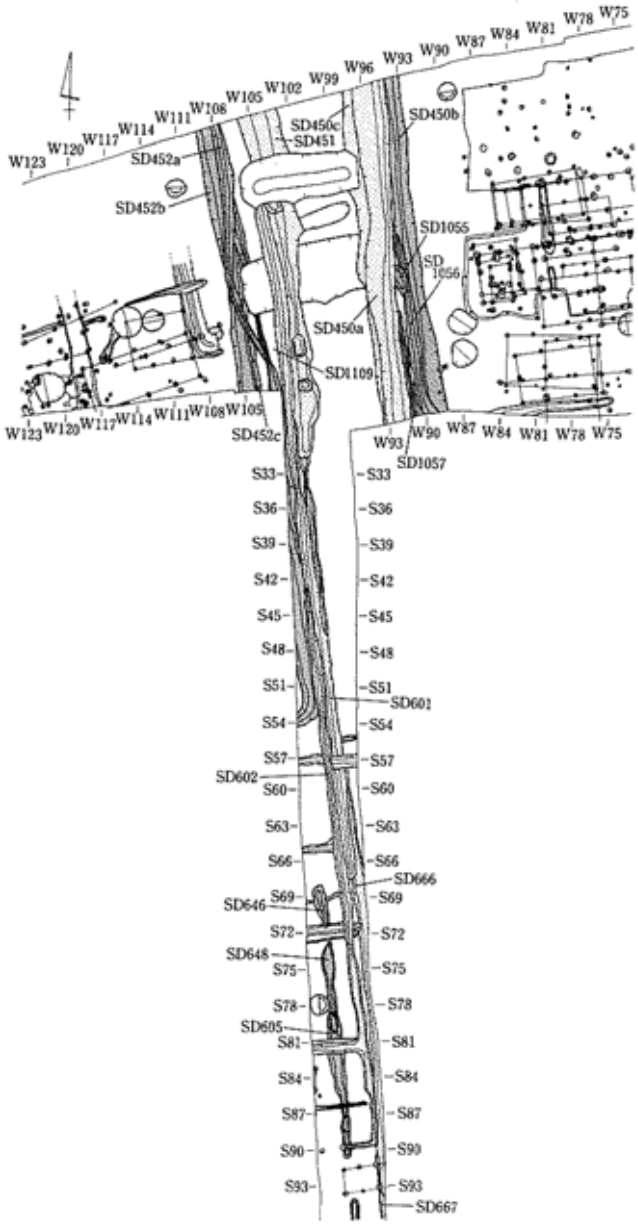
第18図　29区遺構平面図・建物模式図（整地層上面）

第19図　29区遺構平面図（整地層下面）

れたものであり、整地層下面のものは少数の柱穴、溝跡のみである。また、整地層が残存していない部分で確認された遺構とＳＸ1121 整地層との関係は不明である。

道路跡

【ＳＸ1120 道路跡】昨年度 19 区北側で、南北方向に延びる溝跡(ＳＤ601･663 他)と遺構が見られない部分が確認され、これらが道路西側溝と路面跡で、さらに側溝の特徴によって 2 時期存在する可能性が示された(天野：1995)。今年度の 24 区、29 区の調査であらたに西側溝の延長と東側溝となる溝跡を確認したことにより、これらは東西に素掘りの側溝をもつ南北道路跡と考えられる。ＳＸ1120 道路跡は側溝の新旧関係、方向、規模、堆積状況などの特徴から、大きく 2 時期に分けられる。古い時期の道路跡をＳＸ1120Ａ、新しい時期の道路跡をＳＸ1120Ｂとする。これらに伴う側溝は次の通りである。



第20図　SX1120道路跡

ＳＸ1120Ａ東側溝：ＳＤ450ｂ・1056
西側溝：ＳＤ452ａ・452ｂ・452ｃ・643・644・1109
ＳＸ1120Ｂ東側溝：ＳＤ450ａ・450ｃ
西側溝：ＳＤ601・602・603・663・666

ＳＸ1120Ａは、東側溝は調査区の関係でＳ27以南は確認されていないが、Ｓ3～67まで約64m確認でき、さらに南へ延びる。道路の方向はＮ－10°－Ｗである。路幅はＳ21付近のＳＤ450ｂ東側溝、ＳＤ452ｂ西側溝の心心で14.5mを計る。深さはＳＤ452ｂが80㎝前後、450ｂが70～80㎝で、両溝ともほとんど人為的に埋め戻されている。また、Ｓ54付近でＳＤ644西側溝が西に直角に曲がることからこの付近が交差点になる可能性がある。

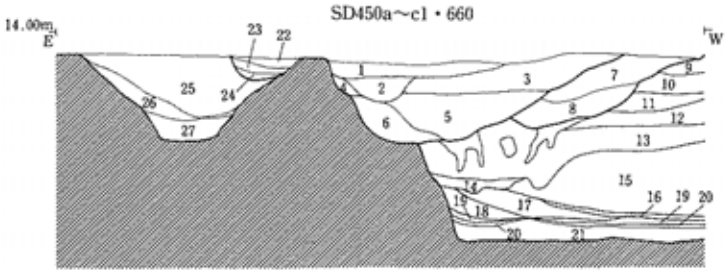
ＳＸ1120Ｂは、ＳＸ1120Ａ同様、Ｓ3～67まで約64m確認でき、さらに南へ延びる。道路の方向はＮ－7°－Ｗである。路幅はＳ21付近のＳＤ450ａ東側溝、ＳＤ601西側溝の心心で8.0mを計る。深さはＳＤ450ａで60㎝前後、ＳＤ601で30㎝前後で、両溝とも自然堆積である。西側溝は重複している溝が多く、部分的に作り直しているものと思われる。

掘立柱建物跡

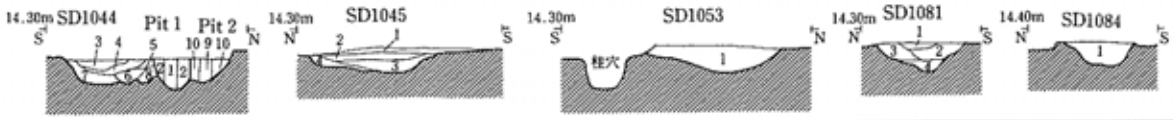
【ＳＢ1059建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行5間、梁行3間の東西棟で、南・北側に廂、東側に桁行1間、梁行2間の張り出し、西側に桁行2間、梁行2間の張り出しが付く。ＳＤ1045・1051、ＳＢ1068、ＳＡ1077より新しく、ＳＥ1048より古い。ＳＢ1051・1063・1066・1069との関係は不明である。建物総長は桁行14.5m、梁行8.8m、柱間寸法は、身舎は桁行2.0～2.2m、梁行2.0～2.3mである。北廂は1.0m、南廂は1.0～1.5m、東の張り出しは2.0m、西の張り出しは4.0m身舎から離れる。柱穴掘り方は径40～60㎝の円形、楕円形である。深さは40～50㎝、柱痕跡は径15㎝前後の円形である。

【ＳＢ1061建物跡】調査区東側、整地層上面で確認された。桁行4間、梁行2間(東妻は1間)の東西棟で、北側に廂が付く。ＳＤ1048・1051より新しく、ＳＥ1048より古い。ＳＢ1059・1066・1068との関係は不明である。建物総長は桁行7.2m、梁行6.0m、柱間寸法は桁行1.5～2.2m、梁行2.0m、張り出しは2.0mである。柱穴掘り方は長径30～60㎝、短径30～40㎝の円形、楕円形である。深さは40～50㎝、柱痕跡は径15㎝前後の円形である。

【ＳＢ1069建物跡】調査区中央、整地層上面で確認された。桁行4間、梁行1間の東西棟で、北側に桁行3間、梁行1間の張り出しが付く。ＳＥ1046、ＳＤ1051、ＳＡ1077より新しく、ＳＥ1048、ＳＢ1059との関係は不明である。建物総長は桁行7.6m、梁行5.0m、柱間寸法は桁行1.8～2.0m、梁行4.0m、張り出しは1.0mである。柱穴掘り方は、径30～40㎝の円形、深さは(整地層上面から)50㎝前後である。柱痕跡は径12～14㎝前後の円形である。



層No.	土色		土性	備考
SD450a 1	2.5Y5/2	黄褐色	シルト	
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	部分的に砂層を挟む。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。砂・シルト・粘土の互層。
5	2.5Y4/2	暗灰黄色		砂・粘土・シルトの互層
6	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	
SD450c1 7	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	
8	2.5Y5/1	黄灰色	シルト・砂	
SD660 9	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	
10	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	
11	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	部分的にグライ化した粘土ブロックを含む。
12	2.5Y4/1	黄灰色	粘土	砂層を挟む。
13	2.5Y3/2	黒褐色	粘土	均質。
14	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	木炭を少量含む。
15	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	同色のシルト・粘土を不規則に含む。木炭を含む。
16	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	水成堆積。
17	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	同色のシルト・粘土を不規則に含む。木炭を含む。
18	2.5Y3/2	黒褐色	粘土・シルト	互層。
19	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	均質。
20	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	均質。
21	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	同色のシルト・粘土を不規則に含む。
22	2.5Y5/2	黄褐色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
23	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	
24	2.5Y5/2	黄褐色	シルト	
450b 25	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
26	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	
27	2.5Y3/3	黄灰色	粘土	灰白色火山灰・同色のシルトと互層をなす。



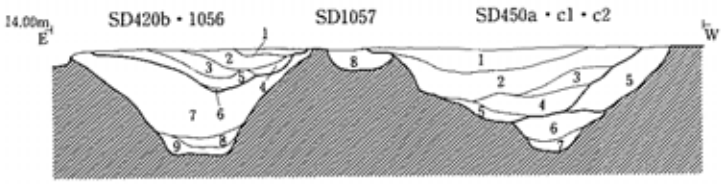
層No.	土色		土性	備考
Pit1 1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	柱痕跡。炭化物を微量含む。
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	掘り方埋土。10YR4/2 灰黄褐色シルトを含む。
SD1044 3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y6/4 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	しまりあり。
5	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	しまりあり。
6	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y6/4 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
8	2.5Y4/3	黄褐色	粘土質シルト	2.5Y5/4 黄褐色砂質シルトを少量含む。
Pit2 9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	柱痕跡。2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。
10	2.5Y3/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	掘り方埋土。

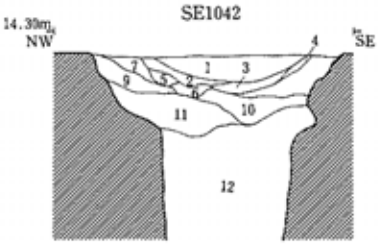
層No.	土色		土性	備考
SD1053	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭色ブロック，焼土を微量含む。

層No.	土色		土性	備考
SD1081 1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	2.5YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
3	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルトブロックを含む。
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。

層No.	土色		土性	備考
SD10841	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色，粘土質シルトブロックを少量含む。

層No.	土色		土性	備考
SD1045 1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	焼土を微量含む。
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。グライ化
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/3 にぶい黄褐色砂質シルトと互層をなす。



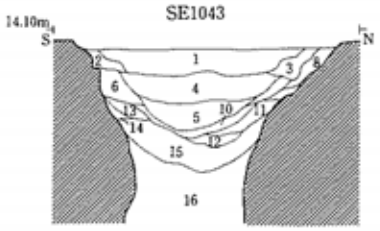


層No.	土色		土性	備考
SD450a 1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物を微量含む。
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。3層・5層との境に砂礫を含む。
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	同色の粘土質シルトを含む。
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	
SD450c1 5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
SD450c2 6	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	5Y4/3 暗オリーブ色粘土質シルトブロックを含む。炭化物少量。
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルトブロックを含む。炭化物を微量含む。
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
SD1056 1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	灰白色火山灰ブロックを含む。
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土を少量含む。灰白色火山灰粒を微量含む。
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを多量に含む。
5	5Y4/3	暗オリーブ色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを多量に含む。
6	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロックを含む。
SD450b 7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを含む。
8	7.5Y3/2	オリーブ褐色	粘土質シルト	
9	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	

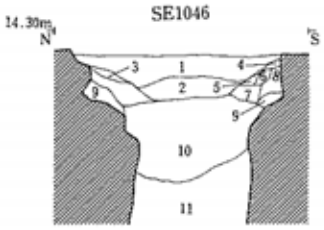
層No.	土色		土性	備考
SE1042 1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量含む。同色の砂質シルトを部分的に含む。
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物・焼土を少量含む。
3	10YR2/3	黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
4	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	炭化物を含む。焼土を微量含む。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	
7	10YR3/3	暗褐色	シルト	炭化物を微量含む。
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物・小礫を少量含む。
9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む。焼土を微量含む。
10	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを微量含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む。
11	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。
12	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを少量含む。炭化物を微量含む。

0 2m

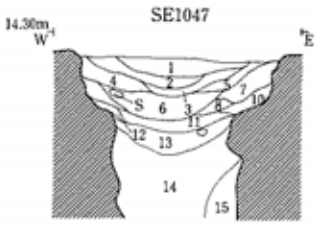
第21図　29区遺構断面図（1）



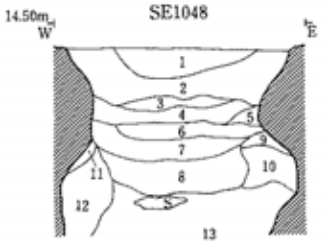
層No	土色		土性	備考
SE1043 1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を多量に含む。
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量含む。
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトブロック・灰白色火山灰ブロック・炭化物を少量含む。
5	5Y4/1	灰色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを含む。グライ化。
6	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
7	2.5Y4/1	暗灰黄色	粘土質シルト	炭化物・灰白色火山灰粒を少量含む。
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
9	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
10	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
11	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	ややグライ化している。
12	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	
13	5Y4/2	オリーブ色	粘土質シルト	しまりなし。
14	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを含む。
15	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
16	7.5Y4/1	灰色	シルト	粘性あり。



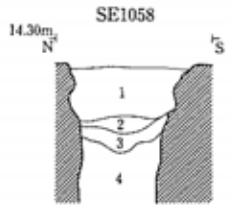
層No	土色		土性	備考
SE1046 1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	炭化物・焼土・灰白色火山灰粒を少量含む。
2	10YR4/1	褐灰色	シルト	
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	粘性なし。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
6	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y5/3黄褐色砂質シルトを含む。灰白色火山灰粒を少量含む。
10	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・10YR4/1灰色粘土質シルトブロック・　灰白色火山灰粒を含む。
11	7.5Y2/1	黒色	砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を含む。



層No	土色		土性	備考
SE1047 1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトブロック・灰白色火山灰粒を含む。
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む。
7	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト・2.5Y5/4黄褐色粘土質シルト・灰白色火山灰のブロックを多量に含む。
8	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	灰白色火山灰粒を少量含む。
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロックを多量に含む。
10	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
11	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘土質シルトブロック・灰白色火山灰粒を少量含む。
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	
13	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトブロックを含む。
14	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルトブロックを含む。
15	7.5Y4/1	灰色	砂質シルト	地山崩落土。



層No	土色		土性	備考
SE1048 1	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物を少量含む。
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を少量含む。
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
6	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。
7	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	炭化物・2.5Y5/2暗灰黄色シルトブロックを少量含む。
8	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色シルトブロックを少量含む。
9	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	地山崩落土。灰白色火山灰ブロックを多量含む。
10	10YR4/1	灰色	砂質シルト	地山崩落土。グライ化。
11	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	地山崩落土。灰白色火山灰ブロックを含む。
12	10YR4/1	灰色	砂質シルト	地山崩落土。灰白色火山灰ブロックを含む。
13	7.5Y4/1	灰色	砂質シルト	粘性あり。



層No	土色		土性	備考
SE1058 1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト・2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト・灰白色火山灰ブロックを少量含む。
2	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	5Y3/2オリーブ黒色粘土質シルトブロックを含む。グライ化。
3	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	グライ化。
4	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	グライ化。

第22図　29区遺構断面図（2）

区	掘立柱建物跡	柱穴列跡	井戸跡	土壙	溝跡	炭化物集中遺構	焼け面跡	集石遺構	道路跡	陥穴状遺構	整地層	計
24	39	7	21	2	46	1	1	1	1		1	120
25				3	11							14
26			1	3	8							12
27					6							6
28	11	1	3	4	5		3			1	1	29
29	23	3	6		18				1		1	52
計	73	11	31	12	94	1	4	1	2	1	3	233

第１表　各区で確認された遺構数

区	遺構No	位置	方向	規模(桁・梁)	柱間寸法(桁・梁)	重複	備考
24	SB943	W174 S51	東－西	3間×１間	1.2~1.9m・2.8m	SD921・923より新しい。SB945・947との関係は不明。	
〃	944	W177 S55	東－西	3間×１間	1.7m・3.5m	SD924・942より新しい。SD923・SB943・SA947との関係は不明。	
〃	948	W170 S60	東－西	－×１間	－・3.4m	SD942より新しい。SD910，SB949との関係は不明。	西に廂
〃	949	W171 S62	東－西(？)	3間×２間	2.0~2.5m・1.0~1.2m	SD910より新しい。SD948・950・952・1112・1113との関係は不明。	
〃	950	W177 S61	東－西	4間×１間	1.6~2.4m・3.0~3.4m	SD908，910：SB952より新しい。SB949・1102との関係は不明。	
〃	952	W177 S63	南－北	１間以上×１間	1.0m・1.7m	SD910より新しい。SB950より古い。SB949・1113との関係は不明。	西に廂
〃	973	W136 S27	東－西(？)	4間×－	2.0m・－	SB974・975・976・977・1116との関係は不明	北に張り出し
〃	974	W144 S30	東－西(？)	4間×－	2.0m・－	SB976より古い。SB973・974，975・977・116との関係は不明。	
〃	975	W134 S28	東－西(？)	2間×－	2.4m・－	SB976・1116より新しい。S973・974・977との関係は不明。	
〃	976	W134 S28	東－西(？)	2間×－	2.0~2.3m・－	SB974より新しく，SB975より古い。SB973・976・977・1116との関係は不明。	
〃	977	W133 S28	東－西(？)	4間×－	2.0~2.3m・－	SB973・974・975・976・977・980・1116との関係は不明。	
〃	978	W125 S22	東－西	3間×１間	2.5~2.8m・4.0	SD965・966・1010より新しい。SD972，SK971，SE963，969との関係は不明。	
〃	979	W126 S23	東－西	2間×１間	2.2m・1.8m	SD966，SE969より新しく，SE963より古い。SB978との関係は不明。	
〃	980	w123 S26	東－西(？)	4間×１間以上	2.0~2.2m・1.8m	SD966より新しい。SB977，SK962との関係は不明。	
〃	981	W110 S19	東－西	3間×１間	1.5m・4.1m	SD958，SE955より新しい。SB982，SA985，SE959との関係は不明。	
〃	982	W110 S21	東－西	4間×１間	2.3m・3.8m	SD1011より新しい。SB985との関係は不明。	
〃	1090	W204 S64	東－西	3間×１間	2.0m・4.0m	SB1091・1092との関係は不明。	
〃	1091	W207 S69	南－北	3間×２間	2.0m・2.5m	SD900・901・902・954より新しい。SB1090との関係は不明。	南に廂。東に張り出し。
〃	1092	W198 S67	東－西	2間×１間	2.0~2.5m・6.0m	SD935より新しい。SB1093との関係は不明。	東に廂。南に張り出し。
〃	1093	W192 S70	東－西	5間×１間	1.8~2.1m・3.7m	SD935より新しい。SB1092・1094・1103との関係は不明。	東に廂。
〃	1094	W190 S72	東－西	3間×１間	1.8~2.2m・4.2m	SD660・935，SB1092より新しい。SB1093・1095・1103との関係は不明。	
〃	1095	W197 S76	東－西	4間×１間	1.8~2.0m・3.5m	SD935・937より新しい。SB1103より古い。SB1094・1096，SD660，SE905との関係は不明。	
〃	1096	W192 S78	東－西	4間×１間	2.0m・3.5m	SD660・935・941より新しい。SB1094・1098との関係は不明。	
〃	1097	W192 S79	南－北	3間×１間	2.1m・3.2~3.6m	SA1110より新しい。SD935・932・941，SB1096・1098との関係は不明。	
〃	1098	W191 S80	南－北	2間×１間	1.8m・2.5m	SD932・941より新しい。SB1096・1097との関係は不明。	
〃	1099	W199 S89	東－西	１間×１間	2.1m・1.6m		
〃	1100	W188 S92	南－北(？)	１間以上×２間	2.5m・2.3~2.9m	SB1101，SD933との関係は不明。	
〃	1101	W192 S94	南－北(？)	－×１間	－・3.5m	SB1100との関係は不明。	
〃	1102	W190 S85	東－西	4間×１間	1.6~2.0m・3.1m	SB950との関係は不明。	
〃	1103	W184 S72	東－西	2間×２間	2.5m・2.0m	SD660・937，SB1095より新しい。SB1093，1094，1104との関係は不明。	西・東に廂。間仕切り穴あり。
〃	1104	W189 S73	東－西	3間×１間	1.8m・3.3m	SD660・927より新しい。SB1094，1103との関係は不明。	
〃	1105	W189 S83	南－北	3間×１間	1.5m・3.1m	SA1110，SE911との関係は不明。	
〃	1106	W181 S88	東－西	3間×１間	2.0m・3.1m	SD907・930，SE912より新しい。	
〃	1107	W181 S77	東－西	１間以上×２間	3.5m・1.8m	SD908・928・932との関係は不明。	
〃	1112	W192 S62	南－北(？)	１間以上×１間	1.8m・3.0m	SD910より新しい。SB949・1113との関係は不明。	東に廂。
〃	1113	W193 S61	南－北(？)	－×１間	－・3.0m	SD910より新しい。SB949・952・1112との関係は不明	北に廂。
〃	1116	W132 S29	東－西(？)	3間×－	2.5m・－	SB973・974・975・976・977との関係は不明。	
28	1027	W9 S21	東－西	4間×１間	2.0~2.4・－	SD1022より新しい。SB1119との関係は不明。	
〃	1037	W16 N4~5	東－西	4間×１間	2.0m~4.0m	重複関係は第14表参照。	南北に廂
〃	1038	W15 S11	東－西	5間×１間	2.0~3.0m~5.0m	〃	北に張出し
〃	1039	W2 N1	東－西	3間×１間	2.4m・2.4m	〃	北に張出し
〃	1040	W10 S4	東－西	5間×３間	2.4m・2.4m	〃	北に張出し
〃	1041	W14 S8	東－西	5間×１間	2.2m・2.2m	〃	四面廂
〃	1118	W15 S6	東－西	4間×１間	2.2m・3.2m	〃	西に廂。南北に張出し
〃	1119	W7 S22	東－西	3間×１間？	2.4m・	SB1027との関係は不明。	
〃	1125	W12 S6	南－北	3間×２間	1.8~3.4m・2.4~3.8m	重複関係は第14表参照	西に張出し
〃	1134	W10 S4	東－西	3間×１間	2.4~3.0m・7.0m	〃	
〃	1135	W16 S6	東－西	3間×１間	2.4m・5.0m	〃	
29	1059	W68 S12	東－西	6間×２間	1.8~2.3m・2.1m	SB1058，SA1077，SD1045・1049・1051，SE1048より新しい。SB1061・1066・1068，SA1114との関係は不明。	北，東，南に張出し。間仕切り穴あり。
〃	1061	W67 S13	東－西	4間×２間	1.5~2.2m・1.8~2.0m	SD1045・1051より新しい。SB1059・1066・1068より新しい。	北に廂
〃	1062	W78 S7	東－西	3間×１間	2.2~3.0m・3.6~4.0m	SB1063・1064・1115，SD1049との関係は不明。	
〃	1063	W79 S10	東－西	3間×１間	1.4~2.0m・2.5m	SD1049より新しく，SB1059よりも古い。SB1062・1064・1115との関係は不明。	
〃	1064	W74 S7	東－西	4間×１間	2.8~3.8m・2.8m	SB1115より新しい。SB1062・1063・SD1049との関係は不明	南に張出し
〃	1065A	W70 S5	東－西	2間×１間	2.0~2.2m・3.5~4.0m	SB527・1067との関係は不明。	
〃	1065B	W70 S5	東－西	2間×１間	2.0m・3.5~3.7m	SB527・1067との関係は不明。	
〃	1066	W60 S8	東－西	4間×１間	2.0m・5.4~5.8m	SB527より古い。SB1059・1061・1067・1073・1074との関係は不明。	
〃	1068	W65 S21	南－北	3間×１間	2.0m・4.0m	SD1045より新しく，SB1059より古い。SB1061・1072との関係は不明。	西に廂
〃	1069	W81 S17	東－西	4間×１間	1.7~2.0m・3.8m	SE1045より新しい。SB1059，SD1050，SE1048との関係は不明。	北に張出し
〃	1070	W83 S23	東－西	3間×１間	2.2~2.5m・4.0m	SB1071より新しい。SA1078・1079との関係は不明。	
〃	1071	W78 S21	南－北	3間×３間以上	1.0~2.0m・2.0~2.5m	SB1070より古い。SA1078・1079との関係は不明。	
〃	1072	W72 S22	東－西	2間×１間	2.5m・4.0m	SB1068，SD1045，SE1047・1058との関係は不明。	
〃	1073	W61 S10	南－北(？)	4間×－	2.4~2.6・－	SB1066・1074との関係は不明。	
〃	1074	W62 S9	南－北(？)	4間×１間	1.4~2.5・2.2m	SB1066・1073との関係は不明。	南北に廂
〃	1075	W63 S25	南－北(？)	１間以上×２間	1m・2.0m	SB1076，SD1053との関係は不明。	
〃	1115	W84 S9	東－西	4間×１間	1.1~2.0m・3.0~3.5m	SD1049より新しく，SB1064より古い。SB1063・1064との関係は不明。	
〃	1126	W86 S15	南－北	2間×１間	1.2~1.5m・1.2~2.4m	SB1127より新しい。SB1028との関係は不明。	
〃	1127	W86 S16	南－北	2間×２間	1.5~1.8m・1.5m	SB1062・1126より古い。	
〃	1128	W86 S16	南－北	2間×１間	1.8m・1.5~1.8m	SB1027・1128との関係は不明。	
〃	1129	W75 S6	南－北	2間×１間	2.0m・2.0m	SB1063・1064との関係は不明。	
〃	1133	W84 S22	東－西	１間×１間	5.5m・5.3m	SB1070・1071，SA1078との関係は不明。	西に廂

第２表　掘立柱建物跡属性表

区	遺構No.	位置	方向	規模	柱間寸法	重複	備考
24	SA945	W183 S51	東－西	3間	1.6～2.0m	SB943との関係は不明。	
〃	947	W179 S53	東－西	3間	1.3～1.8m	SD921・923より新しい。SB943・945との関係は不明。	
〃	983	W123 S22	東－西	3間	2.4～3.0m	SD1011より新しい。	
〃	984	W123 S24	東－西	3間	1.6～1.8m	SD1011より新しい。	
〃	985	W116 S24	東－西	3間	2.0～2.5m	SD957・958より新しい。SB981・982との関係は不明。	
〃	1110	W178 S60	東－西	3間	1.5～2.2m	SD908より新しい。	
〃	1111	W187 S84	東－西	3間	1.8～2.0m	SB1097より古い。SB1105との関係は不明。	
28	1027	W9 S21	東－西	4間	1.8～2.0m	SD1022より新しい。	
29	1077	W86 S15	東－西	5間	1.5～1.8m	SD1049より新しく，SB1059より古い。	
〃	1078	W84 S25	東－西	3間	2.0m	SB1070・1071，SA1079との関係は不明。	
〃	1079	W73 S24	東－西	4間	2.2～2.5m	SB1070・1071，SA1078との関係は不明。	

第3表　柱穴列跡属性表

区	遺構No.	位置	平面形態	断面形態	上部の径(m)	下部の径(m)	深さ(m)	堆積状況	重複	備考
24	SE903	W207 S102	不整円形	筒状	(長)2.0	1.3	1.1	人為		
〃	904	W208 S99	円形	ロート状(小)	1.6	0.95	1.4以上	人為	SD900より古い	
〃	905	W199 S76	楕円形	箱状	(長)2.0	1.1	1.6以上	人為	SB1095との関係は不明	
〃	909	W183 S83	円形	箱状	1.4	0.95	1.35	人為・自然		調査区端のため平面形態不明
〃	911	W185 S82	円形	ロート状(小)	1.75	1.0	1.3	人為	SD930より新しい	
〃	912	W182 S92	不整円形	ロート状(大)	(長)3.4	1.7	1.3以上	人為・自然	SD907より新しく，SB1106より古い。	
〃	914	W207 S78	円形	ロート状(小)	1.8	0.85	1.5以上	人為・自然	SD660より新しい。	
〃	915	W195 S87	円形	－	1.8	－	－	－		崩落のため詳細不明
〃	916	W185 S59	円形	箱状	1.3	0.75	1.0以上	自然		
〃	917	W186 S57	円形	箱状	1.55	1.1	1.2以上	人為		
〃	920	W182 S68	楕円形	ロート状(小)	(長)2.25	1.3	1.6以上	人為		
〃	926	W170 S56	円形	箱状	0.9	0.7	0.8以上	人為		
〃	927	W172 S54	円形	筒状	1.6	0.8	1.1以上	人為	SX918，919より古い	
〃	955	W113 S20	円形	ロート状(小)	1.8	0.85	1.3以上	人為	SB981より古い	
〃	959	W115 S20	円形	ロート状(大)	2.05	1.0	1.4以上	人為	SB981との関係は不明	
〃	961	W108 S21	円形	筒状	1.15	0.65	1.0以上	人為・自然	SD957より古い	
〃	963	W129 S26	円形	筒状	1.4	1.0	1.2以上	人為	SD966，SD979より新しい。SB978との関係は不明。	
〃	964	W140 S25	円形(？)	ロート状(小)	1.6	0.8	0.95以上	自然		
〃	967	W124 S26	不整円形	ロート状(大)	(長)2.4	0.6	1.4以上	人為	SE970より新しい	整地層下面
〃	969	W121 S26	楕円形	ロート状(大)	(長)2.8	1.05	1.4以上	人為	SD972より新しく，SK971，SB979より古い	
〃	970	W119 S26	円形	ロート状(小)	1.4	0.8	1.3以上	人為	SE967，SD1011より古い	整地層下面
26	1016	W102 S172	不整円形	－	(長)3.1	－	－	－		調査区端のため平面形態不明
28	1023	W9 N4	円形	ロート状(小)	2.3	1.25	1.1以上	人為		
〃	1028	W3 S14	円形	ロート状(大)	1.8	0.8	1.6以上	人為・自然		
〃	1029	W16 N4	円形	ロート状(小)	1.55	0.9	0.8以上	人為・自然		
29	1042	W87 S20	円形	ロート状(大)	2.2	0.95	1.6以上	人為		
〃	1043	W87 S23	円形	ロート状(大)	2.2	1.05	1.5以上	人為・自然		
〃	1046	W74 S20	楕円形	ロート状(小)	(長)1.95	1.0	1.5	人為・自然	SB1069より新しい。SB1059との関係は不明。	
〃	1047	W71 S25	円形	ロート状(大)	1.8	0.95	1.4以上	人為・自然	SB1072との関係は不明	
〃	1048	W92 S18	円形	ロート状(小)	2.05	1.75	1.6以上	自然	SD1051より新しく，SB1059より古い。SB1061・1069との関係は不明	崩落のためオーバーハングしている

第4表　井戸跡属性表

区	遺構No.	位置	平面形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	堆積土	重複	備考
24	SK962	W127 S26	円形(？)	2.7	－	0.8	黒褐色粘土質シルト～オリーブ褐色砂質シルト	SD956より新しい。	調査区端のための平面形態不明
〃	971	W126 S26	楕円形	0.8	0.4	0.08	灰黄褐色シルト	SE969より新しい。SB978との関係は不明。	
25	997	W153 S92	楕円形	0.9	0.7	0.17	黒褐色粘土質シルト	SD995より新しい	
〃	999	W160 S103	不整円形(？)	0.9	－	－	黒褐色粘土質シルト	SD988より古い。	
〃	1117	W155 S89	－	1.2	－	0.4	暗灰黄色シルト～褐灰色粘土質シルト	SD994より新しい	断面でのみ確認
〃	1003	W149 S199	楕円形	1.0	0.7	0.5	褐灰色シルト	SD1015より新しい。	
〃	1006	W149 S180	円形(？)	0.8	－	－	オリーブ褐色粘土質シルト		調査区端のための平面形態不明
〃	1025	W115 S198	円形(？)	0.8	－	－	オリーブ褐色粘土質シルト	SD653より古い。	
28	1024	W10 S17	楕円形	2.2	1.1	0.4	暗灰黄色粘土質シルト		
〃	1035	W8 S6	楕円形	1.3	0.65	0.45	暗オリーブ褐色粘土質シルト	SB1041より新しい。SB1036・1040との関係は不明。	整地層上面
〃	1036	W4 S4	楕円形	0.75	0.4	0.1	暗褐色シルト		
〃	1088	W1 S13	楕円形	1.0	0.45	0.2	黒褐色粘土質シルト		調査区端のための平面形態不明

第5表　土壙属性表

区	遺構No.	位置	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方向	堆積状況	重複	備考
24	SD900	W207～211 S65～103	37.0以上	0.7～1.2	0.1～0.5	南－北	自然	SD660・901、SE904より新しく、SB109より古い。	南側で西へ穏やかに曲がる
〃	901	W207～213 S51～99	46.0以上	1.0以上	0.2	南－北	自然	SD660・902より新しく、SB900、SB1090より古い。	
〃	902	W206～211 S28～98	41.0以上	1.1以上	0.15	南－北	自然	SD660・954より新しく、SD901、SB1091より古い。	
〃	906	W205 S83～96	12.0以上	0.6以上	0.2	南－北	自然	SD907より新しい	西半部が撹乱を受けている。
〃	907	W177～204 S89～97	27.0以上	0.4～0.7	0.15	東－西	自然	SD928・930・934より新しく、SD906・908、SE912、SB1106より古い	
〃	908	W177～184 S57～93	27.0以上	1.1～1.8	0.2	東西－南北	自然	SD660・907・910・928より新しく、SB950・1102、SA1111より古い	北側で「L」字型に屈曲
〃	910	W191～181 S59～64	10.0以上	2.0	0.1	東－西	自然	SD942より新しく、SD908、SB949・950・952・1113より古い	
〃	921	W172～177 S52～54	5.0以上	0.7～1.5	0.1	東－西	自然	SD922・923より新しく、SB943・947、SX918より古い	西端が楕円形状にふくらむ
〃	922	W172～174 S51～53	2.5以上	0.4	0.1	東－西	自然	SD921より古い	
〃	923	W197～180 S53～54	3.0以上	0.7	0.07	東－西	自然	SD921、SA947、SB943より古い。SB944との関係は不明。	
〃	924	W179～184 S52～55	6.2	0.2～1.0	0.15	北西－南東	自然	SD942より新しく、SB944より古い。	不整形を呈する。
〃	925	W175～179 S56～58	4.4	0.2～0.5	0.1	北西－南西	自然	SD942より新しい。	
〃	928	W176～181 S66～92	26.0以上	0.5～1.0	0.08	南－北	自然	SD660・932より新しく、SD907・908より古い。SB1107との関係は不明。	
〃	929	W182～186 S77	4.2	0.3	0.1	東－西	自然	SB1104より古い。	
〃	930	W184～190 S76～94	23.0以上	0.5～0.7	0.1	東西－南北	自然	SD933より新しい。SD907・932、SE911、SB1106より古い。SD660との関係は不明。	南側で「L」字型に屈曲
〃	931	W207～209 S104～106	2.4以上	1.0以上	0.07	南－北	自然	SX986より新しい。	残存状況悪い。
〃	932	W180～194 S78～82	15.0以上	0.5	0.1	東－西	自然	SD930・910より新しく、SD928・935、SB1096・1098より古い。SB1107との関係は不明。	
〃	933	W184～189 S92～94	6.0	0.5	0.1	東－西	自然	SD930より古い。SB1100との関係は不明。	
〃	934	W203～204 S82～91	9.0	0.4	0.1	南－北	自然	SD907より古い。	
〃	935	W194～196 S66～84	18.4	0.5～1.6	0.15	南－北	自然	SD660・932・936・941より新しく、SB1093・1094・1095・1096より古い。SB1097との関係は不明。	
〃	936	W192～195 S75～	2.7以上	0.4	0.06	東－西	自然	SB1095より古い。	
〃	937	W190 S75～80	5.0以上	0.5～1.5	0.03	南－北	自然	SD660より新しく、SD941、SB1095より古い。SB1094との関係は不明。	南端で幅が広がる。
〃	938	W156～160 S31～45	13.5以上	2.0	1.0	南－北	人為 自然		SX987西側溝
〃	939	W168～171 S42～46	4.2以上	0.25	0.25	南－北	自然		
〃	940	W150～153 S30～43	14.0以上	1.6以上	0.7	南－北	自然		SX987東側溝。東半部が撹乱を受けている。
〃	941	W189～194 S80	5.5以上	0.7	0.05	東－西	自然	SD937より新しく、SD932・935、SB1098より古い。SB1096・1097との関係は不明。	
〃	942	W171～179 S55～63	9.0以上	0.4	0.1	北西－南東	自然	SB944・948、SD910・924・925より古い。	
〃	954	W208～210 S65～75	10.0以上	0.8以上	0.1	南－西	自然	SB1091、SD902より古い。	
〃	956	W108～115 S16～20	7.0	0.2～0.9	0.15	東－西	自然	SD957・958より古い。	
〃	957	W107～111 S15～23	8.0	1.2	0.7	東西－南北	自然	SD958、SE961より新しく、SD956、SA985より古い。	南側で「L」字型に屈曲
〃	958	W107～111 S15～23	9.5以上	0.5以上	0.3	東西－南北	自然	SD956・957、SB981、SA985より古い。	南側で「L」字型に屈曲
〃	960	W115～117 S21～24	2.8以上	0.4～0.9	0.07	南－北	自然	SB959、SB982より古い。	
〃	965	W132 S22～27	4.0以上	0.8以上	0.35	南－北	自然	SD966より古い。SB978との関係は不明。	
〃	966	W128～131 S22～28	6.5以上	1.8以上	0.2	南－北	自然	SD965より新しく、SE963、SB978・979・980より古い。	
〃	972	W136 S26	0.9以上	0.1	0.07	南－北	自然	SE969より古い。SB978との関係は不明。	
〃	1008	W111～117 S16～17	4.5以上	0.4以上	0.09	東－北	自然	SD95より古い。	
〃	1010	W120～126 S20～22	5.5以上	0.2	0.05	東－西	自然	SD1011、SB978より古い。	
〃	1011	W117～121 S18～27	8.5以上	1.5	0.07	南－北	自然	SD1012、SE970より新しく、SA983・984、SB982より古い。	
〃	1012	W117～119 S20	2.0以上	0.4	0.04	東－西	自然	SD1011より古い。	
〃	1109	W102～106 S14～26	12.5以上	0.3～0.7	－	南－北	－	SD452より新しく、SD600より古い。	
〃	451	W103～104 S13～17	4.0以上	1.0以上	－	南－北	－	SD600より新しい。	
〃	452a	W104～108 S14～24	10.0以上	0.5	－	南－北	－	SD452b・c、1109より新しい。	
〃	452b	W104～108 S14～26	12.5以上	1.5	－	南－北	－	SD452cより新しく、SD452a、1109より古い。	
〃	452c	W105 S15～26	11.5以上	0.5以上	－	南－北	－	SD452b、1109より古い。	
〃	660	W102～108 S15～20	2.5以上	4.3以上	0.55	東－西	自然	SD452b・c、1109より新しく、SD451より古い。	
〃	986	W205～211 S102～107	6.0以上	2.7	0.75	東－西	人為		
25	988	W149～166 S98～104	17.0以上	4.5以上	1.6	東－西	自然 人為	SD990・991・994・1001より新しい。	
〃	989	W152～161 S95～97	11.5以上	0.5～1.7	0.2	東－西	人為	SD990・991より新しい。	
〃	990	W160～166 S96～100	5.5以上	3.0以上	0.2	東－西(？)	人為	SD988・989より古い。	
〃	991	W149～157 S93～98	7.5以上	4.0以上	0.7	東－西(？)	人為	SD994・996より新しく、SD988・989より古い。	
〃	992	W163～166 S92～94	2.5以上	0.4	－	東－西	自然		
〃	993	W161 S103	－	1.1以上	0.2	東－西	人為	SD988より古い。	断面でのみ確認
〃	994	W154～156 S89～104	15.0以上	1.6以上	1.4	南－北	人為 自然	SD988・989・991・1001より古い。	
〃	995	W153 S90～93	3.5以上	0.2～0.6	0.5	南－北	自然	SD996より新しく、SD997より古い。	
〃	996	W151～153 S90～94	3.5以上	1.1～1.5	0.7	南－北	自然	SD991・995より古い。	
〃	998	W149～151 S101～102	2.0以上	0.6	－	東－西	自然		
〃	1001	W152～155 S98	5.0以上	1.2以上	0.1	東－西	人為	SD991より新しく、SD988より古い。	
26	1002	W140～144 S177～180	2.5以上	2.6	1.5	東－西	人為 自然		
〃	1004	W149～151 S181	2.0以上	1.0	－	東－西	－	SD1005より新しい。	
〃	1005	W150～151 S180	1.5以上	0.5以上	－	東－西	－	SD1004より古い。	
〃	1007	W101～141 S195～200	41.0以上	0.5	－	東－西	－		
〃	1009	W102～115 S189～192	13.0以上	0.7	－	東－西	－		
〃	1013	W117 S171～179	8.0以上	0.2	－	南－北	－	SD653より古い。	
〃	1014	W117 S170～173	3.0以上	0.3	－	南－北	－		
〃	1015	W147～150 S198～200	2.5以上	0.9～1.8	－	東－西	－	SK1003より古い。	
27	1017	W71～78 S182～192	南－北 [illegible]以上 東－西 [illegible]以上	南－北 [illegible]以上 東－西 [illegible]以上	－	南－北 東－西	－	SD653より古い。	
〃	1018	W75～78 S126～170	5.0以上	1.4以上	－	東西－南北	－	SD653・1019より古い。	北側「L」字型に屈曲
〃	1019	W74～76 S158～170	12.0以上	1.5	－	南－北	－	SD1018より新しく、SD653・1020より古い。	
〃	1020	W74～76 S155～167	12.0以上	1.4	－	南－北	－	SD1019より新しい。	
〃	1021	W14～19 S150～153	4.5以上	1.1	－	北東－南西	－		
〃	653	W13～150 S154～198	140.0以上	11.5～15.0	－	東－西	自然	SD1013・1014・1017・1018、SK1025より新しい。	大溝　区画溝
28	1022	W1～18 S18～23	17.5以上	0.6～1.4	0.3	東－西	自然	SD99、SA1027より古い。	
〃	1030	W1～3 S2	1.5以上	0.3	0.07	東－西	自然	SX1089より新しい。SB1039との関係は不明。	残存状況悪い
〃	1031	W1～3 S3	1.8以上	0.5	0.09	東－西	自然		残存状況悪い
〃	1032	W2～3 S5	1.1以上	0.3	0.15	東－西	自然	SX1087より古い。	
〃	99	W1～10 S16～23	14.0以上	0.6～1.0	0.5	東西－南北	自然	SK1024、SD1022より古い。	北側で「L」字型に屈曲
29	1044	W75～85 S26～28	10.5以上	0.8	0.2	東－西	自然	SB1070より古い。SB1071との関係は不明。	
〃	1045	W68～71 S17～27	15.0以上	0.9～1.5	0.2	南－北	自然	SB1059・1061・1068・1076より古い。SB1072との関係は不明。	

第6表　溝跡属性表（1）

区	遺構No	位置	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方向	埋積状況	重複	備考
29	SD1050	W79 S15～16	1.9以上	0.5	0.05	南－北	自然	SB1059・1069との関係は不明。	
〃	1051	W92～93 S12～18	6.5以上	1.0	0.1	南－北	自然	SB1059・1061，SE1048より古い。	
〃	1053	W57～66 S25～27	7.0以上	0.5～1.3	0.2	東－西	自然	SB1076より古い。	
〃	1054	W62～64 S8	3.2以上	0.3～1.0	－	東－西	－	SB527より古い。	古代の遺構の可能性あり
〃	1055	W92～93 S15～18	2.7	1.0	1.0	南－北	－	SD1056より新しく，SD450aより古い。	
〃	1056	W89～93 S13～28	15.5以上	0.4～1.0	0.35	南－北	人為	SD450cより新しく，SD1055より古い。	
〃	1057	W91～93 S19～28	9.0以上	0.5以上	0.2	南－北	自然	SD450aより古い。	
〃	1081	W64～88 S12～19	25.5以上	0.5	0.2	東－西	自然		整地層下面
〃	1082	W62 S16	1.0以上	0.4	0.15	東－西	自然		〃　残存状況悪く詳細不明
〃	1084	W75～76 S14～15	2.5以上	0.8	0.06	東－西	自然		〃
〃	1108	W96～S10	1.1	－	－	－	－		断面でのみ確認
〃	450a	W92～95 S9～28	19.0以上	1.7～2.3	0.8	南－北	自然	SD450c・1055・1057より新しい。	
〃	450b	W92～93 S9～28	19.0以上	1.6	0.7	南－北	人為 自然	SD1056より古い。	
〃	450c	W93～96 S10～29	19.0以上	0.9以上	0.9	南－北	人為 自然	SD664より新しく，SD450aより古い。	
〃	664	W95～97 S13～18	3.0以上	4.5以上	－	東－西	－	SD450cより古い。	
〃	1122	W43 S18～28	10以上	0.8		南－北	人為	SD450cより古い。SD660と同時または古い。	

第７表　溝跡属性表　(2)

区	遺構No	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	特徴	重複
24	SX919	W171～174 S53～55	3.1	2.1	0.2	不整円形	窪みに炭化物が集中している。	SE927より新しく，SX918より古い。

第８表　炭化物集中遺構属性表

区	遺構No	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	特徴	重複
24	SX1026	W123 S26	0.6	0.5	0.07	円形	硬化赤色化した部分を，焼土・炭化物がおおっている。	
28	1034	W3 S1	0.65	－	－	不整形	赤色化した部分が痕跡的に認められる。	SB1039との関係は不明である。
〃	1087	W3 S5	1.5	0.6	0.05	円形	赤色化した部分が痕跡的に認められる。	SD1032より新しい。
〃	1089	W1 S1	1.5	0.4	0.12	不整形	硬化赤色化した部分を，焼土・炭化物がおおっている。	SD1030，SB1039より古い。

第９表　焼け面跡属性表

区	遺構No	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	特徴	重複
24	SX918	W173 S52～54	1.9	0.55	0.1	楕円形	窪みに礫が集中している。	SX919，SX921より新しい。

第10表　集石遺構属性表

区	遺構No	位置	長さ(m)	幅(m)	方向	特徴
24	SX987	W150～158 S30～45	14.0	6.0	南－北	SD938・940を道路側溝とする。
14・19 24・29	1120A	W60～120 N10～S240	250以上	14.5	南－北	東側溝：SD450b・1056，西側溝：SD452a・452b・452c・643・644・1109
〃	1120B	〃	〃	8.0	〃	東側溝：SD450a・450c，西側溝：SD601・603・663・666

第11表　道路跡属性表

区	遺構No	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	特徴
28	SX1003	W20 S7	2.8	2.0	0.7	隅丸方形	フイゴの羽口，鉄滓，焼土，鍛造剥片を多量に含む。

第12表　竪穴状遺構属性表

区	遺構No	位置	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	特徴
24	SX968	W119～124 S25～28	3.8	3.3	0.35	不整形	
28	1086東	W1～3 S2～56	8.2	1.8	－	不整形	
〃	1086西	W6～17 S2～12				不整形	
29	1060	W64～87 S4～20	23.0	13.5	－	不整形	

第13表　整地層属性表

②発見された遺物

発見された遺物には陶磁器類、土製品、古銭、鉄製品、銅製品、石製品がある。

ａ．陶磁器類　磁器、陶器、土師質土器、丸瓦がある。

【磁器】（第 23 図 1～6）1･2 は青磁の碗、3～6 は染付磁器で､3･5･6 は皿、4 は碗で､いずれも草花文が描かれている。産地はいずれも中国産である。

【陶器】（第 23 図 7～第 24 図 19）7･8 は鉄釉を施した天目茶碗､9～12 は灰釉を施した皿である。11･12 の内面底部には菊の印花が押印されている。産地は 7 は中国産？、8･11･12 は瀬戸･美濃産､9･10 は

唐津産である。13～19 は摺鉢である。色調はいずれも赤褐色のものであり、13～15 は鉄釉が施され、16～19 は無釉である。内面の櫛目は 1 単位が 5 本のもの（15･19）、6 本のもの（13･14･16･17）、10 本のもの（18）がある。産地は不明である。

【土師質土器】（第 24 図 20）20 は燈明皿で、外面に炭化物が付着している。

【丸瓦】（第 24 図 21）21 は丸瓦で、外面は炭化物が付着し、内面はケズリ痕が明瞭である。

b．土製品（第 24 図 22～第 26 図 35）鞴の羽口が 14 点ある。いずれも直径が 4.0～4.5㎝、孔径 1.2㎝～1.5㎝である。先端部には溶けた鉄や灰が多量に付着している。

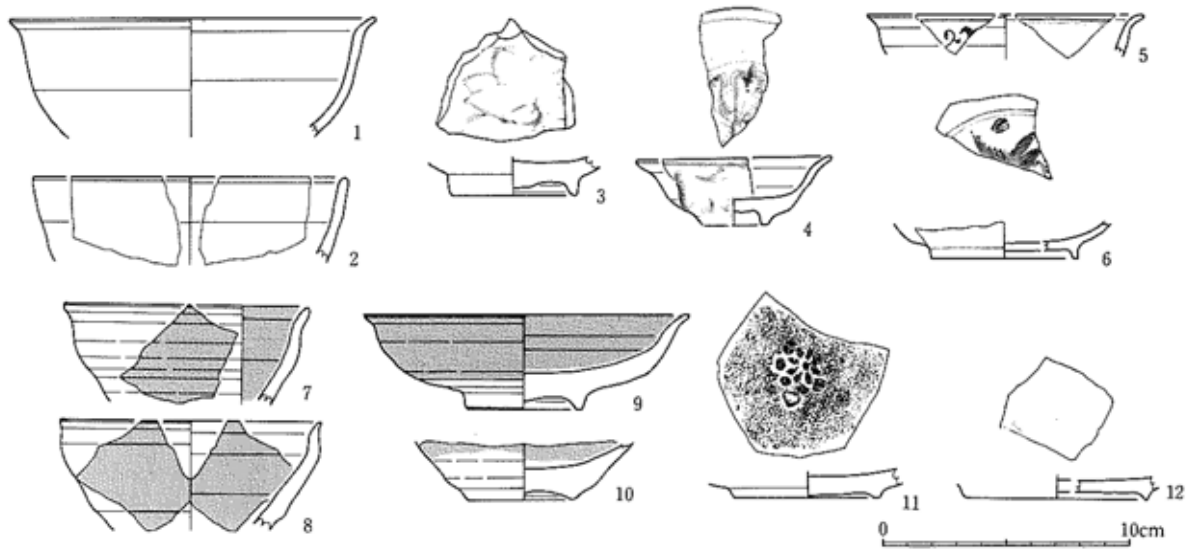
c．古銭（第 26 図 36～48）唐銭の開元通宝 2 点(36･37)、北宋銭の咸平元宝 1 点(38)、治平元宝 1 点(39)、熙寧元宝 1 点(40)、元宝通宝 2 点(41･42)、元祐通宝 1 点(43)、政和通宝 1 点(44)、明銭の洪武通宝 2 点(45･46)、永楽通宝 2 点(47･48)がある。

d．鉄製品（第 27 図 49～56）49 は鉄滓で先端部が欠けている。50～56 は釘で、いずれも錆が付着している。釘は完形のものはなく全容は不明だが、断面形は正方形または台形を呈する。

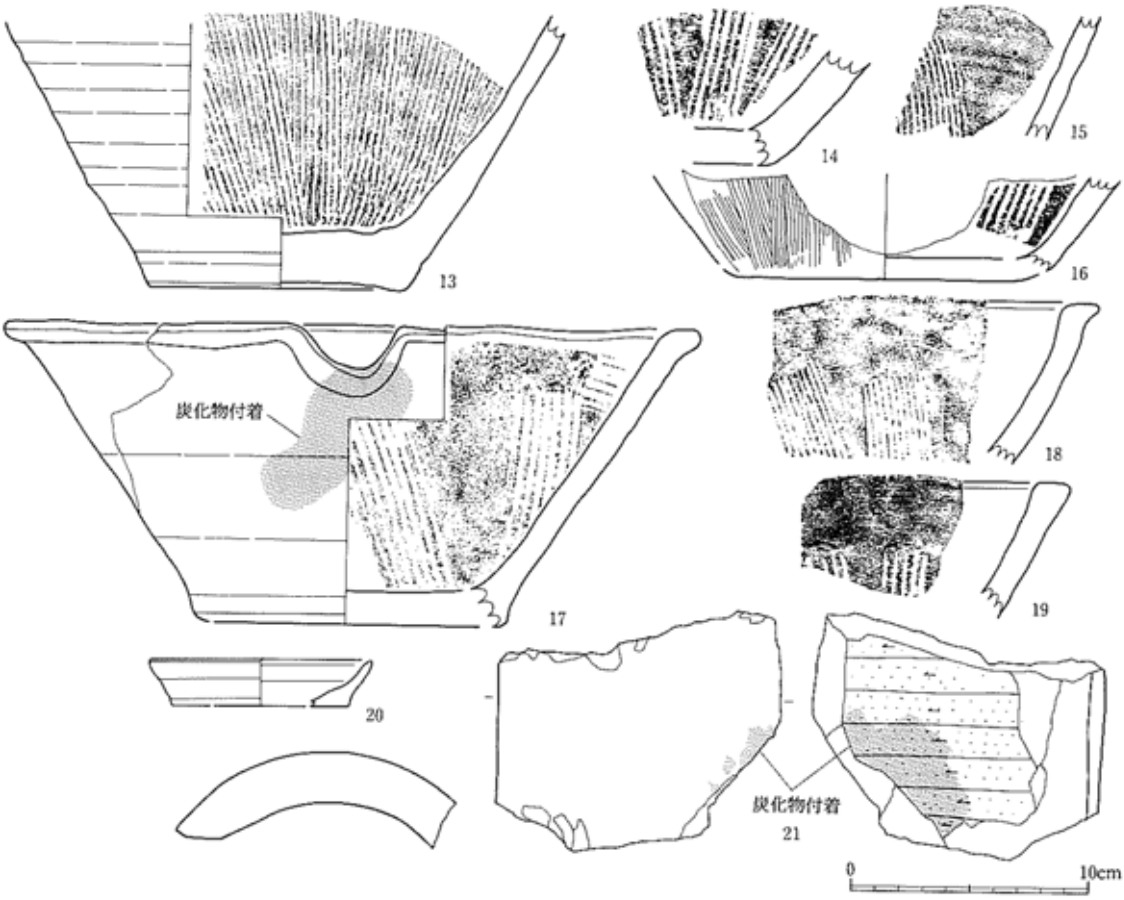
e．銅製品（第 27 図 57・58）57 はつまみが付く蓋で端部が反っている。58 は煙管の吸口である。

f．木製品（第 27 図 59～64）59 は連歯下駄の歯部である。60 は籌木で先端部が炭化している。61 は栓で上面は炭化し、側面は加工痕が明瞭である。62 は曲げ物の底板で側面に針穴が 3 か所認められる。63･64 は漆器の椀である。63 は外面が黒漆に朱漆で草花文が描かれ、内面は朱漆である。64 は内外面とも黒漆に朱漆で草花文が描かれている。また、底面には朱漆で「一」？と書かれている。

g．石製品（第 28 図 65～第 31 図 76）65 は石臼の上臼、66～73 は石臼の下臼である。74･75 は石鉢である。76 は硯で、形状や両面に擦痕が認められることから、両面とも使用されたと考えられる。石材は硯が粘板岩、他は安山岩である。



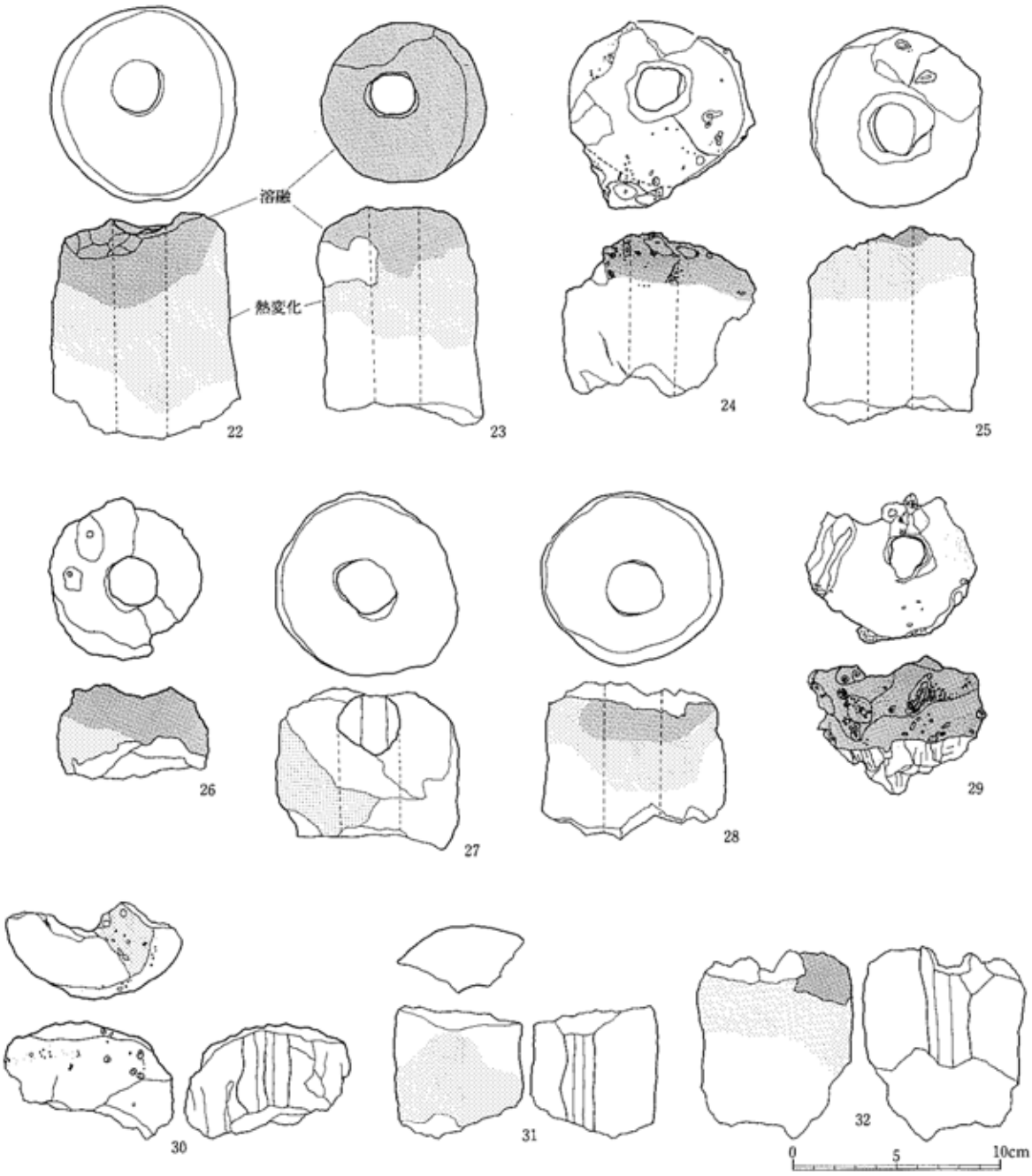
第23図　陶磁器類（1）



№	種別	区	出土地点	法量・特徴	産地・年代	写真図版
1	青磁 碗	28	SX1033 8層	口径14.8cm、器高（4.9cm）。	中国産	10－1
2	青磁 碗	28	表土	口径12.8cm、器高（3.5cm）。	中国産	10－2
3	染付磁器 碗	24	柱穴埋土	底径5.0cm。見込み部に花紋。	中国産	10－3
4	染付磁器 碗	25	SD988 堆積土	口径6.0cm、底径2.6cm、器高2.8cm。内面：圏線3本、見込み部に花紋。外面：鳥紋。	中国産	10－4
5	染付磁器 碗	29	遺構確認面	口径11.2cm、器高（1.7cm）。内面：口縁部に圏線2本。	中国産	10－5
6	染付磁器 碗	24	SD900 堆積土	口径8.4cm、底径6.0cm、器高（1.5cm）。内面：見込み部に圏線2本・花紋？。	中国産	10－6
7	施釉陶器 碗	29	遺構確認面	天目茶碗。鉄釉。口径10.0cm、器高（4.0cm）。内外面：黒色。	中国産	10－7
8	施釉陶器 碗	29	柱穴埋土	天目茶碗。鉄釉。口径10.4cm、器高（4.4cm）。内面：褐色。外面：褐色・黒色。	瀬戸・美濃16末～17初	10－8
9	施釉陶器 碗	25	SD988 堆積土	灰釉。口径13.4cm、底径4.8cm、器高3.8cm。	唐津 17初	10－9
10	施釉陶器 碗	29	表土	灰釉。口径（8.6cm）、底径4.2cm、器高（2.4cm）。	唐津 16末	10－10
11	施釉陶器 碗	28	表土	灰釉。底径6.0cm、器高（1.2cm）。内面：見込み部に花の刻印。	瀬戸・美濃16末～17初	10－11
12	施釉陶器 碗	24	表土	灰釉。底径7.4cm、器高（1.0cm）。内面：見込み部に花の刻印。	瀬戸・美濃16末～17初	10－12
13	陶器 擂鉢	24	SD452 堆積土	口径29.6cm、底径12.6cm、器高12.8cm。片口。内面：櫛目6本1単位。内外面に炭化物付着。		10－13
14	陶器 擂鉢	24	SE904 堆積土	内面：櫛目10本1単位。		10－14
15	陶器 擂鉢	24	遺構確認面	内面：櫛目5本1単位。		10－15
16	陶器 擂鉢	26	SD653 堆積土	底径10.8cm、器高（11.0cm）。底部：回転糸切り。内面：櫛目6本1単位（密）。内外面に鉄釉。		10－16
17	陶器 擂鉢	26	遺構確認面	内面：櫛目6本1単位。外面：丁寧なミガキまたはヘラナデ。		10－17
18	陶器 擂鉢	26	遺構確認面	内面：櫛目の単位不明。外面：鉄釉		10－18
19	陶器 擂鉢	24	遺構確認面	底径（12.6cm）、器高（12.8cm）。内面：櫛目6本1単位。外面：ミガキまたは丁寧なヘラナデ。		10－19
20	土師質土器皿	29	柱穴埋土	燈明皿。口径9.6cm、底径7.4cm、器高2.0cm。炭化物付着。		10－20
21	丸瓦	25	SD988 堆積土	表面：いぶし。裏面：ケズリ。周面に炭化物付着。		10－21

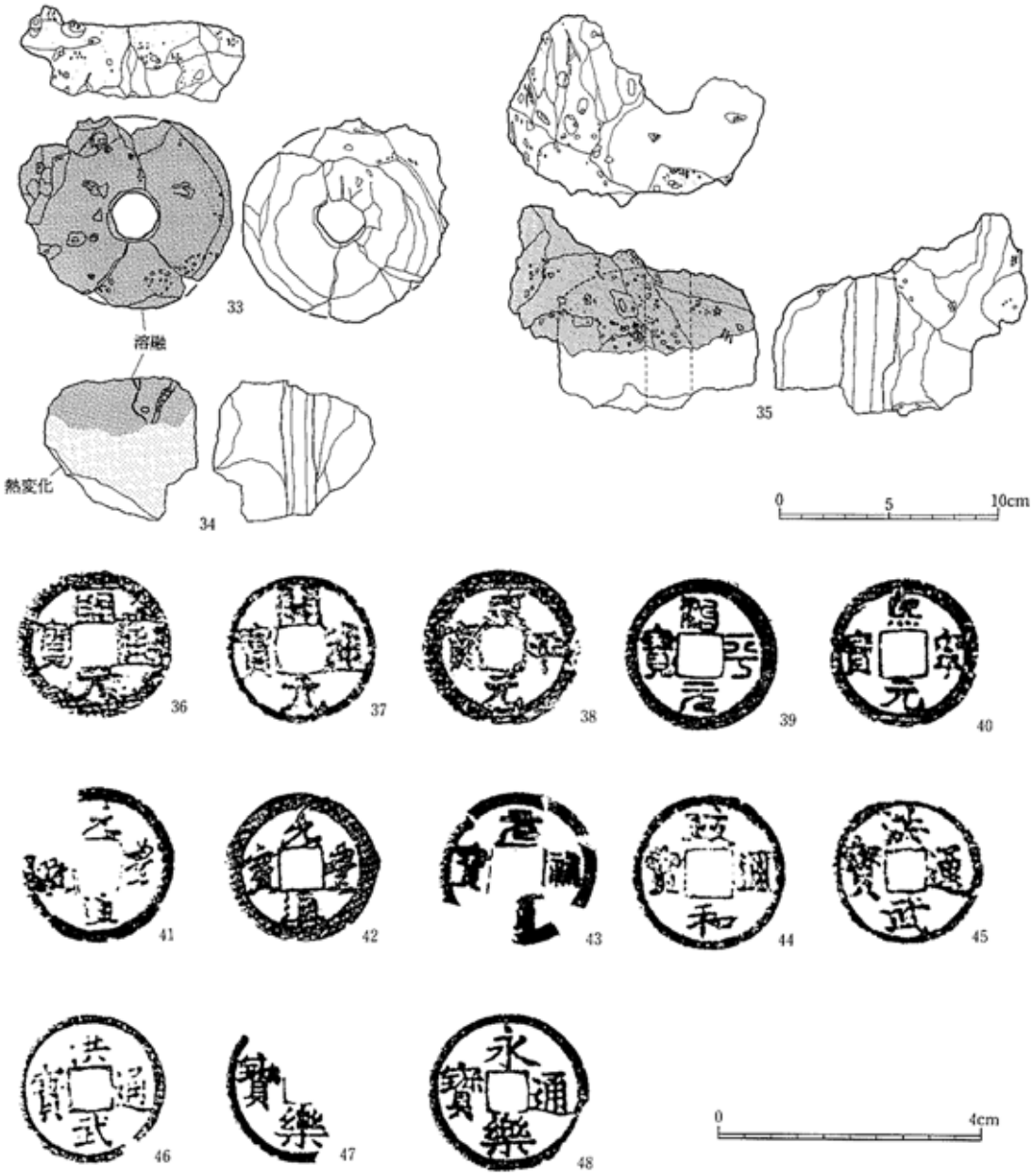
※陶磁器の産地・年代については、東北陶磁文化館、本田泰貴氏に御教示いただいた。

第24図　陶磁器類（2）



No.	種別	区	出土地点	直径 cm	残存長 cm	孔径 cm	特徴	写真図版
22	フイゴの羽口	28	SE1028 堆積土	8.8～9.2	11.0	2.6		11－1
23	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	7.6	10.5	2.4	先端部。	11－2
24	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	9.0	7.9	2.2	先端部。溶けた鉄が多量に付着。	11－3
25	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	8.2～8.7	9.6	2.2	先端部。	11－4
26	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	7.4	4.6	2.5		11－5
27	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	9.0	7.1	3.0		11－6
28	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	8.7	7.5	2.7		11－7
29	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	(8.0)	6.7	1.7	溶けた鉄が多量に付着し、孔を塞いでいる。	11－8
30	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	(8.5)	5.5	2.2	先端部。	11－9
31	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	(9.0)	6.5	1.5		11－10
32	フイゴの羽口	28	SX1033 堆積土	7.6	9.4	2.2		11－11

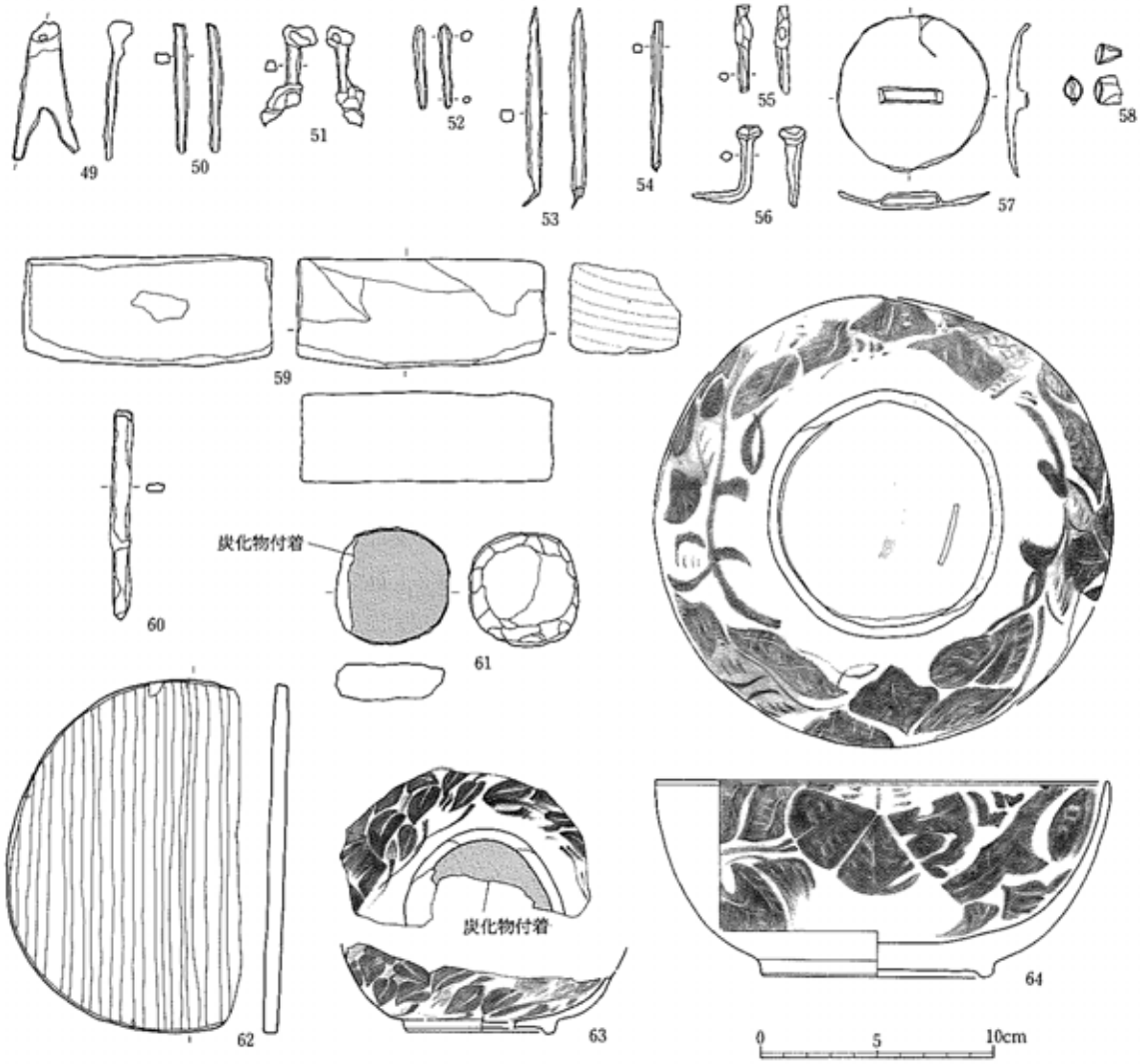
第25図　土製品



No	種別	区	出土地点	直径 cm	長さ cm	孔径 cm	特徴	写真図版
33	フイゴの羽口	28	SX1633 堆積土	9.0	(3.8)	2.1	先端部。	11－12
34	フイゴの羽口	28	表土	(7.4)	(6.4)	1.5		11－13
35	フイゴの羽口	28	SX1633 堆積土	9.1	(9.3)	2.4	溶けた鉄が多量に付着。	11－14

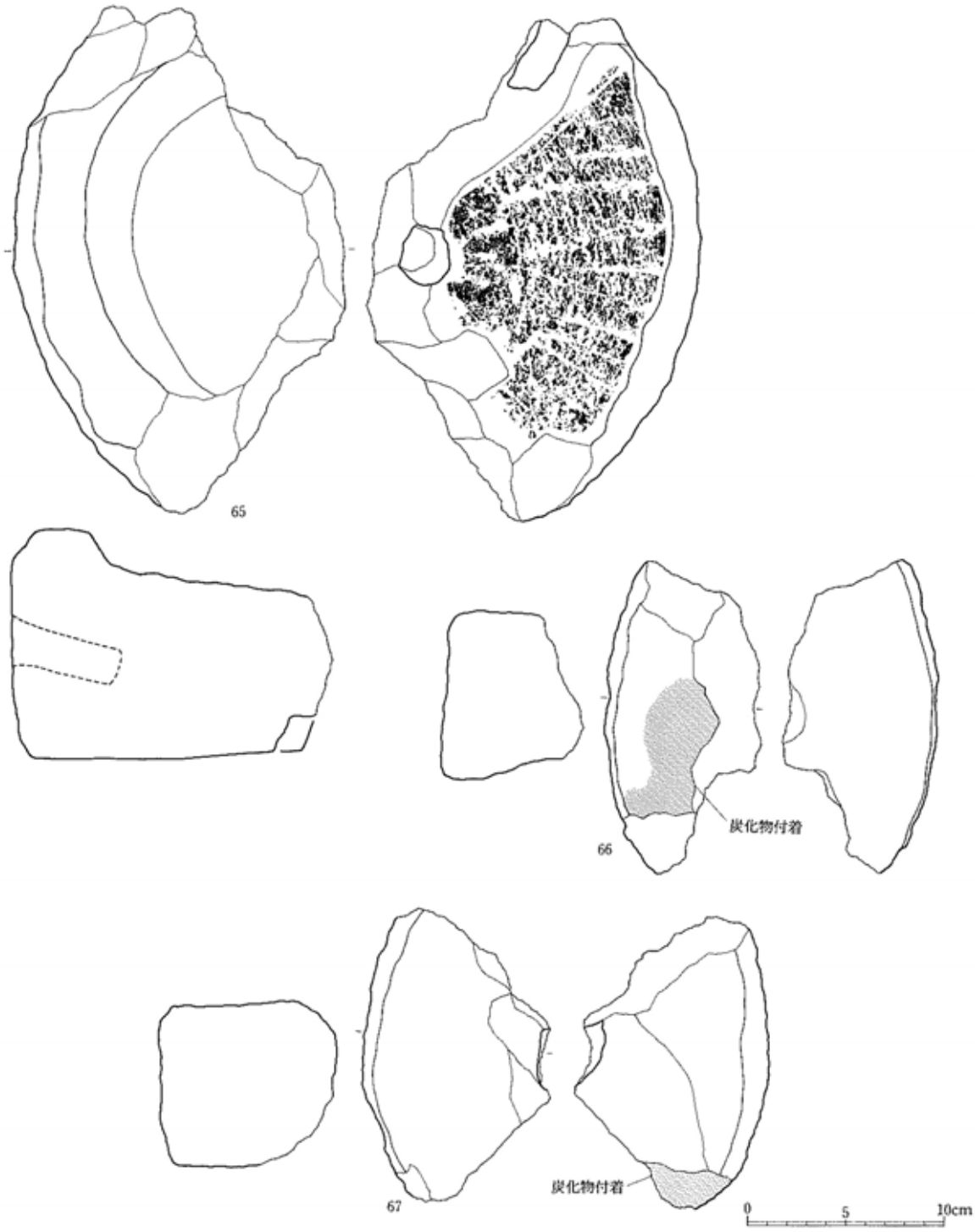
No	銭名	区	出土地点	銭径 cm	内径 cm	孔径 cm	重さ g	初鋳年	鋳造地	時代	書体	備考	写真図版
36	開元通宝	24	遺構確認面	2.30	2.05	0.70	2.66	建隆元／960	中国	唐時代の渡来銭	楷書	摩滅激しい	14－3
37	開元通宝	28	遺構確認面	2.40	1.75	0.65	(1.86)	建隆元／960	中国	唐時代の渡来銭	楷書		14－4
38	咸平元宝	24	遺構確認面	2.40	1.80	0.65	3.36	咸平元／998	中国	北宋時代の渡来銭	楷書	摩滅激しい	14－5
39	治平元宝	29	Pit 埋土	2.40	1.85	0.60	1.94	治平元／1064	中国	北宋時代の渡来銭	篆書		14－6
40	熙寧元宝	24	遺構確認面	2.30	1.90	0.60	3.40	熙寧元／1068	中国	北宋時代の渡来銭	楷書		14－7
41	元豊通宝	24	SD900 堆積土	2.40	1.90	0.65	2.90	元豊元／1078	中国	北宋時代の渡来銭	行書		14－8
42	元豊通宝	29	Pit 埋土			0.60	(1.44)	元豊元／1078	中国	北宋時代の渡来銭	行書	残存率1/2	14－9
43	元祐通宝	28	遺構確認面				(1.48)	元祐元／1086	中国	北宋時代の渡来銭	篆書	残存率1/3	
44	政和通宝	24	遺構確認面	2.35	2.10	0.65	3.00	政和元／1111	中国	明時代の渡来銭	楷書		
45	洪武通宝	28	遺構確認面	2.30	2.00	0.60	1.78	洪武元／1368	中国	明時代の渡来銭	楷書	摩滅激しい。	14－10
46	洪武通宝	28	遺構確認面	2.30	2.00	0.60	2.92	洪武元／1368	中国	明時代の渡来銭	楷書		14－11
47	永楽通宝	28	遺構確認面	2.50		0.65	(0.66)	永楽6／1408	中国	明時代の渡来銭	楷書	残存率1/3　摩滅激しい。	14－12
48	永楽通宝	28	遺構確認面	2.50	2.10	0.55	2.24	永楽6／1408	中国	明時代の渡来銭	楷書		14－13

第26図　土製品・古銭（古銭は原寸大）



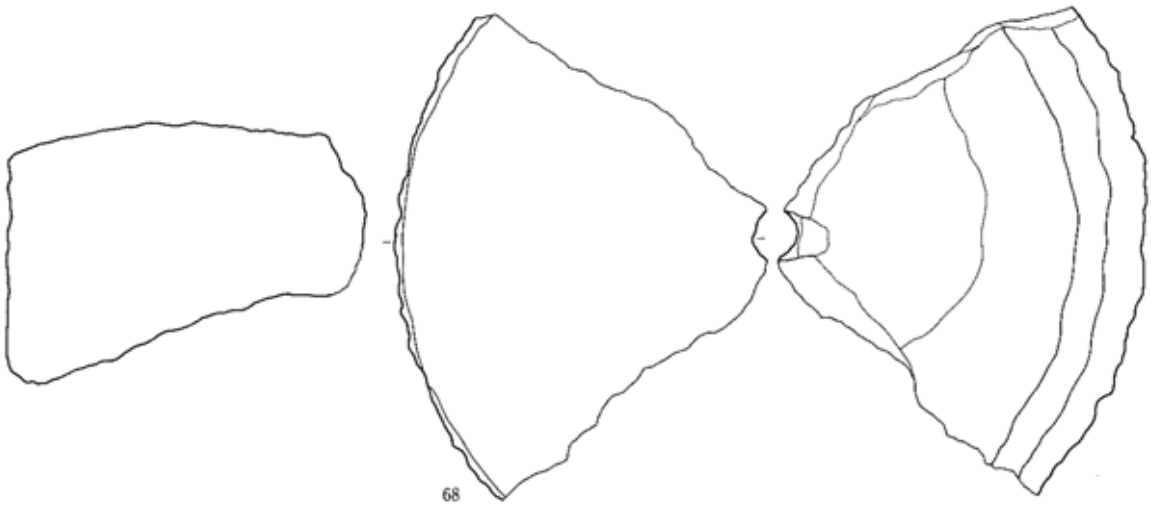
№	種　別	区	出土地点	特　　徴	写真図版
49	鉄製品　鉄鏃	24	遺構確認面	残存長6.0cm、幅1.2～2.8cm、厚さ0.5cm。	14－14
50	鉄製品　釘	24	遺構確認面	残存長5.6cm、幅0.4～0.6cm、断面形長方形。	14－15
51	鉄製品　釘	25	SD988 埋積土	残存長4.4cm、幅0.6～0.8cm、断面形台形。	14－16
52	鉄製品　釘	28	SX1086	残存長3.7cm、幅0.4～0.6cm、断面形円形。	14－17
53	鉄製品　釘	28	SX1086	残存長8.5cm、幅0.3～0.6cm、断面形正方形。	14－18
54	鉄製品　釘	29	SX1060	残存長6.5cm、幅0.4cm、断面形正方形。	14－19
55	鉄製品　釘	29	遺構確認面	残存長3.8cm、径0.4～0.8cm、断面形円形。	14－20
56	鉄製品　釘	29	遺構確認面	残存長4.9cm、径0.2～0.5cm、断面形正方形。	14－21
57	銅製品　蓋	24	柱穴埋土	直径6.7cm、厚さ0.3～0.7cm、反り返っている。	14－22
58	銅製品　吸口	29	遺構確認面	残存長1.0cm、径1.2cm。	14－23
59	建築下駄の歯	24	SE915	幅10.5cm、高さ（3.8cm）。	11－15
60	轆木？	28	SX1033	長さ9.0cm、幅0.8cm、厚さ0.4cm、先端部炭化。	11－16
61	栓？	28	SX1033	直径5.1cm、厚さ1.5cm、上面炭化、側面加工痕明瞭。	11－17
62	曲げ物底板	29	SD450a	直径15.2cm、厚さ0.7cm、釘穴4か所あり。	11－18
63	漆器　椀	24	SE914	底径6.6cm、器高（3.7cm）。内面朱漆、外面黒漆→朱漆で草花文。高台炭化。	11－19
64	漆器　椀	24	SE914	口径19.5cm、底径10.0cm、器高8.5cm。内外面黒漆→朱漆で草花文。底面に「一」？。	11－20

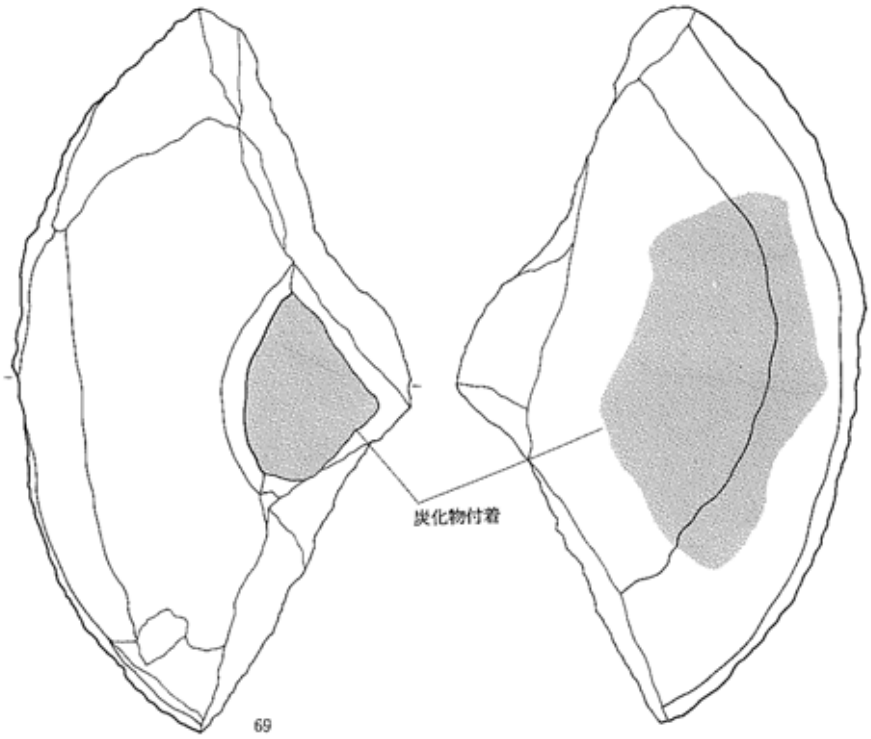
第27図　金属製品・木製品

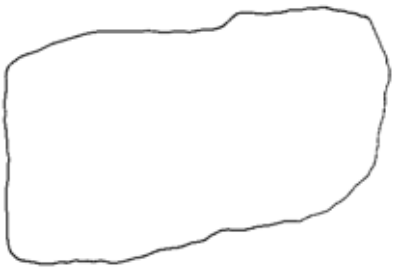


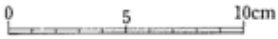
№	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
65	石臼 上臼	29	SE1045 堆積土	安山岩	直径29.0cm、高さ11.7cm、受け部深さ2.7cm、側面に把手取付け孔、軸受け直径2.7cm 深さ2.2cm。	12－1
66	石臼 下臼	24	SE912 堆積土	安山岩	高さ8.6cm。表面に炭化物付着。	12－2
67	石臼 下臼	24	SE920 堆積土	安山岩	直径（29.0cm）、高さ8.4cm。裏面に炭化物付着。	12－3

第28図　石製品（1）



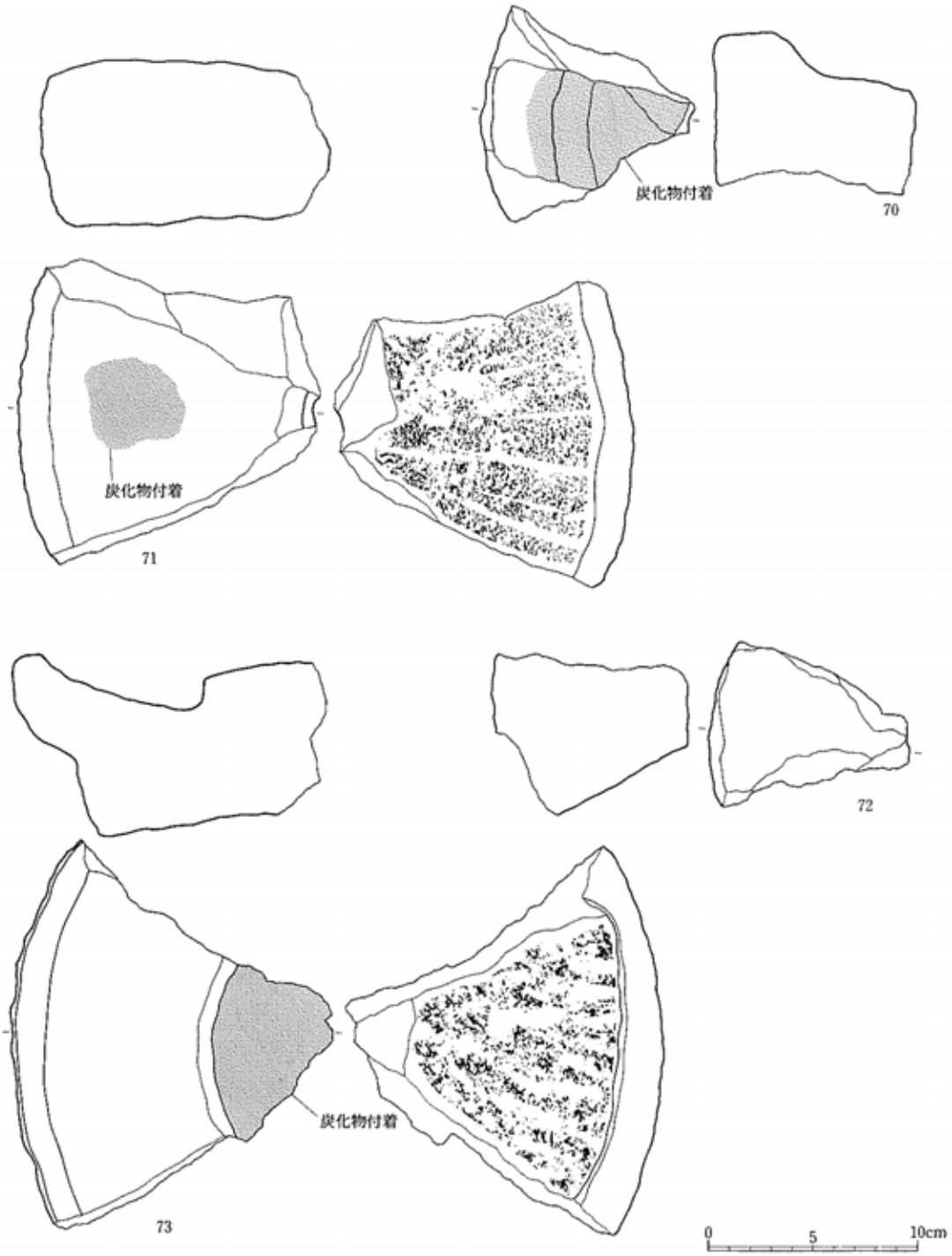






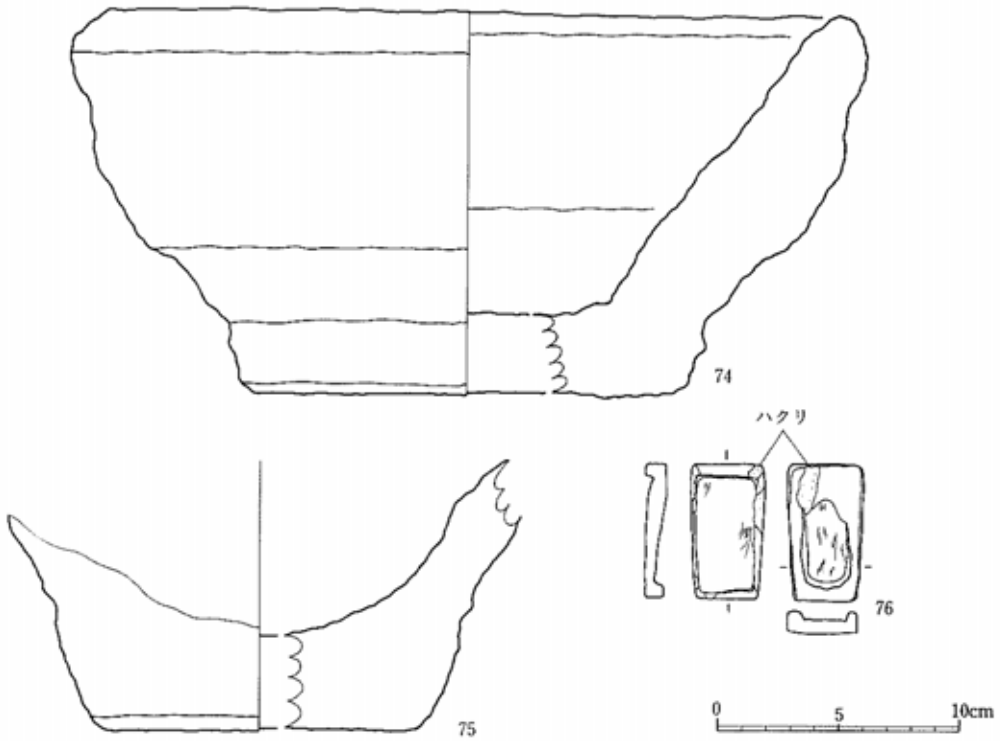
No.	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
68	石臼 下臼	24	SE936 堆積土	安山岩	直径32.0cm、高さ11.8cm。	32－4
69	石臼 下臼	25	遺構確認面	安山岩	直径32.0cm、高さ11.0cm。両面に炭化物付着。	33－1

第29図　石製品（2）



No	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
70	石臼 下臼	28	SX1033 9層	安山岩	直径（20.0cm）、高さ7.0cm。表面に炭化物付着。	13－2
71	石臼 下臼	28	SX1033 9層	安山岩	直径30.0cm、高さ8.2cm。表面に炭化物付着。	13－3
72	石臼 下臼	28	SX1033 11層	安山岩	直径19.2cm、高さ7.8cm。	
73	石臼 下臼	28	SE1043 埋戻土	安山岩	直径31.0cm、高さ8.5cm。表面に炭化物付着。製作時のすじ目明瞭	13－4

第30図　石製品（3）



No	種別	区	出土地点	石材	特徴	写真図版
74	石鉢	25	SD988 堆積土	安山岩	器高（11.0cm）、底径13.0cm。	14－1
75	石鉢	28	SX1033 11 層	安山岩	口径30.0cm、底径18.0cm、器高16.0cm。	
76	硯	29	SE1048 堆積土	粘板岩	両面使用。長径5.6cm、短径2.5cm、厚さ0.8cm。海の深さ（A面0.4cm、B面0.5cm）。摩滅激しい。	14－2

第31図　石製品（4）

Ⅱ　その他の時期の遺構・遺物

1．古墳時代

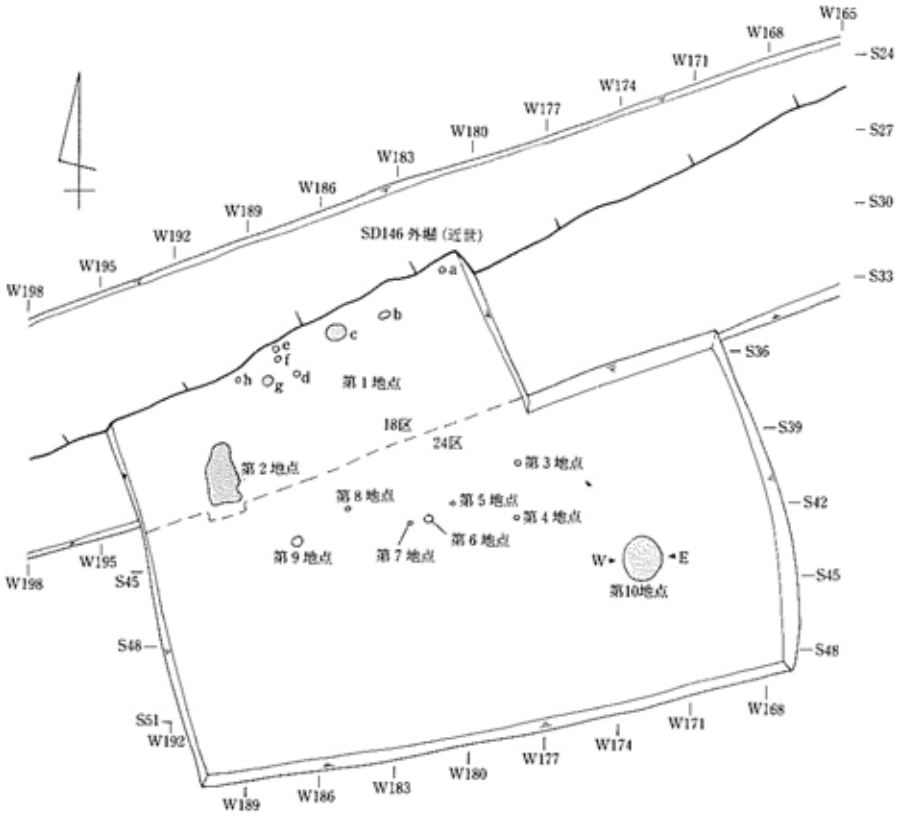
◎ＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点

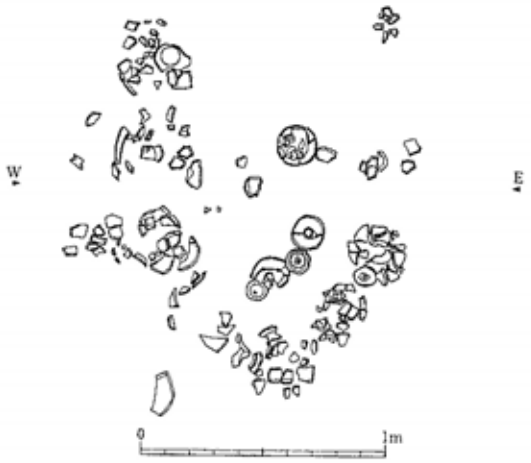
①位置と出土状況（第 32 図）

24 区、W171～187、S40～46、基本層位 11 層上面で古墳時代前期の土器集中地点を確認した。これは平成 5 年度に 18 区、W180～190 付近の同一層位で確認された古墳時代前期土器集中地点の第 1 地点、第 2 集中地点のすぐ南側であるため、その延びであると考えられる。出土地点は第 1・第 2 集中地点と同様に遺構とは認識できない。

出土地点は、確認順に第 3 地点……第 10 地点とした。第 3・4・6・9・10 地点では器種を識別できる状態であった。特に、第 10 地点では 17 個体以上の土器が折り重なるように一括出土している。

一方、第 5・7・8 地点では土器片が少数確認されたに過ぎない。これらの土器は、すぐ近くから出土した土器と接合する傾向にあり、他の地点の土器との接合関係は認められなかった。





第32図　SX1000平面図
（上：第１～10地点、下：第10地点土器出土状況）

②出土土器

ａ．第３地点出土土器（第 33 図 77）

甕 1 点がある。器形は口縁部が外反し、頸部は強くくびれる。胴部は張りのある球形を呈するものと考えられる。口径は 17cm である。調整は内外面とも刷毛目を基調とし、口縁部にはヨコナデが加えられる。

ｂ．第４地点出土土器（第 33 図 78）

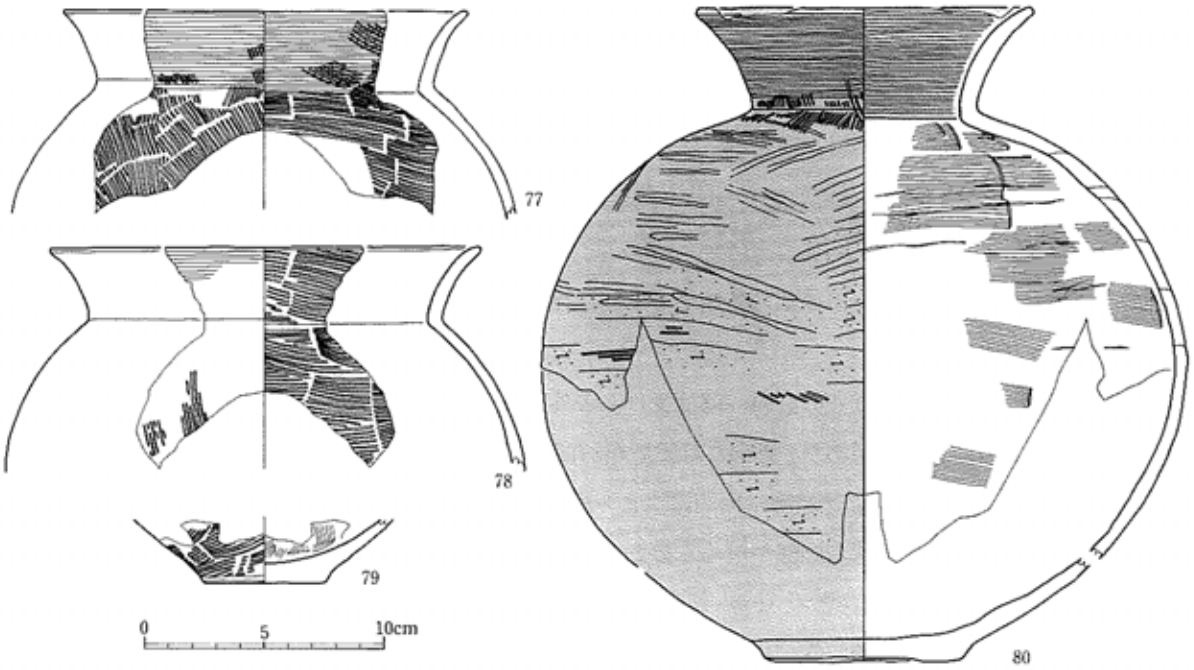
甕 1 点がある。器形は口縁部が外反し、頸部は強くくびれる。胴部は張りのある球形を呈するものと考えられる。口径は 18cm である。外面調整は口縁部はヨコナデ、胴部は刷毛目である。内面調整は口縁部、胴部とも刷毛目である。

ｃ．第６地点出土土器（第 33 図 79）

甕の底部１点がある。底部は平底である。胴部は底部からの立ち上がり方から張りのある球形を呈するものと考えられる。外面調整は刷毛目、内面調整はヘラナデである。

ｄ．第９地点出土土器（第 33 図 80）

壷１点がある。器形は、口縁部は外反する単純口縁で、胴部は多少押し潰された球形で、胴部中央に最大径がある。外面調整は口縁部がヨコナデ、胴部～底部は刷毛目→ヘラケズリ→ヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデ、胴部～底部はヘラナデである。



No.	種別	出土地点	分類	残存	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	底部	胎土	備考	写真図版
77	土師器 甕	第３地点		1/5	16.8		(8.0)	[口]ハケメ→ヨコナデ、[胴]ハケメ	[口]ハケメ→ヨコナデ、[胴]ハケメ		中粒		15－1
78	甕	第４地点		1/6	18.0		(8.3)	[口]ヨコナデ、[胴]ハケメ。摩滅。	[口～胴]ハケメ		中～粗		15－2
79	甕	第６地点		1/6		5.2	(2.7)	[胴]ハケメ	[胴] ヘラナデ	平底	中～粗		15－3
80	壷	第９地点	C１	1/3	14.0	8.3	(38.3)	[口]ハケメ→ヨコナデ[体]ハケメ→ヘラケズリ→ミガキ	[口]ヨコナデ[体]ヘラナデ	平底	中～細	外面赤彩	15－4

第33図　ＳＸ1000第3・4・6・9地点出土土器

ｅ．第 10 地点出土土器

器種は甕、台付甕、高坏、壷、坏、器台、甑がある。

【甕】7 点ある(第 34 図 81～87)。全体の器形がわかるものはなく、81･82 は口縁部～胴部、83 は口縁部、84～87 は底部～胴部である。81･82 は口縁部はやや短く、外反し、頸部は強くくびれる。器高より胴部最大径のほうが大きい張りのある球形を呈する。83 は口径 14.6㎝、外反し、頸部は強くくびれる。胴部は張りのある球形を呈するものと思われる。84～87 は底部がいわゆる輪台技法により中央が窪む平底で、胴部は張りのある球形を呈するものと考えられる。内外面調整は、刷毛目の後、丁寧なミガキが加えられるもの（81･82）と、刷毛目を基調とするもの（83～87）に分けられ、その後、外面に 83 はヨコナデ、84･85 はミガキ、86･87 はケズリが加わる。また、胎土は 81･82 は細粒、83～87 は中粒～粗粒と分かれる。器厚は 81･82 の方が 83～87 に比べ、やや厚い。

【台付甕】1 点ある(第 34 図 88)。張りのある球形を呈する胴部と、やや内湾気味に八の字に開く台部からなる。口縁部は欠如している。調整は胴部は内外面とも刷毛目、台部は外面が刷毛目、内面がヘラナデであるが、刷毛目に用いた工具は胴部に用いたものより幅が狭く、2 種類の工具を使い分けしていたことがわかる。

【高坏】1 点ある(第 35 図 89)。やや内湾気味に外傾する平底状の坏部と、八の字に直線的に開く脚部からなる。調整は内外面とも刷毛目→ミガキである。

【壷】3 点ある(第 35 図 90～92)。90～92 とも単純口縁である。90 はやや内湾気味に外傾する長い口縁をもつ。91･92 は口頸部のくびれが器上位にある小型壷である。体部は玉葱状で、底部は丸底状平底である。調整は 90 は内外面とも刷毛目→ヘラナデであるが、さらに外面には部分的にミガキが加わる。91 は刷毛目を基調とし、口縁部にはヨコナデ、体部内面にはミガキが加わる。92 は内外面とも口縁部はヨコナデ、体部はミガキであるが、全体的に摩滅が激しい。また、外面には残りは悪いが赤彩が施されている

【坏】1 点ある(第 35 図 93)。口縁部は外傾する単純口縁で、体部は玉葱状、底部は丸底状平底を呈すると思われるものである。

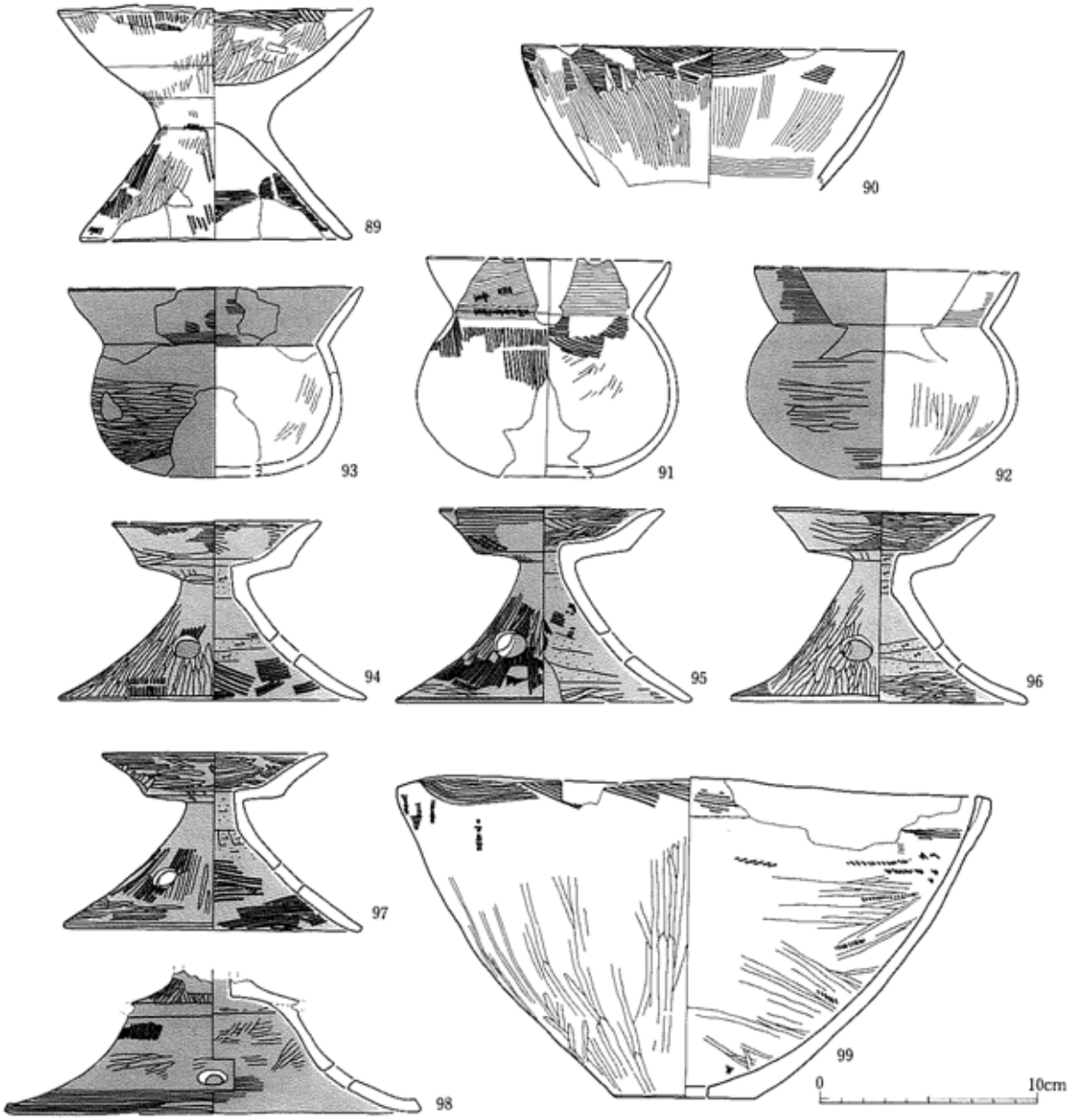
【器台】5 点ある(第 35 図 94～98)。94～98 は受け部の外面に強い段が付き、脚部は八の字に開く。受け部と脚部の間には貫通孔があり、脚部には円窓が 3 孔認められる。98 は脚部のみだが、八の字に強く開き、円窓が 4 孔認められる。裾端部は面的につまみ出されている。脚部上部は欠けているが、割れ口の状態を見ると鍔と中空棒状の脚部が付くものと思われる。外面調整は口縁部がミガキ→ヨコナデ(94･95･97)または刷毛目→ヨコナデ(96)で、脚部は刷毛目→ミガキ(94～96･99)、ミガキ(97)で 97･98 の裾部にはヨコナデが加わる。内面調整は 94～97 とも受け部はミガキ、貫通孔はヘラケズリである。脚部は刷毛目（94･95）またはミガキ（96～98）で、98 は裾部にヨコナデが加わる。また、94～98 とも内外面に赤彩が施されている。

【甑】1 点ある(第 35 図 99)。単純口縁で口縁部が内湾気味に外傾する単孔平底のものである。口縁部の内面の一部に粘土を貼り付けている。調整は内外面とも刷毛目→ミガキである。

No.	種別	出土地点	分類	残存	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	底部	胎土	備考	写真図版
81	土師器 壺	第10地点	A IV	1/5	18.1	7.7	(18.5)	[口]ハケメ→ヨコナデ→ミガキ、[胴]ミガキ	[口]ミガキ、[胴]ハケメ→ミガキ	平・輪	細粒	外面内面口縁赤彩	
82	壺	第10地点	A IV	3/4	14.4	15.0	(15.0)	[口～頸]ヨコナデ、[胴]ミガキ	[口]ヨコナデ→一部ミガキ、[胴]ハケメ		細粒	胴部最大径17.4cm	15－5
83	壺	第10地点		1/6	14.4		(3.5)	[口]ハケメ→ヨコナデ、[胴]ハケメ	[口～胴]ハケメ		細～中		15－6
84	壺	第10地点		1/3		6.2	(10.5)	[胴]ハケメ。[底部]ケズリ。炭化物付着。	[胴]ハケメ。炭化物付着。	平・輪	中～粗		15－7
85	壺	第10地点		1/2		7.4	(20.5)	[胴]ハケメ→一部ミガキ。摩滅。炭化物付着。	[胴]ハケメ	平・輪	中粒	ハケメ工具2種類	15－8
86	壺	第10地点		1/6		6.4	(5.5)	[胴]ハケメ→ミガキ	[胴]ハケメ	平・輪	中粒		16－1
87	壺	第10地点		1/6		6.0	(5.2)	[胴]ケズリ。炭化物付着。	[胴]ハケメ。炭化物付着。	平・輪	中粒		16－2
88	台付壺	第10地点	B	3/4		10.2	(18.0)	[脚～脚]ハケメ（工具異なる）炭化物付着	[脚]ハケメ、[脚部]丁寧なナデ。炭化物付着		中粒	粘土積上げ痕明瞭	16－3

平：平底　輪：輪台技法

第34図　SX1000第10地点出土土器（1）



No	種別	出土地点	分類	残存	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	底部	胎土	備考	写真図版
89	土師器 高坏	第10地点		1/1	14.5	12.6	10.8	[坏]ハケメ→ミガキ、[脚]ハケメ→ミガキ	[坏]ハケメ→ミガキ、[脚]ハケメ		中粒	ハケメ工具2種類	16－4
90	壺	第10地点		1/3	17.4		16.0	[口]ハケメ→ヘラナデ→ミガキ（一部）	[口]ハケメ→ヘラナデ。[肩]ヨコナデ		細粒		16－5
91	壺	第10地点	C III	3/4	11.4	5.0	10.0	[口]ハケメ→ヨコナデ、[体]ハケメ→ミガキ	[口]ヨコナデ、[体]ハケメ→ミガキ	平底	細粒		16－6
92	壺	第10地点	C III	1/4	12.1	3.8	9.7	[口]ヨコナデ、[体]ミガキ。炭化物付着	[口]ヨコナデ、[体]ミガキ。炭化物付着	平底	細粒	外面赤彩	16－7
93	坏	第10地点	A II b	1/3	13.6	03.0	(6.7)	[口]ヨコナデ→一部ミガキ、[体]ミガキ	[口]ヨコナデ、[体]ミガキ		細～中	内外面赤彩。摩滅	16－8
94	器台	第10地点	B	1/1	9.6	14.2	8.3	[受]ヨコナデ→ミガキ、[脚]ハケメ→ミガキ	[受]ミガキ、[脚上]ケズリ・[脚下]ハケメ		細粒	内外面赤彩。3孔。	16－9
95	器台	第10地点	B	1/1	10.4	13.8	8.2	[受]ハケメ→ヨコナデ→ミガキ、[脚]ハケメ→ミガキ	[受]ハケメ→ミガキ、[脚]ハケメ→ケズリ		細粒	内外面赤彩。3孔。	16－10
96	器台	第10地点	B	1/1	10.2	13.6	9.0	[受]ハケメ→ヨコナデ、[脚]ハケメ→ミガキ	[受]ハケメ→ミガキ、[脚]ハケメ→ケズリ→ミガキ		細～中	内外面赤彩。3孔。	16－11
97	器台	第10地点	B	1/1	10.2	13.8	9.0	[受]ヨコナデ→ミガキ、[脚]ミガキ・ヨコナデ	[受]ミガキ、[脚]ケズリ・ミガキ		細粒	内外面赤彩。3孔。	16－12
98	器台	第10地点	C	1/2		19.2	(5.5)	[受]ハケメ→ミガキ・ヨコナデ	[受]ミガキ、ヨコナデ		細粒	内外面赤彩。4孔。	16－13
99	甕	第10地点	A	4/5	27.3	6.4	34.8	[胴]ハケメ→ミガキ、[底]ヘラケズリ	[胴]ハケメ→ミガキ	平底	中粒	炭化物付着。単孔。	16－14

第35図　SX1000第10地点出土土器（2）

2．平安時代

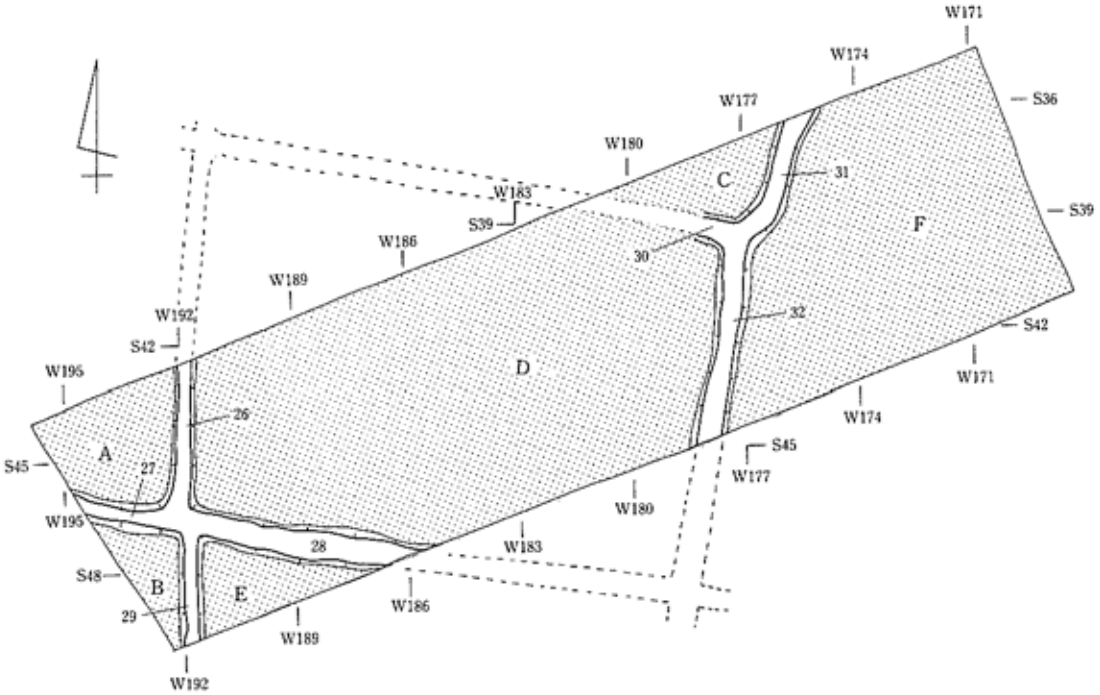
◎水田跡

24 区のＳ36～50、W170～195 で灰白色火山灰に覆われた水田跡の畦畔を確認した(第 36 図)。昨年度(平成 6 年度)、19 区、20 区の調査で水田跡を確認しているが、今回確認されたものはその一連のものである。

【畦畔】南北畦畔 4 本と、これとほぼ直交する東西畦畔 3 本を確認した(No.27～32)。畦畔は、上幅が 40～80㎝ の小畦畔である。畦畔上面と水田面との比高は 5～8㎝ である（第 15 表）。

【区画】今回 6 区画が確認された(Ａ～Ｆ区画)。調査区の関係で全容がわかる区画はないが、南北畦畔 26･32 と、東西畦畔 28･30 の位置関係からＤ区画の規模は、東西約 15m、南北約 10mの長方形と推定できる。

【水田面の標高】水田面の標高は 13.70～13.75mとほぼ平坦といえる。



第36図　24区平安時代水田跡平面図

畦畔No	検出長(m)	上幅(m)	方向
26	4.0	0.4～0.6	南－北
27	3.5	0.4～0.6	東－西
28	5.7	0.6～0.8	東－西
29	3.0	0.6	南－北
30	1.0	0.7	東－西
31	3.5	0.6	南－北
32	5.5	0.6	南－北

第14表　畦畔属性表

第四章　考　察

今回の調査で、古墳時代、平安時代、中近世の遺構が確認された。ここでは、時代ごとに遺物の年代、遺構の性格について考察する。

Ⅰ．古墳時代

ＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点の第 3・4・6・9・10 地点出土土器の器種と点数は、土師器の甕 9 点、台付甕 1 点、高坏 1 点、壷 4 点、器台 5 点、甑 1 点の合計 21 点である。このうち 17 点が第 10 地点出土土器である。全体の器形がわかるものが少ないため、ここでは、まず、第 3・4・6・9・10 地点出土土器の主に器形の特徴を記し、その特徴から土器の年代を検討する。その後、平成 5 年度に確認された第 1・2 地点出土土器と合わせて改めて分類し、編年的位置づけと土器集中地点の性格を考えたい。

1．第 3・4・6・9・10 地点出土土器

(1)土器の特徴

【甕】

①口縁部が外反し、胴部が張りのある球形のもので、内外面の調整がミガキを基調とするもの(81・82)

②全体の器形は不明だが、胴部が張りのある球形で、内外面の調整が刷毛目を基調とするもの(83～87)。

【台付甕】

口縁部は不明だが、胴部は張りのある球形で、台部はやや内湾気味に八の字に開くもの(88)。

【高坏】

やや内湾気味に外傾する平底状の坏部と、八の字に開く脚部からなり、脚部に円窓は認められないもの(89)。

【壷】

①外反する単純口縁の大型壷で、体部は多少押し潰された球形で最大径が胴部中央にあるもの(80)

②口縁部のみの資料だが、やや内湾気味に外傾する長い単純口縁をもつもの(90)。

③単純口縁の小型壷で、口頸部のくびれが器上位にあり、体部は玉葱状、底部は丸底状平底のもの(91・92)。

【坏】

口縁部は外傾する単純口縁で、体部は玉葱状を呈し、底部は丸底または丸底状平底を呈すると思われるもの(93)。

【器台】

①受け部は外面に強い段がつき、外反気味に立ち上がる小皿状で、脚部は八の字に開き、脚部には円窓が 3 孔認められ、受け部と脚部の間には貫通孔があるもの(94～97)。

②脚部のみだが、脚部が八の字に強く開き、円窓が4孔認められるもの(98)。

【甑】

単純口縁で口縁部が内湾気味に外傾する単孔平底のもの(99)。

(2)共伴関係

第3･4･6地点からは甕②、第9地点からは壷①、第10地点からは甕①②、台付甕、高塚、壷②③、坏、器台①②、甑が出土している。第3･4･6･9地点からは各1点しか出土していないが、第10地点からは18点が一括出土している。これらの土器は同一層位から出土しており、時間的に大きな隔たりはないものと思われる。

(3)土器の編年的位置

このような土師器は器形、器面調整の特徴から、古墳時代前期の「塩釜式」に位置づけられる（氏家：1957）。「塩釜式」は近年、細分化が試みられている（丹羽：1985、次山：1992、辻：1993･1994）。丹羽は3段階4時期に区分し、これをふまえ次山は高坏、小型丸底鉢、甕の3器種をもとに6段階に区分した。また、辻はこれらの成果をもとにIII期に大別し、さらに2～4段階に細分している(第15表)。

今回の出土土器とこれらの編年案と対比させ編年的位置を考えてみる。まず、3者が指標として用いた変遷過程が明瞭な高坏、甕、坏についてみてみる。

高坏は、椀状の坏部に八の字に開く脚部が付くもので、丹羽は第Ⅰ～Ⅱ段階、次山は1・2段階、辻はⅡ－2期に位置づけている。

甕は、口縁部が「く」の字に外反する単純口縁をもち、胴部は張りのある球形で、底部は平底のもので、丹羽は第ⅡA段階、辻はⅡ－2期～Ⅲ－1、次山は84～87に見られるような輪台技法を用いた底部は2段階に特徴的にみられるとしている（註1）。

坏は、口縁部は外傾する単純口縁で、体部は玉葱状、底部は丸底または丸底状平底のもので、丹羽は第ⅡA段階に位置づけている。

その他、丹羽は、壷①を第ⅡA段階、壷②③は器形の変化に乏しいとし言及していない。器台・甑は、おおまかにⅡ段階に位置づけている。

以上のことから、今回出土した土器は、編年的位置づけの時間幅が比較的大きいものも見られるが、丹羽の第ⅡA段階、次山の2段階、辻のⅡ－2期に位置づけできる。

漆編年	5	6	7		8	9	10	11	
辻 (1993)	Ⅰ－1	Ⅰ－2	Ⅱ－1	Ⅱ－2	Ⅲ－1	Ⅲ－2	Ⅲ－3	Ⅲ－4	
次山(1992)			1	2		3	4	5	6
丹羽(1985)			Ⅰ	ⅡA			ⅡB	Ⅲ	

第15表　東北南部の古墳時代前期土器編年対照表

2．ＳＸ1000古墳時代前期土器集中地点出土土器

平成5年度の18区の調査で、基本層位Ⅴ－4層で第1地点、第2地点が確認され、それぞれ18点、25点の土師器が出土し、両地点の土器とも丹羽の第ⅡA段階に位置づけられている(天野：1994)。今回、その南側の第3･4･6･9･10地点から、土師器の甕9点、台付甕1点、高坏1点、壷4点、坏1点、器台5

点、甑1点の合計22点が出土し、同じく第ⅡA段階に位置づけられた。つまり、第ⅡA段階の土器集中地点が第1～10地点の10か所確認されたことになる。そこで、第3･4･6･9･10地点の性格だけではなく、第1～10地点全体の性格を考えるため、改めて第1・2地点出土土器に今回の第3･4･6･9･10地点出土土器を加えた土器分類を行ない、共伴関係などを考慮した検討を行なう。

(1)土器の分類

【甕】

A類：口縁部が外反し、胴部が張りのある球形で底部が平底のもの。

Ⅰ．器高が28㎝前後の大型のもので、器高と胴部最大径がほぼ同じのもの（223～225）。

Ⅱ．器高が25㎝前後の中型のもので、器高と胴部最大径がほぼ同じのもの（226～228）。

Ⅲ．器高が17㎝前後の小型のもので、器高と胴部最大径がほぼ同じのもの（201・202・229）。

Ⅳ．器高が17㎝前後の小型のもので、器高より胴部最大径のほうが大きく、内外面の調整がミガキを基調とするもの（81・82・230・231）。

B類：口縁部が外傾し、頸部のくびれが弱く胴部がやや張りが弱い球形のもの（203・232）。

【台付甕】

A類：広口の甕で、口縁部は外傾し、頸部のくびれは小さい。胴部は球形で、台部は八の字に開くもの（233）。

B類：口縁部は不明だが、胴部は張りのある球形で、台部はやや内湾気味に開くもの（88）。

【高坏】

坏部は内弯気味に外傾する無段丸底状で、脚部は八の字に開き円窓が認められないもの（89・234）。

【壷】

A類：大型のもの

Ⅰ．有段口縁で、口縁部に2本1組の縦位浮文が4単位認められ体部は膨らみのある球形のもの（204）

Ⅱ．単純口縁で、口縁部がやや外反し、最大径が体部中央よりやや下部にある玉ねぎ型で、頸部に隆帯をもつ平底のもの（208）。

Ⅲ．単純口縁で、口縁部が外反し、体部は多少押し潰された球形で、最大径が体部中央にある平底のもの（80）。

その他、口縁部の形態は分からないが、口縁部が外反し、胴部は多少押し潰された球形で最大径が胴部中央にある平底のもの（206）がある。

B類：中型のもの

複合口縁で、口縁部が外反し、体部は多少押し潰された球形で最大径が体部中央にあり、頸部に隆帯をもつ平底のもの（205）。

C類：小型のもの

Ⅰ．単純口縁で、口縁部が外反し、体部は多少押し潰された球形で、最大径が体部中央にある平底のもの（207）。

Ⅱ．単純口縁で、口縁部が直立気味に外傾しながら高く伸び、体部が玉ねぎ状で底部が丸底状平底

のもの（235）。

Ⅲ. 単純口縁で、口縁部はやや内湾気味に外傾し、口頸部のくびれが器上位にあり、体部は玉ねぎ状、底部は丸底状のもの（91・92）。

【坏】

A類：単純口縁のもの。

Ⅰ．口縁部と胴部とのくびれをもたず、やや内弯気味に外傾して立ち上がる平底のもの（209）。

Ⅱ．体部上部でくびれ胴部がすぼまる平底のもの。

ａ．口縁部が外反するもの（236・237）。

ｂ．内弯気味に外傾するもの（93・210）。

Ⅲ. 体部中央部でくびれ、口縁部が外傾し胴部がすぼまる平底のもの（238）。

B類：有段口縁のもので、体部上部でくびれ、口縁部が外傾し胴部がすぼまる平底のもの（239）。

【器台】

A類：受け部は弱い段が付き、内湾気味に立ち上がる小皿状のもので、脚部は八の字に強く開き、脚部には円窓が3孔認められ、受け部と脚部の間には貫通孔があるもの（211・240～242）。

B類：受け部は強い段が付き、外反しながら立ち上がる小皿状のもので、脚部は八の字に強く開き、脚部には円窓が3孔認められ、受け部と脚部の間には貫通孔があるもの（94～97）。

C類：脚部のみだが、脚部が八の字に強く開き、円窓が4孔認められるもの（98）。

【甑】

A類：単純口縁で口縁部が内弯気味に外領する単孔平底のもの（99・212）。

B類：複合口縁で口縁部が内弯気味に外傾する単孔平底のもの（213・243）。

【ミニチュア土器】

A類：口縁部が外傾する平底のもの（214～219）。

B類：口縁部が内弯気味に外傾する平底のもの（220）。

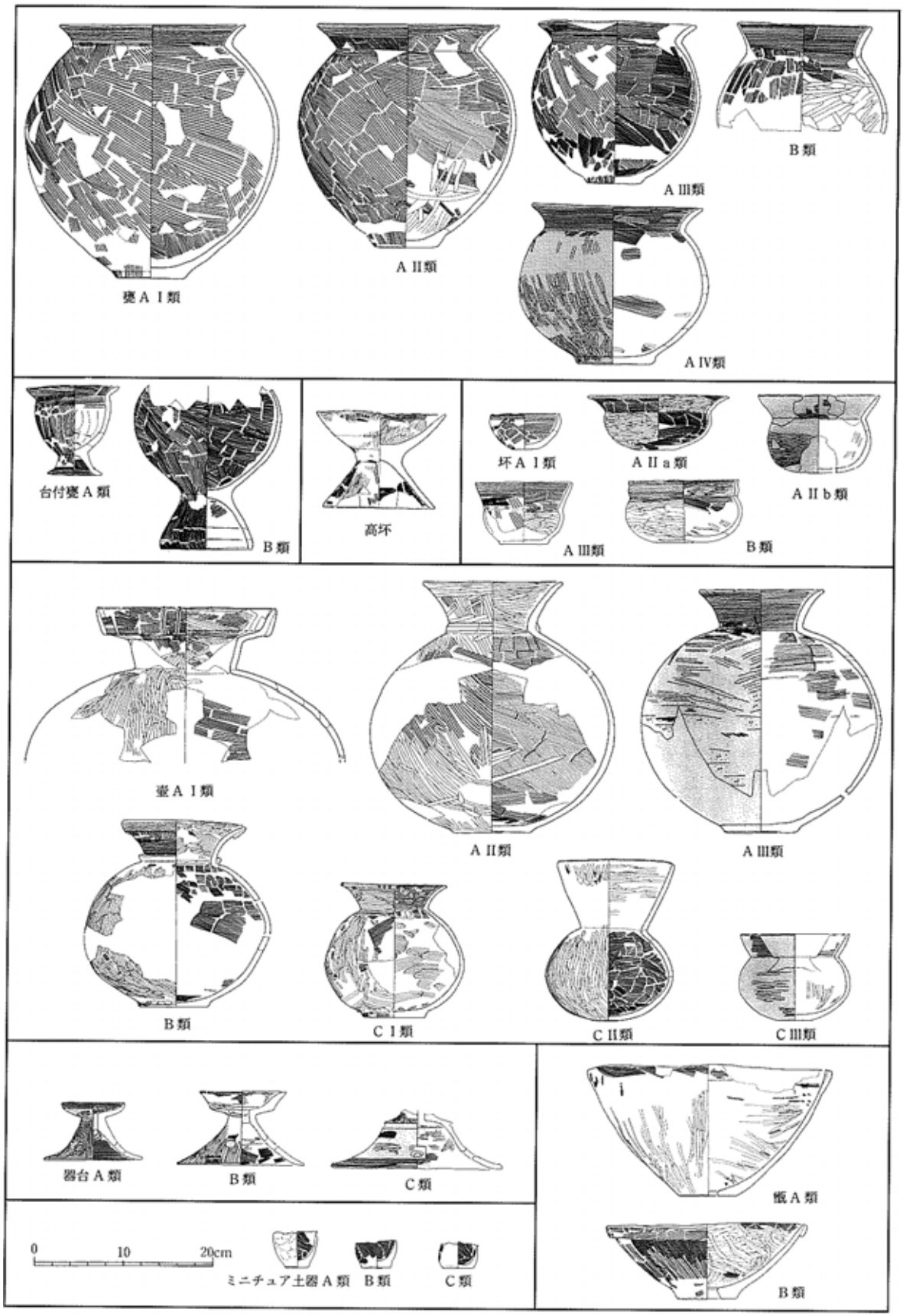
C類：口縁部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部で外反する平底のもの（221・222）。

(2)共伴関係

第1地点はａ～ｈに分かれているが、それぞれ接合関係が認められ、同時期の土器群であったと考えられる。第2・10地点は多数の個体が一定の範囲にまとまって出土していることから、それぞれ一括の土器群と考えられる。

ところで、第1地点と第2地点では変遷が明瞭な甕AⅢ類・器台A・甑Bが共に存在し、第2地点と第10地点では甕AⅣ類、高坏が、第1地点と第10地点では坏AⅡｂ、甑Aが共伴していることから、これらを一つの土器群として扱えるものと思われる。

一方、第3～9地点は1～2個体分の土器片が少数出土したのみで、第5・7・8地点については図示できる資料はない。また、それぞれ独立した地点なのか、本来は近接する第2・10地点に帰属していたものがなんらかの理由で離れたものなのかは不明である。



第37図　古墳時代前期土器分類図

分類 / 地点	甕					台付甕		高坏	壺							坏					器台			甑		ミニチュア土器			計
	A				B	A	B		A			B	C			A				B	A	B	C	A	B	A	B	C	
	I	II	III	IV					I	II	III		I	II	III	I	II a	II b	III										
第1地点			2		1				1	1		1	1			1		1			1			1	1	6	1	2	21
第2地点	3	3	1	2	1	1		1						1			2		1	1	3				1				21
第9地点											1																		1
第10地点				1			1	1			1				2			1				4	1	1					12
計	3	3	3	3	2	1	1		1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	1	4	4	1	2	2	6	1	2	
	14					2		2	8							7					9			4		9			55

第16表　SX1000出土土器共伴関係

(3)編年的位置づけ

ＳＸ1000 出土土器は上記のように分類でき、第 17 表に示した共伴関係が認められた。これらは、前述したように、いずれも丹羽編年の第ⅡＡ段階に位置づけられ、さらに次山、辻の編年を考えると、第ⅡＡ段階の前半にまで時期を限定できるものかもしれない。

(4)土器集中地点について

土器集中地点の調査を平成 5 年度と平成 7 年度の 2 か年に渡り行なった。その結果、土器集中地点の広がりについては、本地点の東側、西側は平成 3 年度の確認トレンチ跡があるが、今回その埋土を除去し調査したが、土器は確認されなかった。南側は第 10 地点から 6m以上にわたり土器が確認されなかった。北側は下草古城の外堀にあたるＳＤ146 に壊されているため不明である。このように本地点の周辺では他の土器集中地点は確認できなかったことから、土器集中地点はW170～190、Ｓ33～48 付近の約 20×15mの範囲に認められることがわかった。

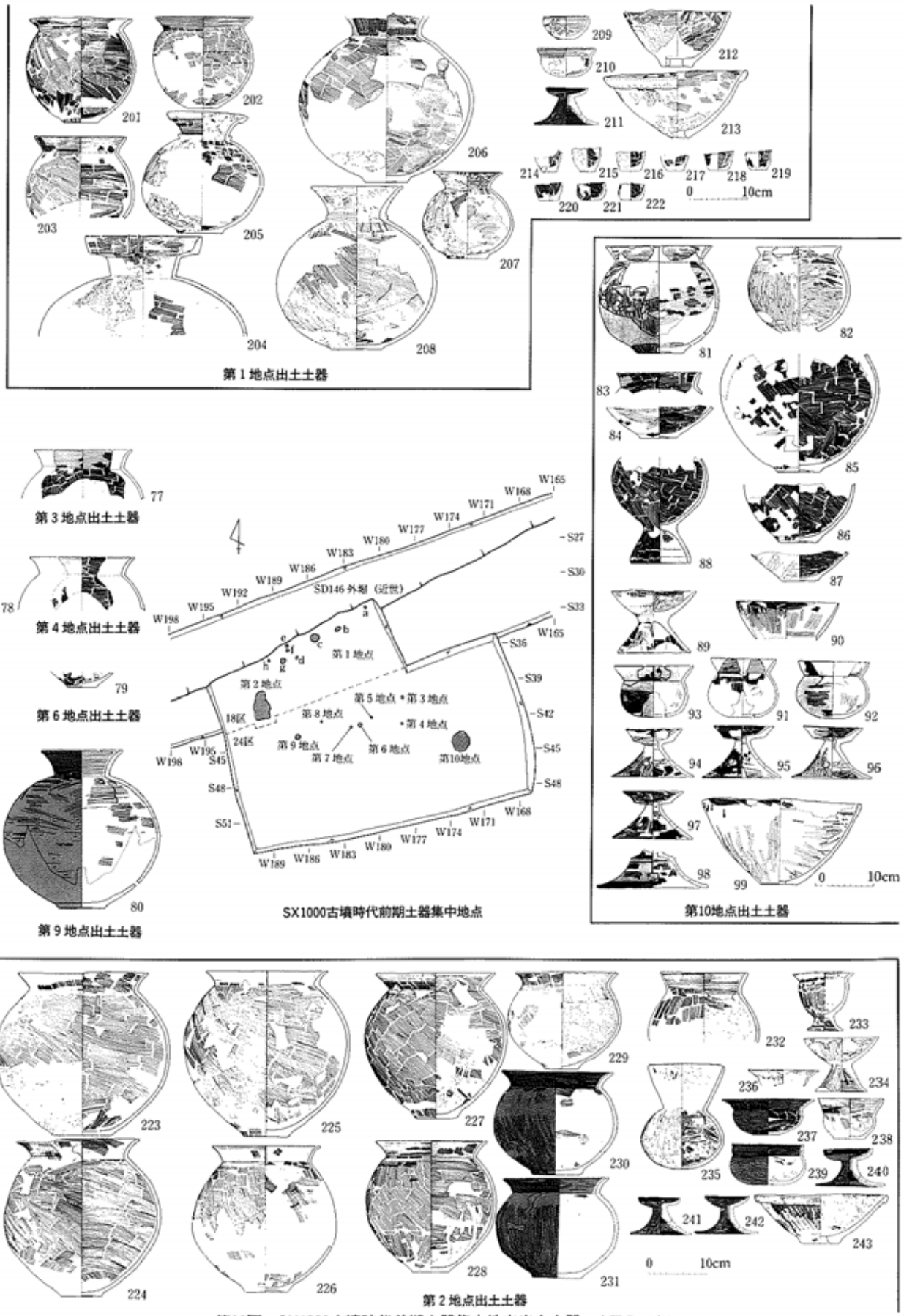
また、土器集中地点の周辺には遺構などの人間が活動した痕跡が認められないことや、それぞれが一括の土器で、原位置を保って折り重なるように出土していることなどから、これらの土器はこの場所で使われたものではなく、別の場所で使われた後、この場所に廃棄されたものと考えられる。

土器集中地点の性格については、第 1 地点は土器組成にミニチュア土器が含まれていることが特徴的で、これらは一般的に祭祀に用いたものと考えられており、祭祀後、土器を廃棄したものと考えられる。第 2 地点、第 10 地点は、赤彩された土器がそれぞれ 7 点、6 点出土していることから祭祀に用いたものと思われ、祭祀後に第 1 地点同様、廃棄されたものと考えられる。

以上のことから、本土器集中地点は、別の場所で行なわれた祭祀に使用した土器類をそれぞれ一括廃棄した場所と考えられる。なお、本地点が土器の廃棄場所に選ばれた理由は不明である。

(5)第 10 地点出土の器台について

今回、第 10 地点から 5 個体の器台(94～98)が出土した。このうち 94～97 はＢ類に、98 はＣ類に分類されたが、Ｂ類、Ｃ類ともこれまで宮城県内から出土した塩釜式期の土器には類例のない器形である。近隣の出土例としては、Ｂ類の 94～97 は福島県西部の会津盆地に類例がみられ、辻(1993)はＩ～Ⅱ－1 期(漆編年 5 群･6 群、新潟シンポ編年 5･6 期)に展開し、北陸東部と強い関連があるとしている。Ｃ類の 98 は上部が欠け全容は不明だが、現存の脚部上部周縁に鍔がつき、さらに上部中央から中空棒状の脚部が延び、その上に受け部が付く装飾器台と思われる。また、器形は裾端部が面的につまみ上げられるように作られているなど北陸系の特徴が見られる。このことから、今回出土した器台Ｂ類、Ｃ



第38図　SX1000古墳時代前期土器集中地点出土土器・土器 S＝1/10

※ No.201～243 は平成 5 年度出土（天野1994）

類は、北陸の影響を強く受けて、塩釜式期に作られたものと考えられる。しかし、土器の系譜などの詳細は現段階では不明である。資料の蓄積を待ち検討したい。

(6)集落跡について

本遺跡では、前述したように、祭祀に使用した土器を廃棄した土器集中地点は確認されているものの、祭祀を行なった人々の集落跡や祭祀を行なった場所などは確認されていない。本遺跡は西・北側の標高が相対的に高く、東・南側が低いことから、集落跡などの遺構は本端点の西側、北側に存在している可能性が高い。また、本地点から東に100m以上離れている29区のＳＤ450ａ溝跡の堆積土から塩釜式期の甕の破片が出土していることから、今回確認された土器集中地点から多少の距離をおいて集落跡が存在しているのかもしれない。

Ⅱ．平安時代

◎水田跡

平成6年度の調査で、東は19区(W90付近)、西は7区(W300付近)、南はＳ200付近、北はＳ15付近の範囲で水田跡が確認された。水田は、大畦畔による大区画を小畦畔で細分したもので、区画の平面形は方形、規模は1辺が6～20mの不規則なものと予想された(天野：1995)。今回は調査範囲が狭かったため(W170～196、Ｓ35～51)全容は不明だが、畦畔の検出状況から、東西14.0m、南北10mの長方形の一区画が推定できた。さらに、畦畔の方向から、ほぼ同じ方向の区画が四方に広がっていることが明らかとなった。

水田が営まれた時期は、平成6年度に確認された水田と同様に、上限を9世紀前半、下限を灰白色火山灰降下直前の10世紀前半とする。

Ⅲ．中近世

1．遺構

今回、掘立柱建物跡、柱穴列跡、井戸跡、溝跡、土壙、道路跡、竪穴状遺構、整地層、集石遺構、炭化物集中遺構、焼け面跡などが確認された(第1表～第13表)。以下、遺構ごとに考察する。

(1)掘立柱建物跡

24･28･29区で合計65棟確認された。このうち建物の全容がわかるものは約1/6である。建物の分布状況をみてみると、24区はＳＸ987道路跡周辺と調査区北西端以外は、ほぼ調査区全域に建物跡が認められた。28区はＳＸ1086整地層残存部分に集中している。29区はＳＸ1120道路跡付近以外で建物跡が認められた。

整地層は24区では確認できなかったが、28・29区では一部残存しており、整地層上面で多数の掘立柱建物跡を確認した。しかし、整地層下面では柱穴が少数確認されたに過ぎない。

建物跡は28・29区のように整地を行なった場所では大規模な建物跡が多く認められるが、整地層が認められない24区では、桁行3～4間、梁行1間程度の長方形を呈する単純なものが多く認められ、それに廂が付くもの、張り出すものが少数見られるなど傾向が異なる。また、随所で重複が認められ、28

区整地層上面では建物跡だけで最低8時期の変遷を示している。

建物跡の方向は、①真北から6〜7度西に振れるもの(55棟)、②真北方向のもの(5棟)、③真北から4〜5度東に振れるもの(4棟)に大別され、大部分が真北から6〜7度西に振れるものである。また、①は、近接する溝跡や道路跡と方向が一致するが、②・③と方向が一致する溝跡は確認されていない。このことから、①の時期に町並みが形成されていた可能性があり、その中でさらに変遷していたものと考えられる。なお、真北から4〜5度東に振れる建物跡と真北方向の建物跡については、新旧関係は不明だが、真北から6〜7度西に振れる建物跡とは時期が異なるものと思われる。

(2)柱穴列跡

24・28・29区で10列確認された。いずれの柱穴列跡も近接する建物跡の柱筋と方向を揃えていることから、ほぼ同時期に存在していたものと考えられるが、具体的な組合せは明確にできなかった。

(3)井戸跡

25・27区以外で31基確認された。今回確認された井戸の特徴として、①掘立柱建物跡など遺構が集中しているところに分布すること、②素掘りであること、③断面形は上部が大きくまたは小さく開くロート状のものと筒状のものがあり、前者が多いこと、④井戸の規模は長径1.5〜2.5mの円形を基調としたものがほとんどで、その他、1.4m以下のもの、2.6m以上のものも少数見られること、⑤井戸全体または上部が人為的に埋め戻されているものが多いこと、などがあげられ、これまで本遺跡で確認された井戸と同じ特徴をもつ。また、整地層が残存している28・29区で確認された井戸跡は建物跡を避けるように整地層端部など比較的遺構の密度が希薄なところに分布する傾向にある。これは建物跡と井戸跡の場の使われ方を反映しているものかもしれない。

(4)溝跡

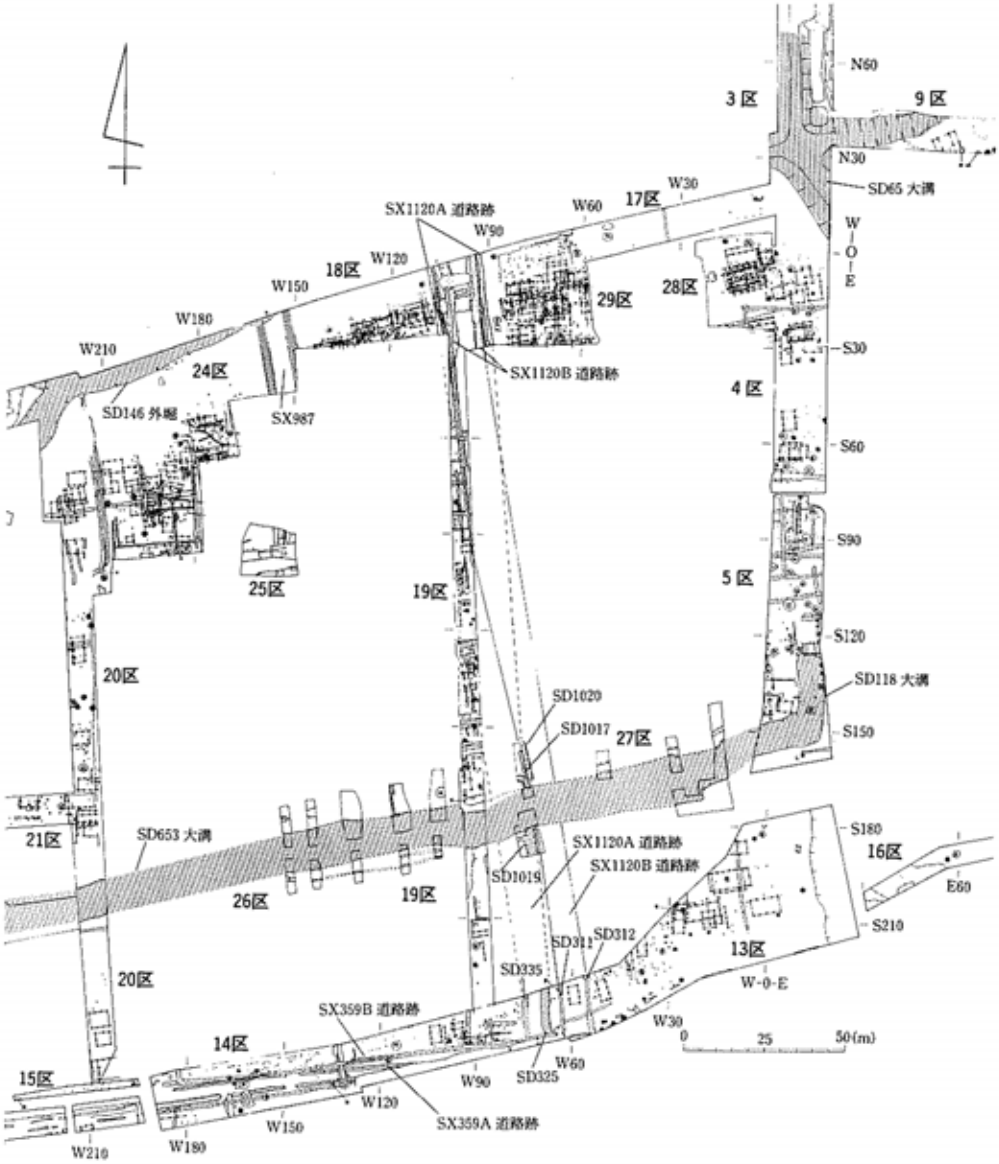
各区で93条確認された。今回確認された溝は、幅11m以上の大溝、幅2〜3m前後の中規模の溝、幅1m前後までの小溝に大別されるが、ほとんどが幅1m未満の小溝である。本遺跡の溝の性格は、主に①区画溝、②道路側溝、③取水・排水溝で、なかには複数の性格をもつものもあると考えられている(天野：1994)。しかし、調査区が限られ全容が不明のため、性格がわかるものは少ない。

大溝は26・27区で確認されたＳＤ653のみである。ＳＤ653は昨年度の19・20・23区の調査で北目用水と重複して確認されていたもので、竹林川から取水し、ＳＤ853を経て遺跡東側・南側への放水路として機能し、また、城下取を大きく区画する溝となる可能性が指摘された(天野：1995)ものであるが、19区より東側のプランが確認されていなかったため詳細は不明であった。今回の調査で、ＳＤ653は19区から80mほど東に延び、W10付近で方向を北東に変えて5区のＳＤ118大溝と連絡し、さらに北東へ延びて行くことが明らかになった。さらなる進路は不明であるが、5区の東側にあたる8区では、ＳＤ653に相当する大溝が確認されていないことから、ＳＤ653は東へは延びず、須田(1993)が推定したように、北へ延びて4区で確認されているＳＤ65大溝と連絡する可能性が高い(第39図参照)。仮にＳＤ653がＳＤ65と連絡した場合、ＳＤ65はＳＤ146外堀と連絡しているため、これらの溝は外堀の南側に広がる城下取を大きく区画する一連の溝となる。4・5区の東側は今後調査が予定されているため、調査結果を期待したい。

中・小溝は多数確認された。まず、区画溝と考えられるものは、24 区西側に見られる南北溝（ＳＤ900～903・908・928）とそれと直交する東西溝(ＳD660・907)である。これらの溝は、真北から 6～7 度西に振れる建物跡の柱筋と方向を揃えることから、この建物跡を区画したものと考えられる。これらの建物跡と溝跡には重複関係が見られることから、数時期の変遷が考えられるが、具体的には不明である。また、ＳD900 は 20 区南側から延びるＳD676 と連絡し、さらにＳD146 外堀とも連絡することから城下町を広く区画する溝といえる。そして、深さは浅いものの底面レベルが北側ほど低くなっていくことから、区画した生活域の排水溝としても機能していたと考えられる。

(5)道路跡

道路跡は 2 条確認された。まず、ＳX1120 道路跡は、昨年度調査した 19 区と 24・29 区のW90～108、S70～150 付近で確認されたものである。本遺跡では、平成 5 年度に 14 区でＳX359Ａ・Ｂ東西通路跡が確



第39図　遺跡南側の区画（SD653大溝、SX987道路跡、SX1120道路跡など）

認されているが、古い段階のA段階の側溝は、部分的に途切れ、取水・排水溝としては機能しないこと、全部または一部埋め戻される傾向にあること、各々の溝が短く深いこと、などの特徴をもつ。新しい段階のB段階は掘り方が浅く、自然堆積であることなどの特徴をもつことが明らかになっている。今回確認されたＳX1120 道路跡は溝の新旧関係、方向などからA、Bの 2 時期に大別され、それぞれ古い段階、新しい段階の特徴をもっていることが明らかとなり、ＳX359 と同様の変遷をたどったものと考えられる。

26 区のN－1、S－1 トレンチでは古い溝の特徴をもつＳD1017･1019 が、N－1 トレンチで新しい溝の特徴をもつＳD1020 が確認されている。ＳX1120A・Bが方向を変えず南に延びた場合、ＳD1017･1109 は古い段階のＳX1120Aの東側溝になり、ＳD1020 は新しい段階のＳX1120Bの西側溝になる位置関係であることから、少なくとも 26 区付近までは道路跡が延びていると言える。

ところで、平成 5 年度の調査で 13･14 区のW55～70 付近で、ＳX359 道路跡と重複する平行する 2 組の南北溝(西から) ＳD335･325 とＳD311･312 が確認されている。溝の性格については区画溝として扱っていたが(天野：1994)、これらの溝跡は周辺の建物跡の柱筋と方向を揃えることや、溝付近の遺構の密度が希薄なことなどから道路側溝と思われる。また、ＳD325･335 は古い段階の道路側溝の特徴をもち、ＳD311･312 は新しい段階の道路側溝の特徴をもっていることから、新旧の道路跡と考えられる。さらに、この新旧の道路跡は、前述したＳX1120 道路跡A・Bの延長線上にそれぞれ位置していることから、ＳX1120 道路跡A・Bの一部であると考えられる。

以上のことから、ＳX1120 道路跡は 17 区のN－6～13･14 区のＳ250 付近まで約 260mにわたり認められ、ＳX359 道路跡と連絡し、A・B段階と変遷したものと考えられる。

一方、ＳX987 道路跡は、7mほど確認されたに過ぎず、詳細は不明であるが、周辺の建物跡の柱筋と方向を揃えていることから、ＳX987 の東側と西側の生活域を区画していると考えられるが、具体的な範囲や規模は不明である。

また、道路跡と言えるか疑問はあるが、ＳD146 外堀やＳD653 大溝の南側には幅約 10～20mの極めて遺構の密度が低い区域が連続して認められる。外堀や大溝の南側はなんらかの規制で建物などが建てられなかったものと思われるが、周辺に東西方向の道路跡がＳX359 以外に認められないことや、ほぼ一定の幅で連続して認められることなどから道路として機能していた可能性もある。

(6)土壙

12 基確認された。長径 2m以上のものと 1m前後のものがあるが、大半は 1m以下のものである。平面形は楕円形のものが多い。これらの属性には特に傾向性は認められず、また、出土遺物もないため性格は不明である。

(7)竪穴状遺構

1 基確認された。本遺跡では初めて確認された。平面形は長径 2.8m、短径 2.0mの隅丸方形を呈し、深さは 70㎝で断面形はビーカー型、東側にはステップと思われる掘り込みが見られる。これはなんらかの施設を意識した掘り方といえ、埋土には鞴の羽口、鉄滓、焼土、鍛造薄片などが多数含まれていることから鍛冶に関連する遺構の可能性がある。しかし、鍛冶施設や焼け面などは確認されていない

ことから断定はできず、竪穴状遺構とし、可能性を示すにとどめる。

(8)整地層

3か所確認された。比較的広範囲に認められるもの(28区ＳＸ1086、17・29区ＳＸ1060)と、部分的に認められるもの(24区ＳＸ967)がある。前者は基本層位Ⅱ－2・3層に相当し、本遺跡の各所に認められるもので、整地が行なわれた場所には大規模な建物跡が存在する傾向にある。この整地層は、本遺跡が沖積地に位置するため水害対策として地盤のかさ上げを目的としたものと考えられている（須田：1993）もので、本来は広範囲に認められたと鑑定できるが、後世の削平などにより、部分的に残存しているに過ぎない。層厚も平成5年度に調査した17区では最大30㎝まで確認されているが、今回確認されたＳＸ1060・1086は最も厚いところでも10㎝前後で、本来の厚さを保っているものではないといえる。

一方、ＳＸ967は、ＳＥ966の上部とその周辺の窪みを整地したものである。厚さは不均一で、範囲も調査区端のため不明である。

(9)炭化物集中遺構

1基確認された。長径3.1m、短径2.1m、深さ20㎝の不整円形をした浅い窪みに炭化物が密に堆積していたものである。本遺跡では、炭化物集中遺構は鍛冶に関連して焼け面跡と近接して確認される傾向にあるが、今回確認されたＳＸ919 の周辺にはそのような焼け面跡などは確認されておらず、また、性格を推定しうる遺物も出土していない。

(10)焼け面跡

4基確認された。このうち24区のＳＸ1026以外は28区の東端で確認されたものである。焼け面跡は長径0.65～1.5m、短形0.4～0.5mで、深さ10㎝前後の皿状に熱変化し、上面の硬化赤色化した部分を焼土・炭化物が薄く覆っているもの(ＳＸ1026・1089)と、赤色化した部分が痕跡的に認められるもの(ＳＸ1034・1087)がある。

ＳＸ1034・1087・1089は周辺に炭化物が不整に分布していることや、東隣の4区で炭化物集中遺構と焼け面跡がセットをなして確認され、鍛冶を行ったと考えられている（須田：1993）ことから、これらと一連のものと思われる。一方、ＳＸ1026は、調査区が狭いこともあり、周辺に炭化物集中遺構は確認されていないことから鍛冶に関連するものとは言い切れず、また、出土遺物もないため性格は不明である。

(11)集石遺構

1基確認された。長径1.9m、短径0.55m、深さ10㎝の楕円形の浅い窪みに長径5～15㎝ほどの小礫が集中していたものである。周辺に遺構に伴う施設等は認められず、火を受けた痕跡などもない。本遺跡では、これまで5区西で1基確認されているだけだが、今回確認されたものとは直線距離で150mほど離れていることから特に関連はないものと思われ、性格は不明である。

2．遺物

今回の調査で、陶磁器類、土製品、古銭、鉄製品、銅製品、木製品、石製品が出土した。調査面積や遺構数の割りには遺物量は少ない。また、年代がわかるものも少ない。

陶磁器類には、無釉陶器、施釉陶器、染付磁器、青磁などがある。瀬戸・美濃産、唐津産の施釉陶器は16世紀末～17世紀初頭に位置づけられる。

古銭は、開元通宝、咸平元宝、治平元宝、熙寧元宝、元豊通宝、元祐通宝、政和通宝、洪武通宝、永楽通宝がある。いずれも中国から輸入されたものである。

その他の遺物は具体的な年代は不明であるが、下草古城の時代である 17 世紀初頭頃の層位、遺構から出土していることから、年代もおおまかにその頃に求められよう。

3．推定される遺跡の構造と年代

今回の調査は、位置的には外堀のすぐ南側にあたる 24･28･29 区と、遺跡南部にあたる北目用水沿いの26･27区の調査に分けられる。

24･28･29区では、ＳＤ146外堀から約10～20m離れた位置から掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡など多数の遺構が確認され、二の丸に最も近い城下の一部が明らかとなった。28・29区では水害対策と考えられる整地層が残存し、比較的大きな建物が確認され、建物跡だけで最低8時期の変遷が認められるなど、比較的長期に渡って町並みが続いていたことも改めて明らかとなった。また、ＳＸ1120道路跡は、遺跡南側の 13･14 区で確認されたＳＸ359 道路跡と連絡することが明らかとなり、道路跡によって城下が区画されている様子がわかってきた。しかし、全体的な区割りの範囲や基準が不明なことや、建物跡は方向により3通りに分類できたものの、変遷を明らかにするには至らなかったなど、今後の課題も多い。

26･27区では竹林川と連絡するＳＤ653大溝のプランが確認され、さらにＳＤ118→ＳＤ65→ＳＤ146外堀と連絡すると考えられることから、遺跡の南側をＳＤ653 大溝などで大きく区画していることが確定的となった。

以上のことから、城下は、具体的な範囲や基準は不明であるが、道路跡やＳＤ653 大溝などによって大きく区画されていることが推定でき、さらに、小溝によって細かく区画されていることがわかった。ただし、20区（W210）以西については、竹林川と外堀を結ぶ複数の大溝、小溝が存在しており、7区を除いては生活域は確認されていない（天野：1995）ことから、区割りは主に20区以東で行なわれていたものと考えられる。

遺跡の年代は、宗清が居城した 17 世紀初頭を中心とするものと考えられるが、掘立柱建物跡だけでも最低8時期以上の変遷が認められるなど、比較的長期間にわたり遺構が存続していたことは明白であり、宗清が居城した以前、以後にも町並みが存在していたものと考えられる。しかし、具体的に遺構の存続期間を示す資料は得られなかった。

(註1)　次山（1992）は「底部に輪台をもつものは1・2段階、特に2段階に特徴的にみられる」としているが、本遺跡より編年的に新しい（次山編年の3～5段階）佐沼城跡（佐久間：1995）でも特徴的にみられていることから、1～5段階まで継続してみられる特徴と言える。

第五章　まとめ

1．中近世の遺構・遺物のほか、平安時代の水田跡、古墳時代前期の土器集中地点が確認された。
2．24 区で新たにＳＸ1000 古墳時代前期土器集中地点の第 3～10 地点が確認され、「塩釜式」の第ⅡＡ段階に位置づけられた。
3．24 区で平安時代の水田跡が確認され、これまで不明だった区画の一部が明らかとなった。
4．ＳＤ146 外堀のすぐ南側にあたる 24･28･29 区では、多数の掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡などの遺構が確認された。特に整地層が残存している 29・29 区では規模が大きい建物跡が認められる傾向が見られた。また、建物跡も柱筋の方向から 3 つに分類されたが、変遷を明らかにすることはできなかった。これらは道路跡、溝跡によって区画されているが、全体の区割りや基準を明確にするには至らなかった。
5．ＳＸ1120 道路跡は 17 区から 13･14 区まで延びてＳＸ359 道路跡と連絡し、A段階、B段階と変遷することが明らかとなった。
6．遺跡南側の北目用水沿いの 26･27 区ではＳＤ653 大溝が確認され、5 区のＳＤ118 大溝と連絡することが明らかとなり、さらにＳＤ65→ＳＤ146 外堀と連絡することが確定的となり、ＳＤ653 大溝はＳＸ1120 道路跡などと城下の南側を大きく区画していたと考えられる。
7．遺構の年代は、17 世紀初頭を中心とするものと考えられる。しかし、掘立柱建物跡だけでも 8 時期の変遷を示していることから、遺跡は比較的長期に渡って存続していたことは明確であり、少なくとも文献に示されているように宗清が居城した数年間に残されたものではないが、存続期間を明確に示せる資料は得られなかった。

参考･引用文献

天野　順陽（1994）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書第160集

天野　順陽（1995）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書第166集

遠藤巌・伊藤信ほか（1975）：「大和町史」上巻

加藤　道男（1989）：「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』

佐久間光平（1995）：「佐沼城跡」迫町文化財調査報告書第2集

佐野　養吉（1980）：「黒川氏の史實」『仙臺郷土研究』ｐ641～646、仙台郷土研究会

須田　良平（1992）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書第146集

須田　良平（1993）：「下草古城跡」宮城県文化財調査報告書第154集

平　　重道（1973）：「伊達治家記録二」、宝文堂

高橋　浩二（1993）：「江上Ａ遺跡」『東日本における古墳出現過程の再検討』P34～36、日本考古学協会1993年度新潟大会シンポジウム2

次山　　淳（1992）：「塩釜式土器の変遷とその位置づけ」『究班』埋蔵文化財研究会

辻　　秀人（1993）：「東北南部の古墳出現期の様相」『東日本における古銭出現過程の再検討』日本考古学協会1993年度新潟大会シンポジウム2

永井久美男（1994）：「中世の出土銭－出土銭の調査と分類」、兵庫埋蔵銭調査会

丹羽　　茂（1983）：「今熊野遺跡」宮城県文化財調査報告書第104集

藤沼邦彦・神宮寺千恵（1992）：「宮城県における一括出土の渡来銭」東北歴史資料館研究紀要第18巻

渡辺信夫・大藤修ほか（1977）：「大和町史」下巻

写　真　図　版

遺跡全景（北東から）

24区全景

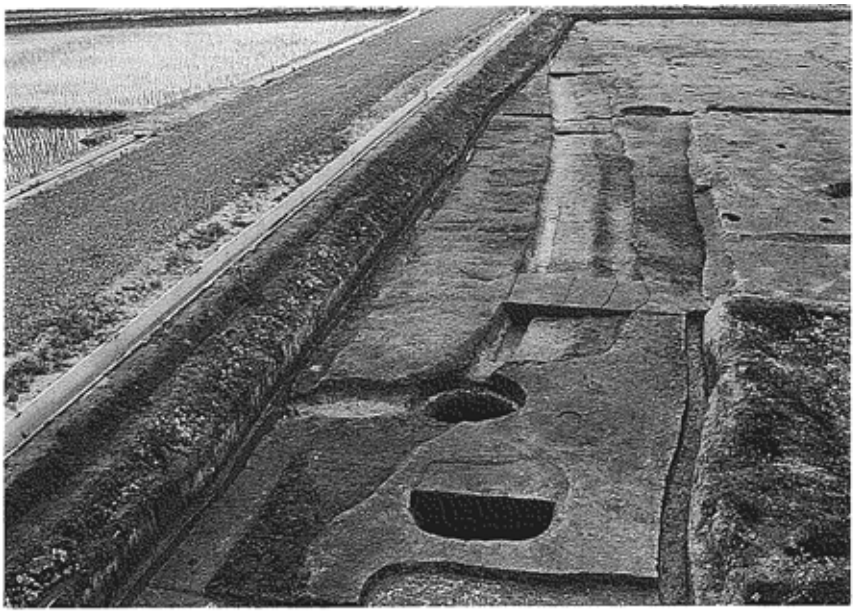
写真図版 1

24区東側

24区西側

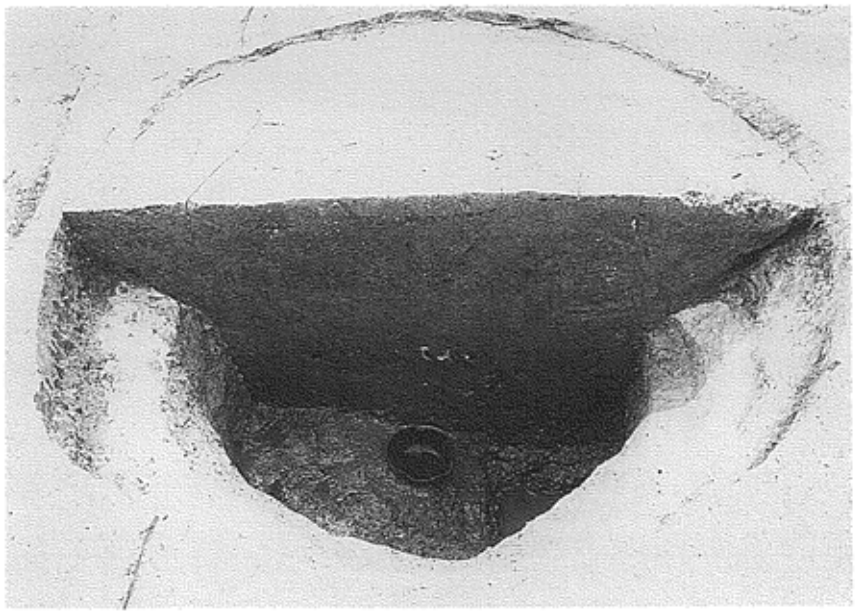
写真図版 2

24区西端
SD900ほか
（南から）



24区
SX919集石遺構
（東から）

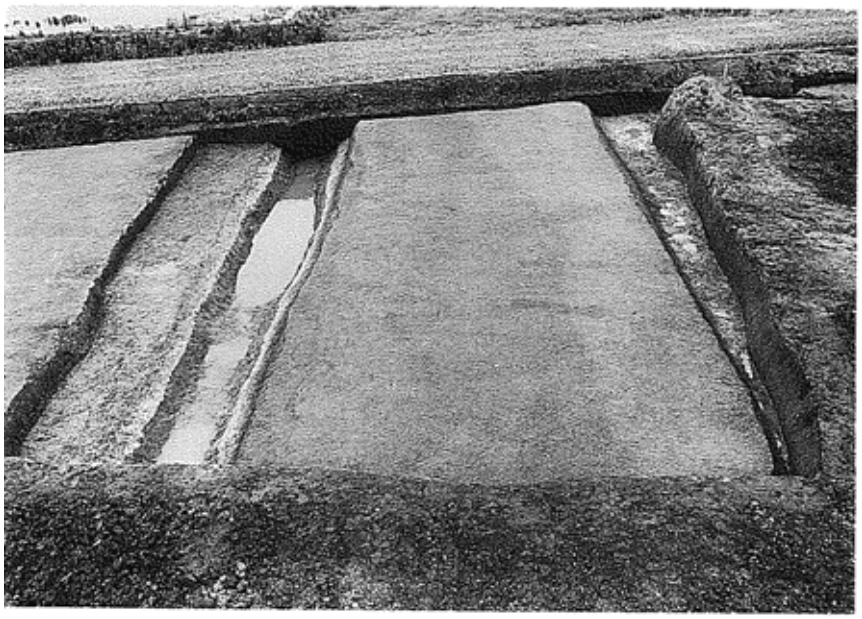
24区
SE914
曲物出土



写真図版 3

24区
SD660ほか
（東から）

24区
W180 S60付近近景
（東から）

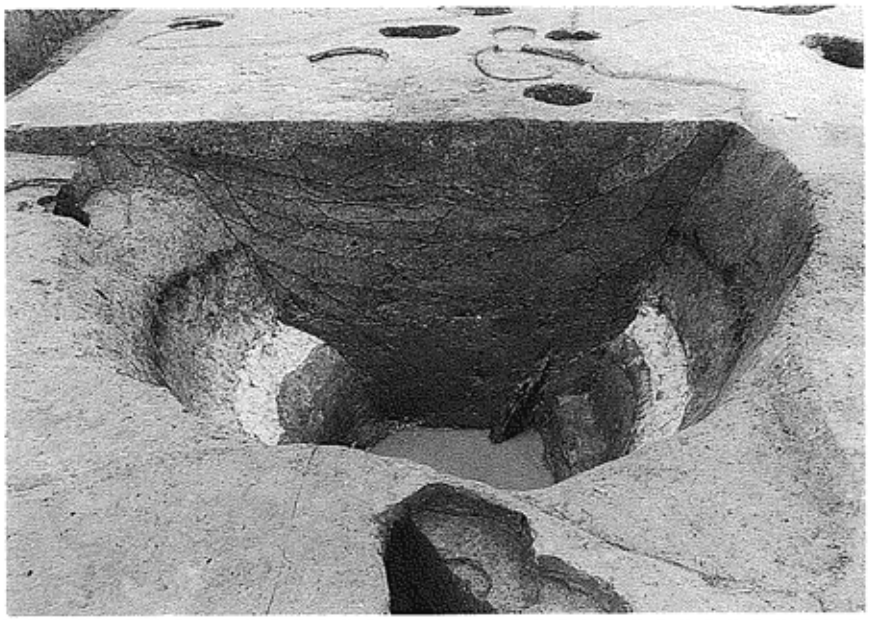


24区
SX987道路跡
（南から）

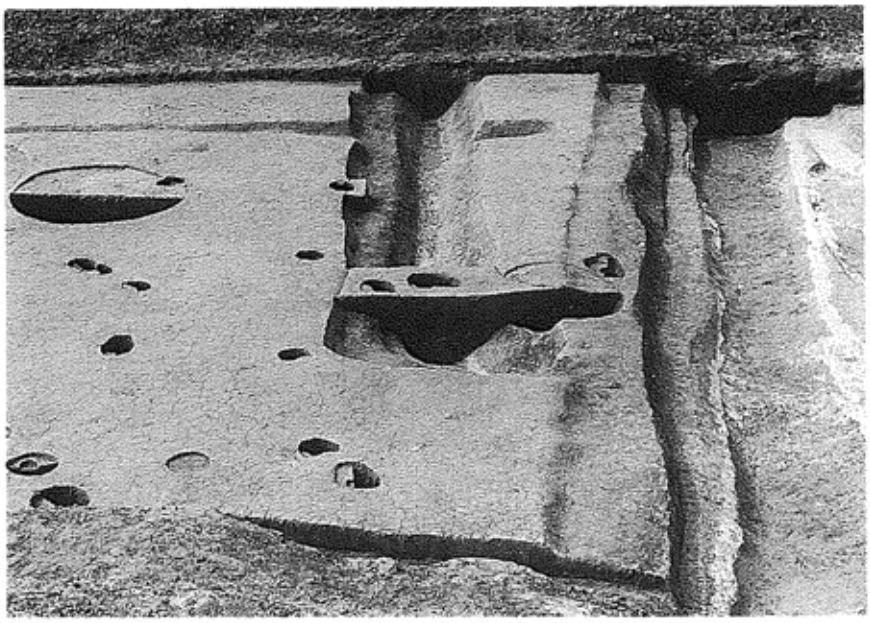
写真図版 4

24区
W120～130付近
（南から）

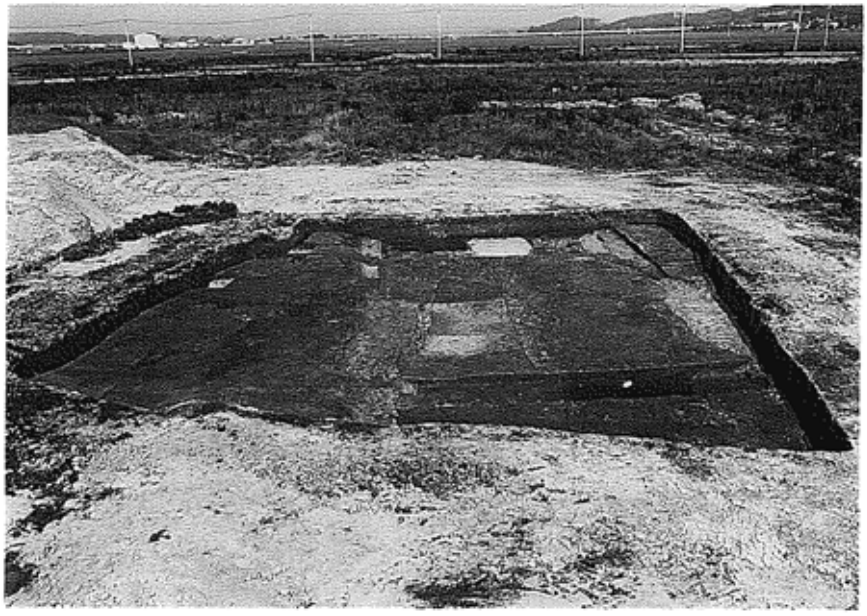
24区
SE967井戸跡
SX968整地層
（東から）



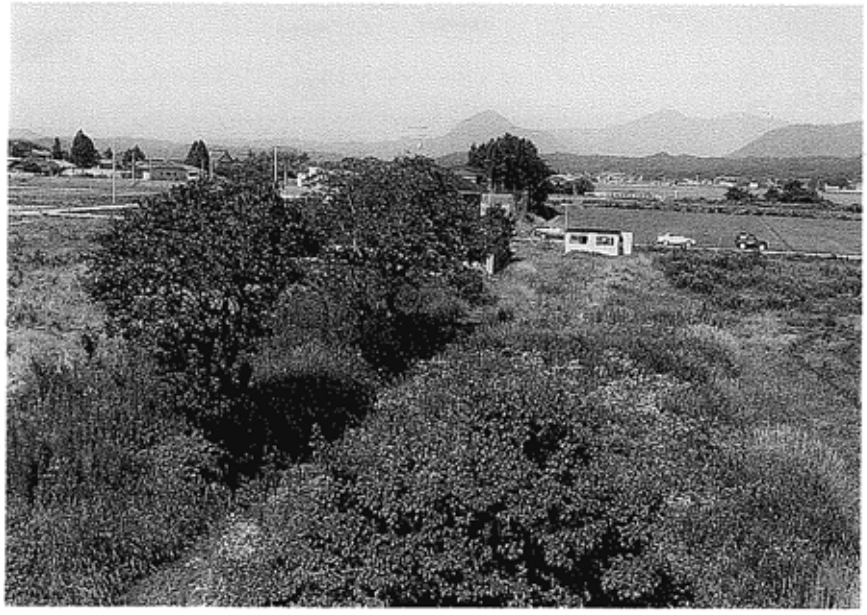
24区東端
（南から）



写真図版 5



25区全景
（西から）

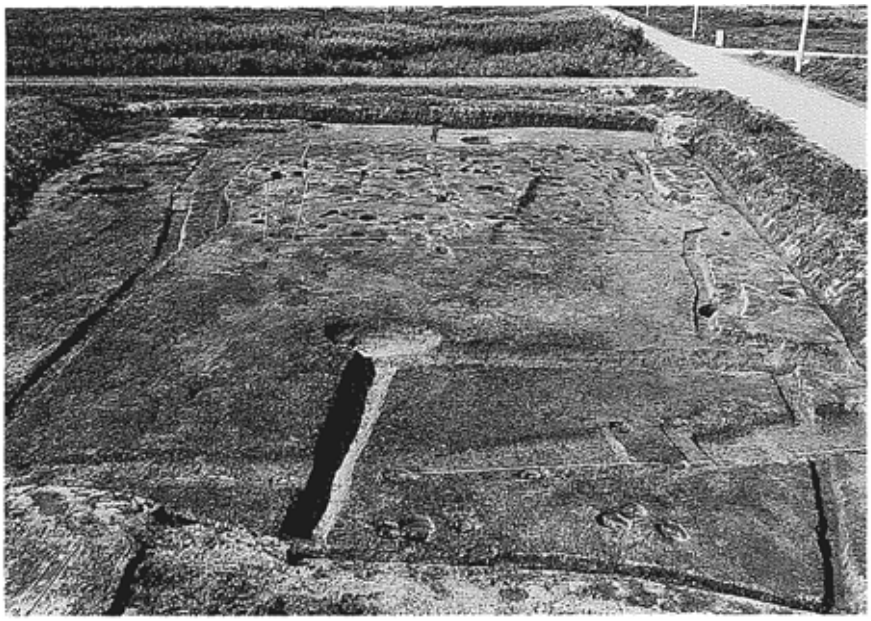


26・27区
調査前近景
（東から）

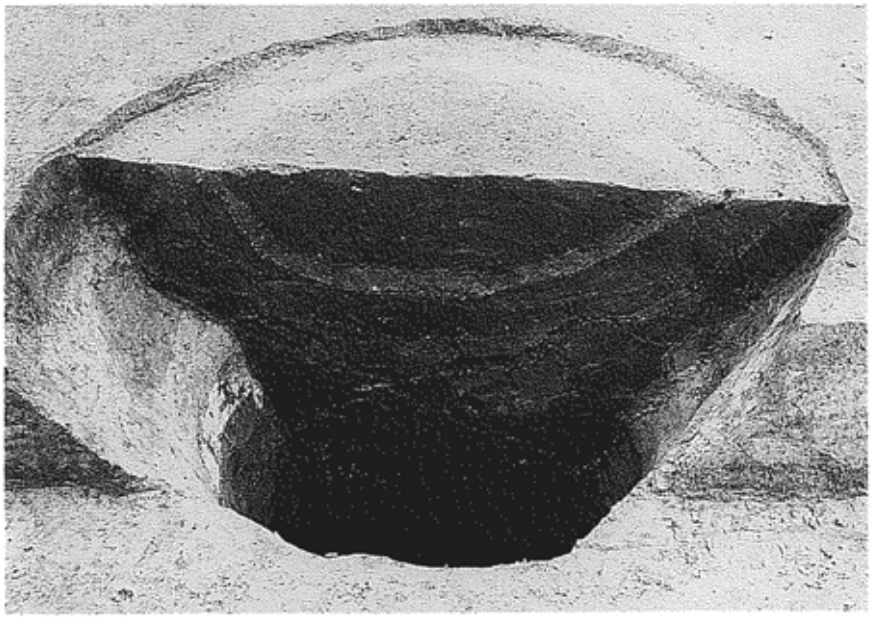
27区
N-トレンチ
（北から）

写真図版 6

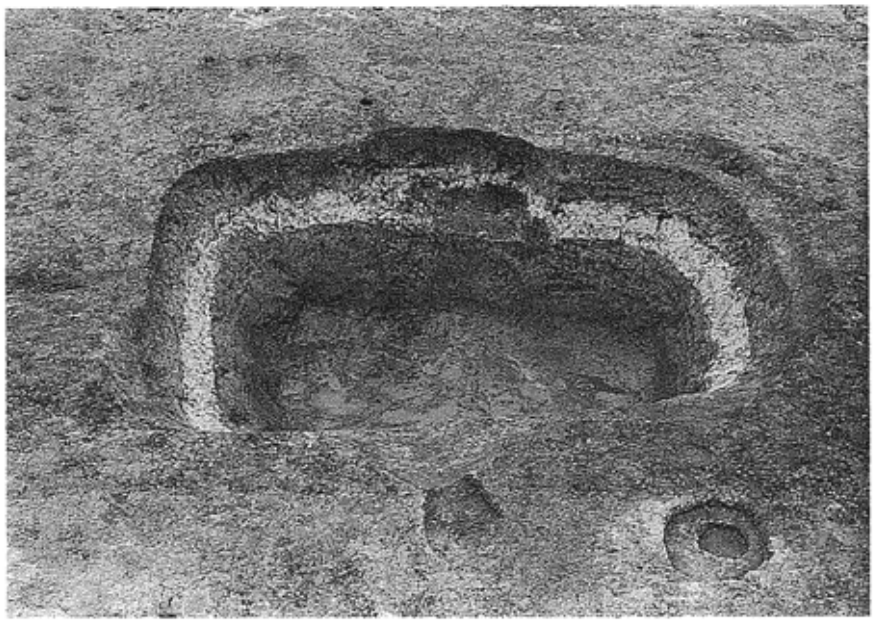
28区全景
（南から）



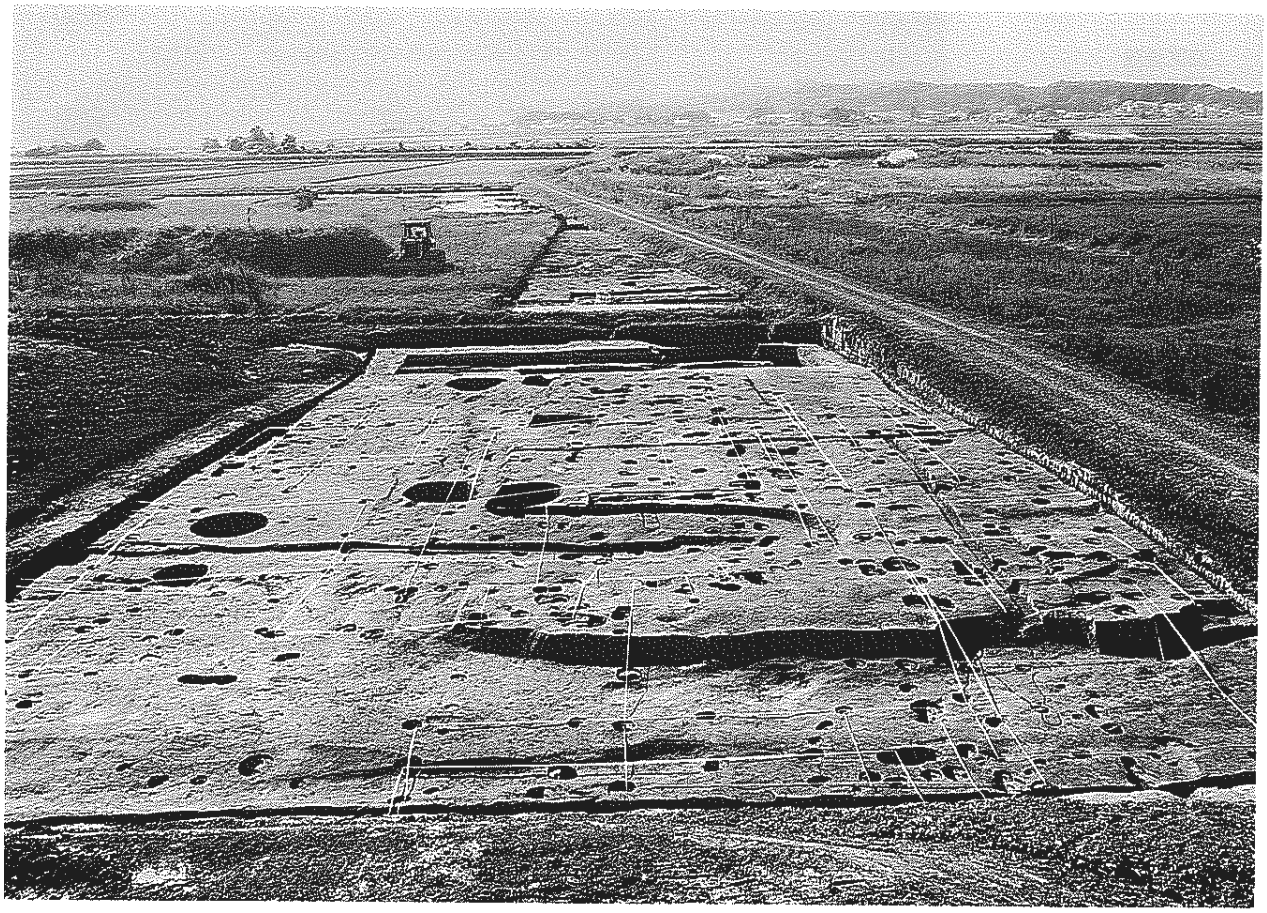
28区
SE1028
（西から）



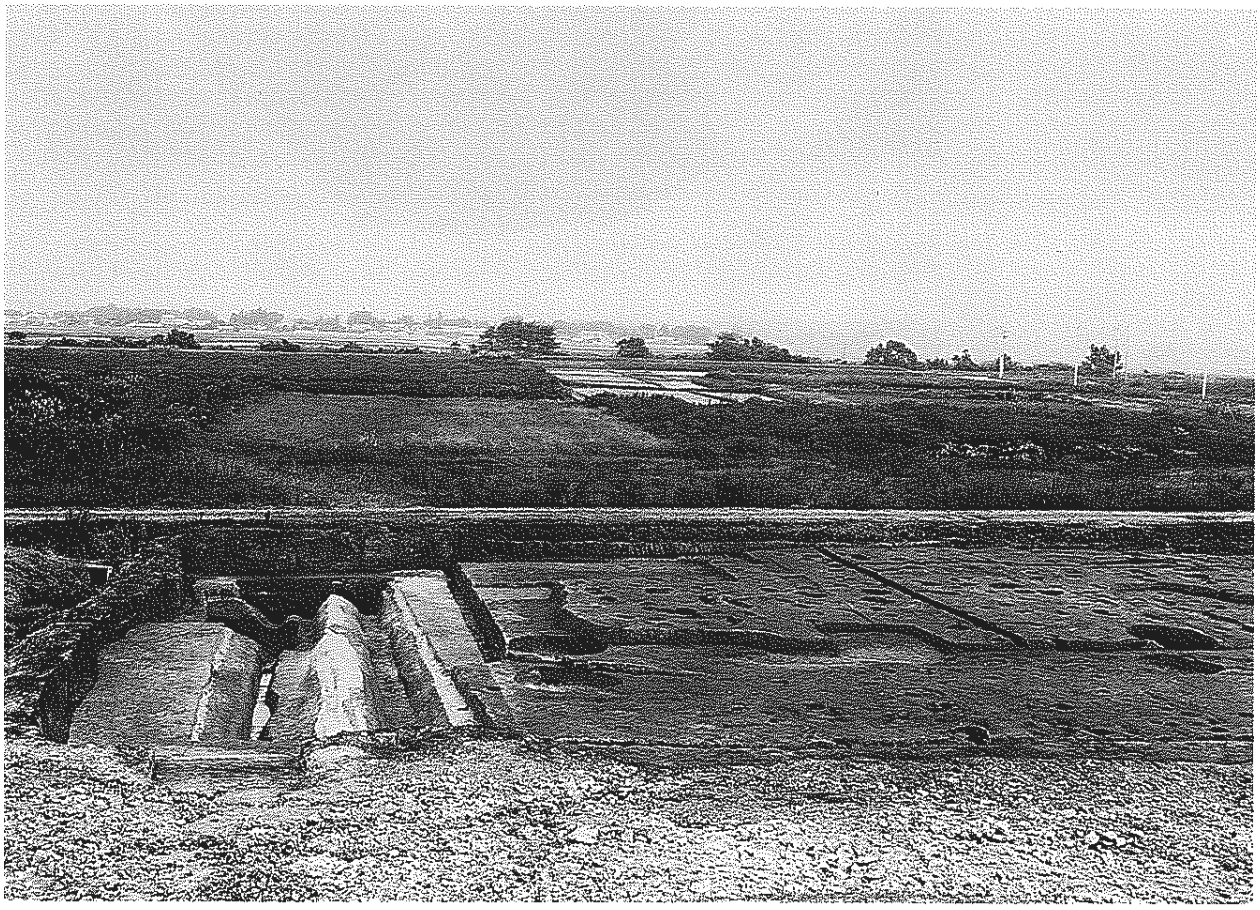
28区
SX1033竪穴状遺構
（西から）



写真図版 7



29区全景（東から）



29区西端（南から）

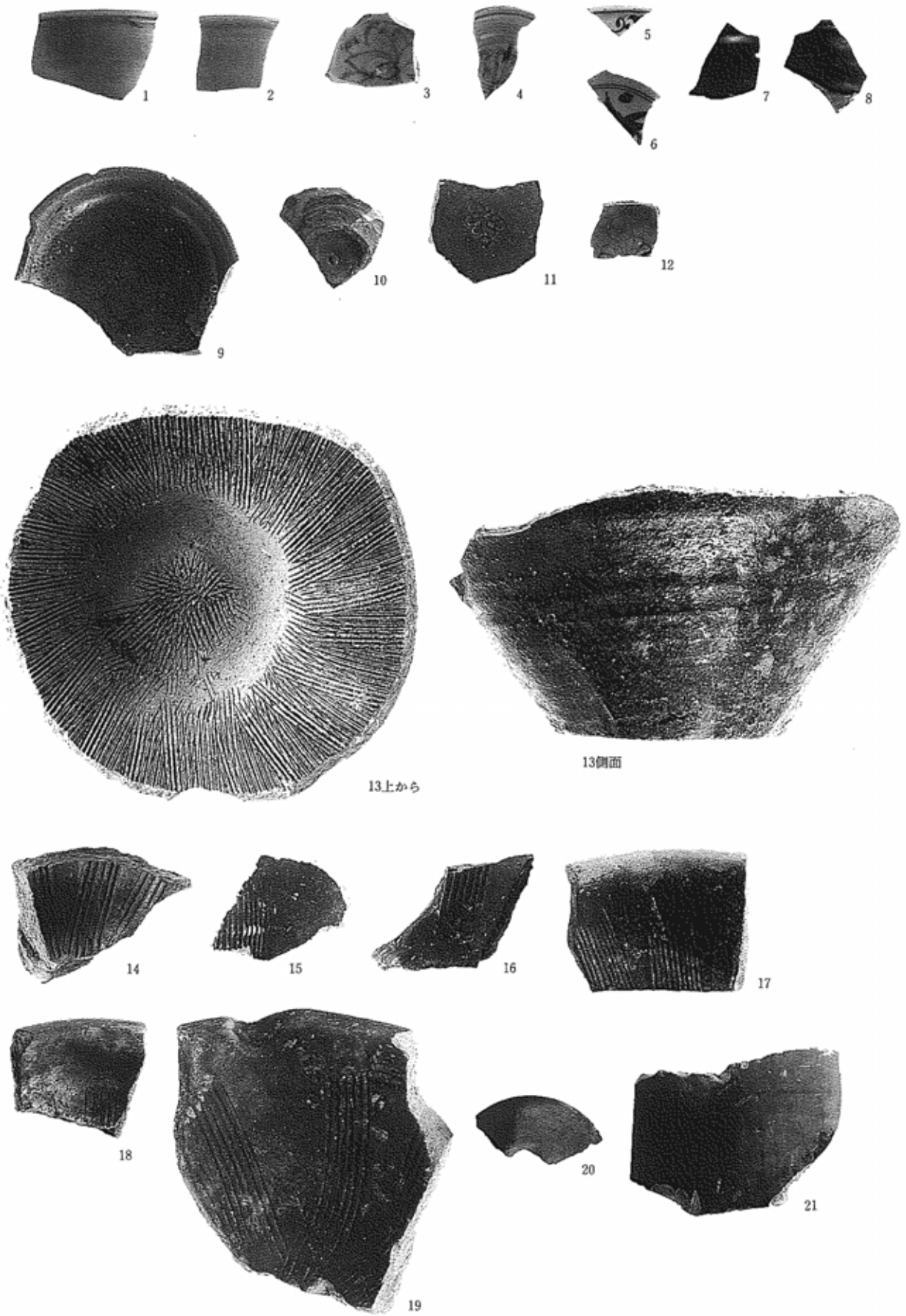
写真図版 8

24区
SX1000古墳時代前期
土器集中地点
第10地点

24区
SX1000古墳時代前期
土器集中地点
第10地点

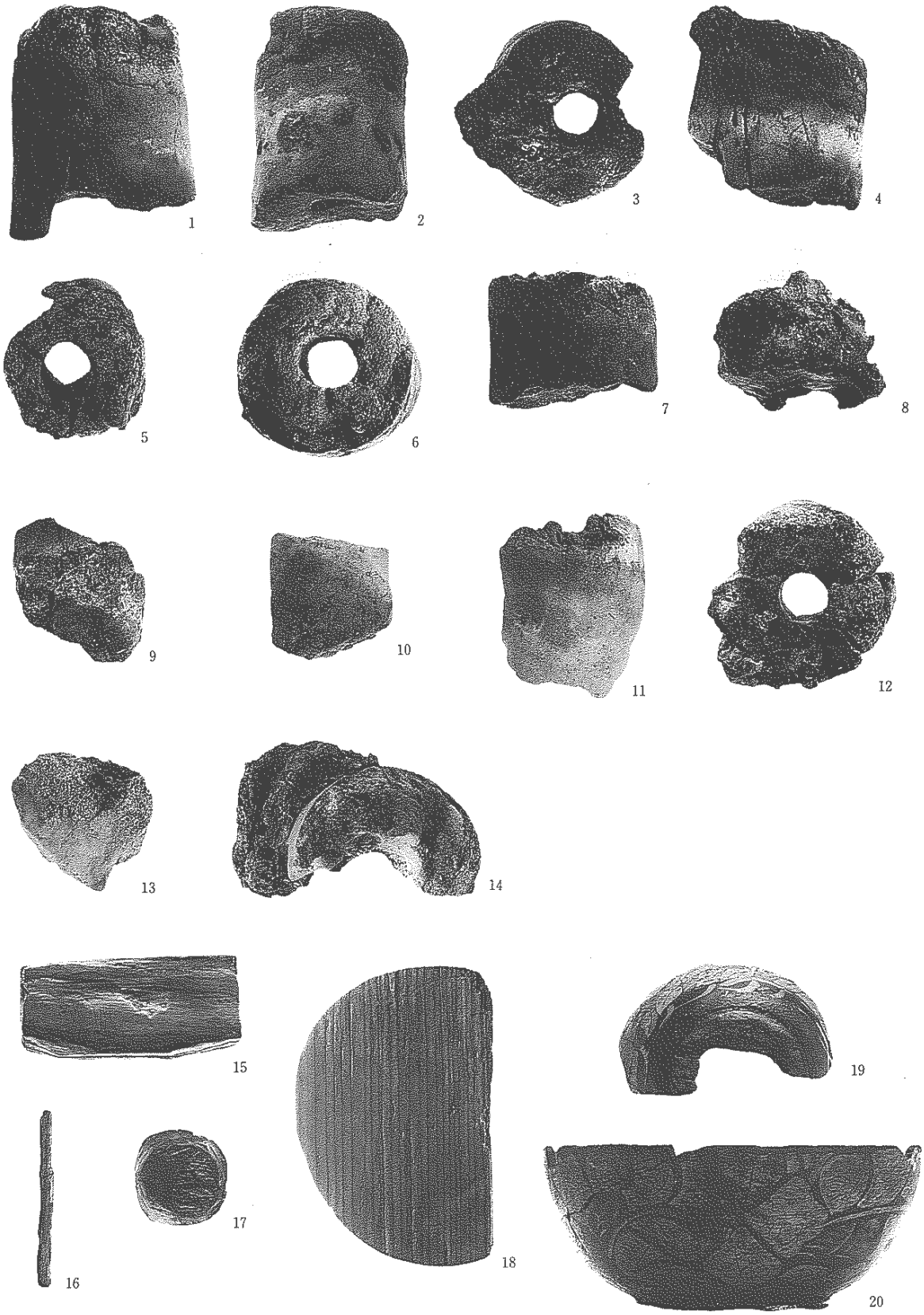
24区
平安時代水田跡
（東から）

写真図版 9



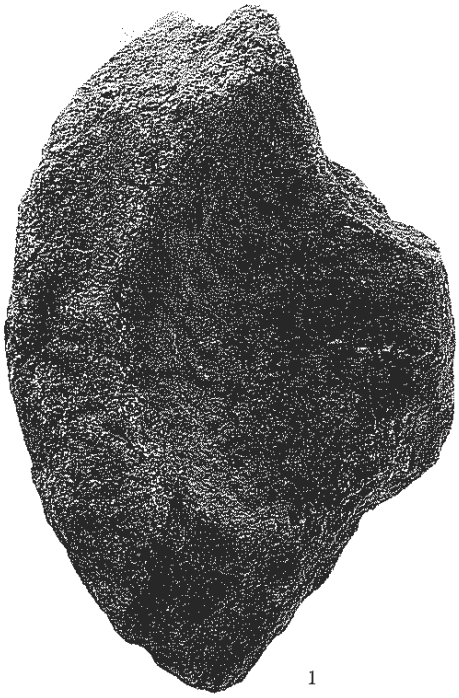
陶磁器類　摺鉢

写真図版10

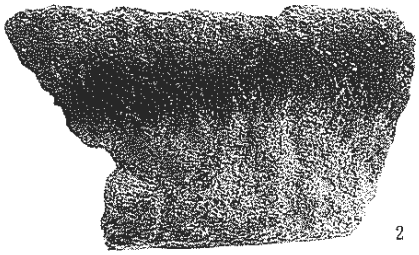


土製品・木製品

写真図版11



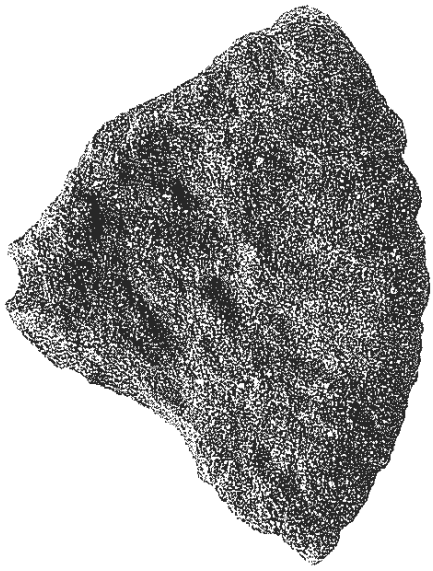
1



2

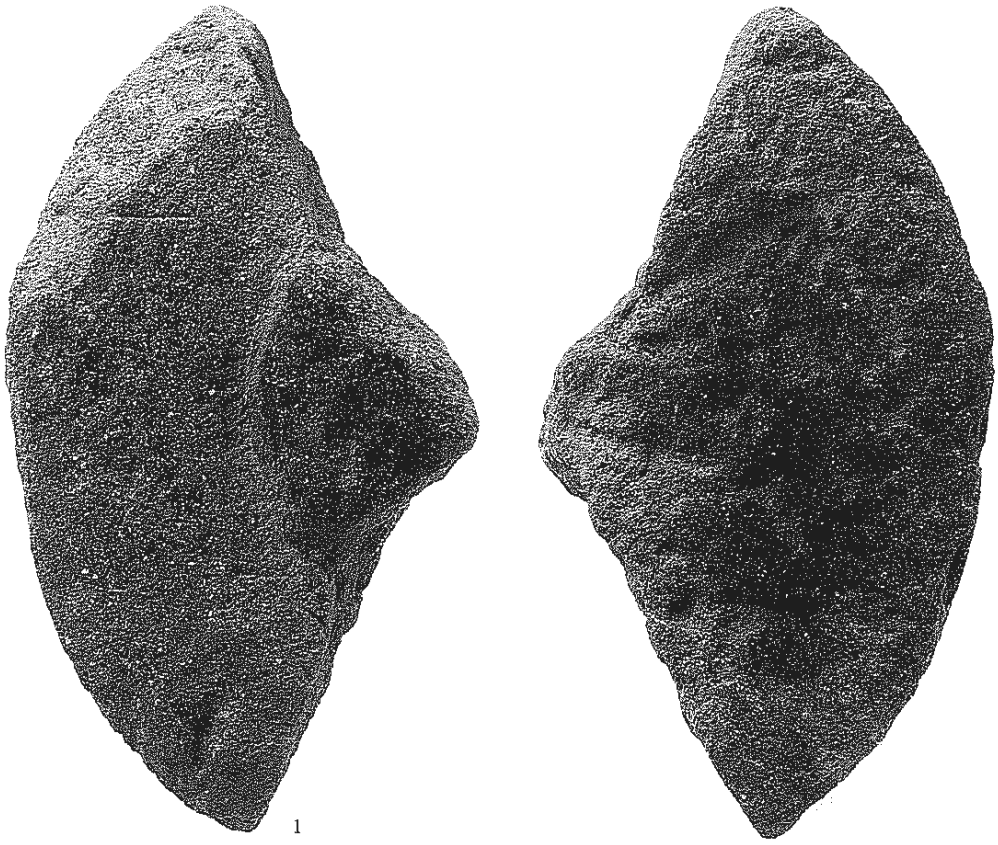
3

4

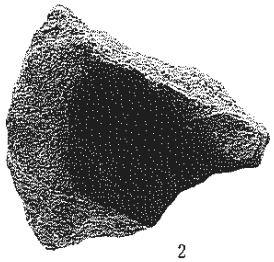


石製品（1）

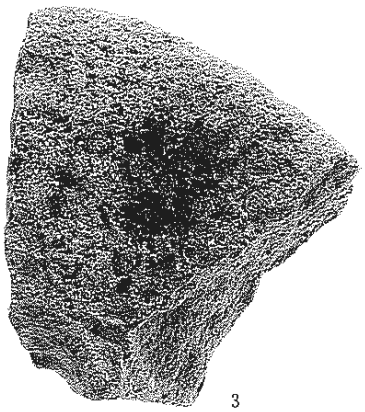
写真図版12



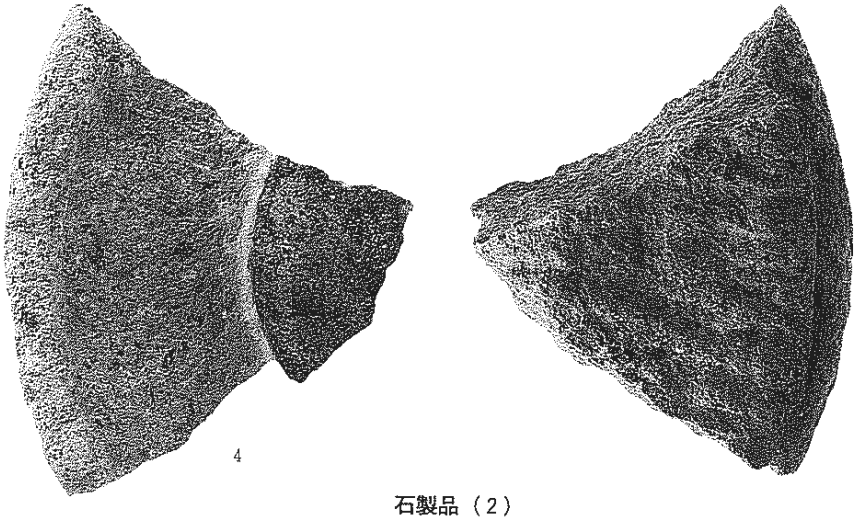
1



2



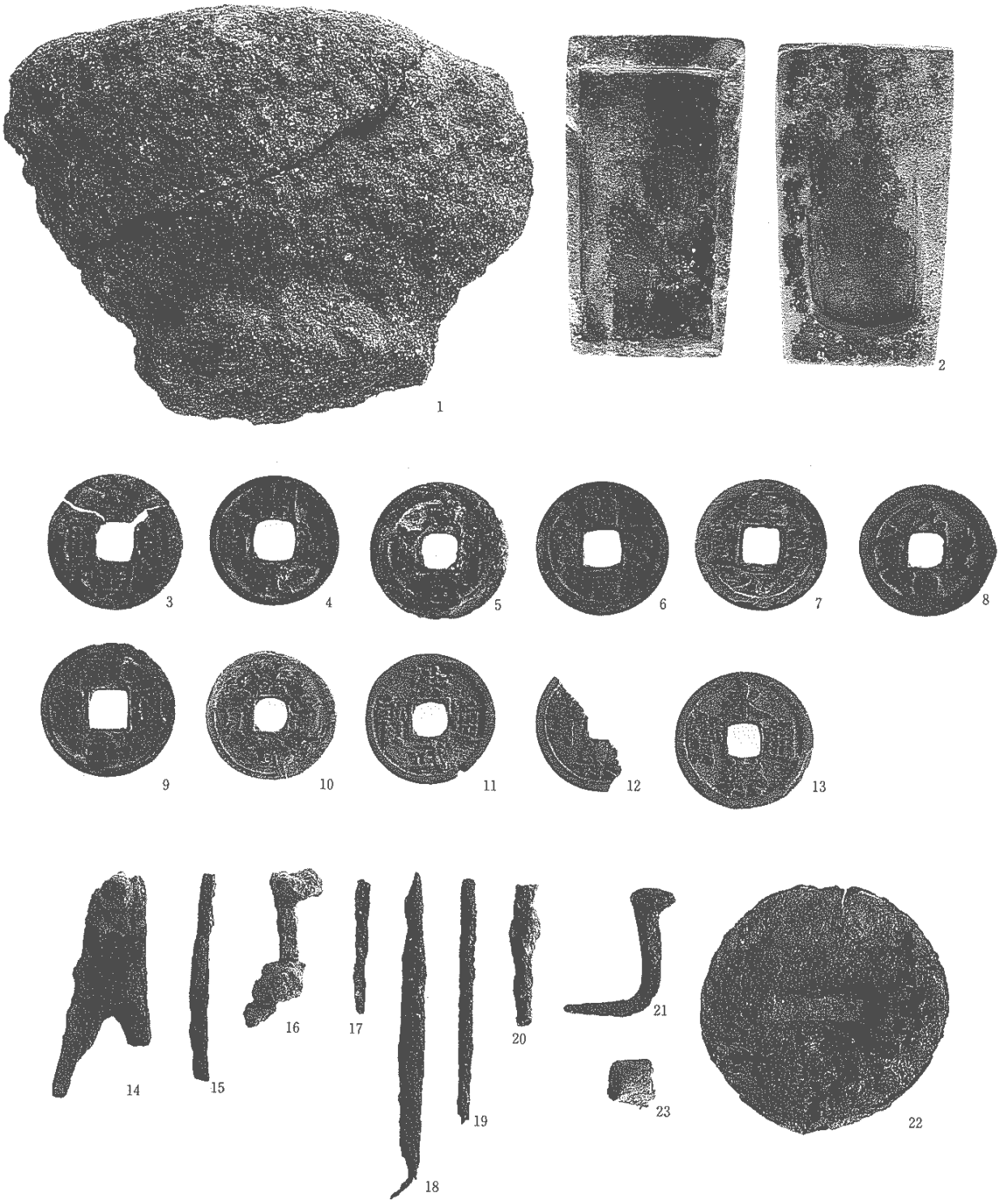
3



4

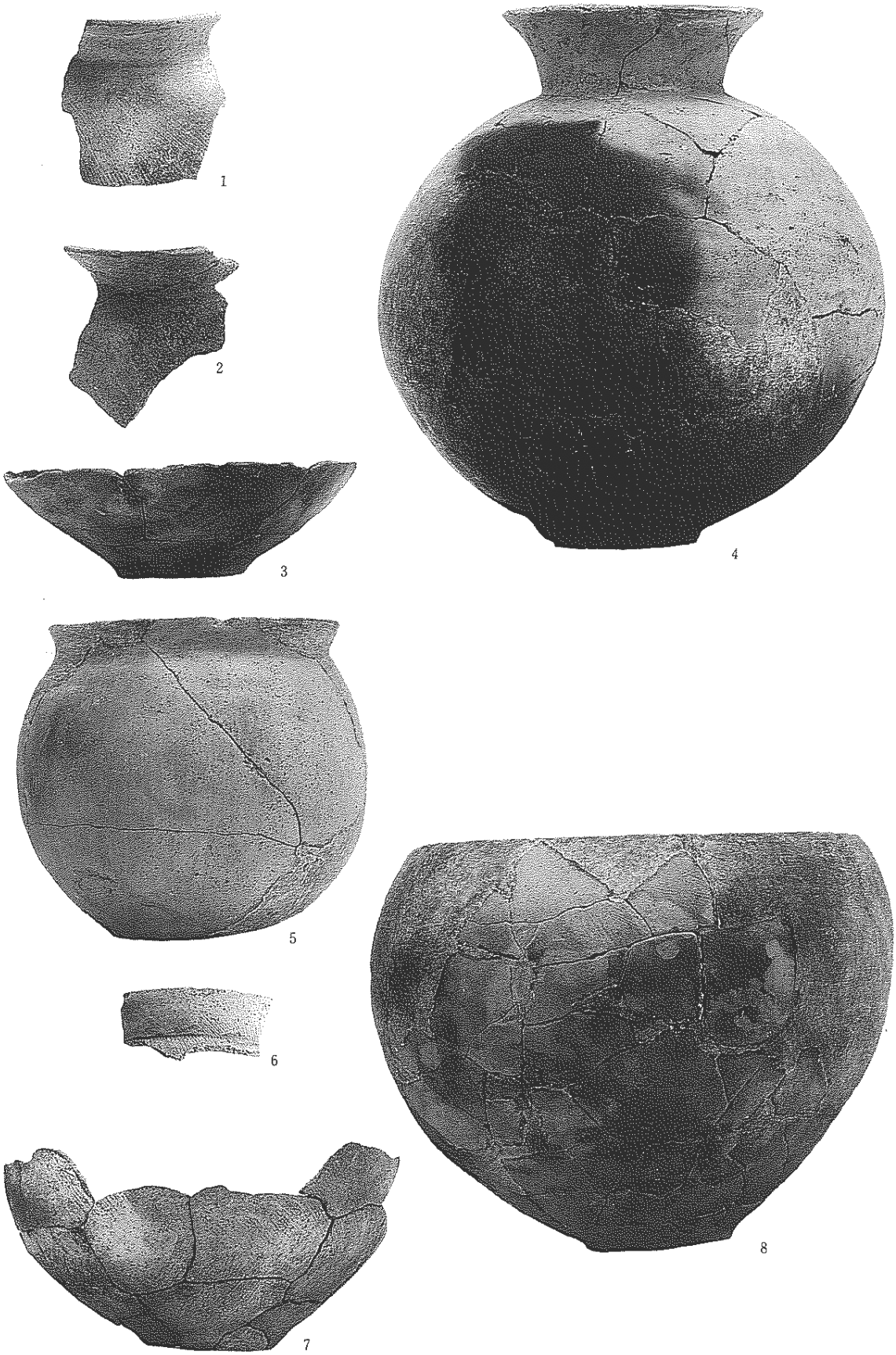
石製品（2）

写真図版13



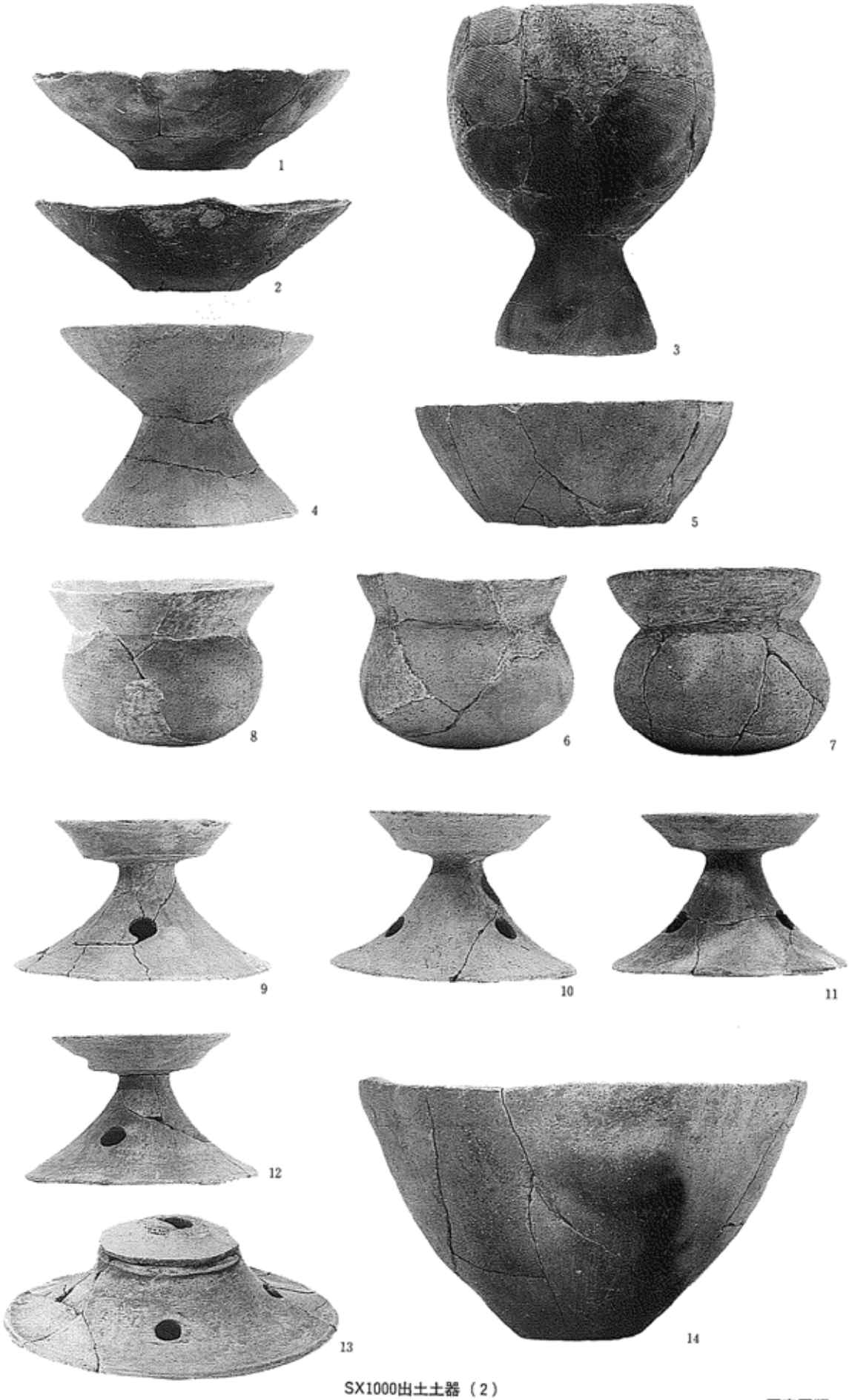
石製品　古銭・金属製品（古銭・硯は実寸大）

写真図版14



SX1000出土土器（1）

写真図版15



SX1000出土土器（2）

写真図版16